

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

内閣文庫		
画	六八二七	和書
架	一冊	號

和書  
六八二七號  
一冊  
架

庫文閣内	
函	和書
架	六八二七號
	一冊

11827

392
2

思想戰展覽會記錄圖鑑



二月二十二日 秩父宮殿下の臨台



二月二十二日 陽賀宮殿下 陽賀妃殿下 陽賀若宮殿下の臨台



相首衛近の觀参日六十月二



將大木荒の觀参日三十二月二

# 任重而道遠

文彦

本展覽會の爲に  
特に揮毫せられ  
たる近衛首相の  
書

## 思想戦に就て

内閣情報部長 横 溝 光 暉

今まで「戦」と申しますと、それは武力と武力との戦、即ち所謂武力戦が殆ど全部であつたといつても過言ではありません。ところが近代になりましてからは、平時戦時の明確な區別が次第になくなつて参りました。戦は平時から經濟、外交、思想等あらゆる方面に於て行はれてゐる様な状態であります。そこで私は思想戦といふものゝ重大さを廣く皆様に認識して戴きたいのであります。思想戦といふ言葉はお解り難いことと思ひますが、思想戦は平時といはず、戦時事變といはず、常に絶えず行はれてゐる「武器なき戦ひ」であります。之を戦時事變で申しますならば、思想戦は相手方に我が正義の存する所を傳へ、我が威力を識らせて其の戦意を喪はせ遂には我に歸一させ、又第三者の認識を是正し其態度を有利に展開させて戦争目的を達成する爲に用ゐられる手段であります。即ち戦場に在つては戦線の崩壊を促進させ、敵國內に對しては戦争遂行の意思を挫折させ、第三國に働きかけては戦争を有利に終結へ導く爲に用ゐられるのであります。さて思想戦は世界大戦の時に盛んに行はれました。世界大戦は武力戦から經濟戦へ、經濟戦から思想戦へと移つた、而も思想戦が大なる威力を發揮して武力戦をさへ壓したと謂はれる位であります。今回の支那事變に於きましても、思想戦は盛んに行はれてゐるのであります。それでは平時

に於ける思想戦とは何かと申しますと、それは我が方の正しいと信ずる考へを彼に傳へて彼の迷蒙を解き、彼をして我に歸一し同一の理想實現に嚮はしめる爲の手段であります。平時の思想戦に敗れた國家は、武力戦を俟たずして敵に屈伏せねばなりません。世界何れの國に於ても、夫々その國が正しいと確信する國是、或はその國が利益と信ずる政策を以て世界の全人類を自國の主義に融合させ様として思想戦の手段を用ひて居ります。以上は主として攻撃・攻勢の觀點から思想戦を觀たものであります。同じく「思想戦」と申しましても、武力戦と同様にその裏には防禦・防衛といふ作用のあることは勿論であります。相手國の我に對する思想攻撃に對して自國の國民精神を總動員して以て自國の國家意思、その國是、國策乃至は自國の國民生活を防衛することとは思想戦に於ける顯著なる防衛の一部面であります。よく「謀略」といふ言葉が一般に使用せらるゝに至りましたが、思想謀略とは思想戦に於ける邪道の方面を指すものであつて、之に對しては正道ともいふべき戦の本道が存することを忘れてはなりません。國によつては思想戦を専ら陰險、隱密、惡辣なる謀略を主にして展開するものもありますが、我が國の主とする思想戦は正々堂々俯仰天地に愧ぢざる底の正道を堅持するのは茲に私の申上げるまでもないことと存じます。今まで共產主義が如何に我が國に押し寄せて來てゐるでせうか、又如何に我々は之と戦ひつゝあるでせうか、皆様の既に御承知の通りであります。我々は日本精神といふ彈丸を以て之を打ち返さねばならぬのであります。防共協定の堅い握手もコミンテルンの攻勢に對する防衛の共同戦線であります。今回の支那事變の大きな原因として私達は赤い手の動きをまざまざと見たのであります。思想戦は平時から世界に渦巻いて居るのであります。

世に宣傳戦と申しますのは、此の思想戦の中の技術的な部門を擔當するものであります。而もこれは極めて大きな部門であります。故に、動もすれば思想戦即ち宣傳戦とさへ考へられる程であります。寔に宣傳の威力といふものは驚くべきものでありまして、宣傳といふものが、如何に戦争の勝敗を決する重大原因であつたかは、世界大戦が之を如實に示しました。「金」と「鐵」と「紙」とは國防の三大要素だと言つた人があります。「金」は財力、「鐵」は武力、「紙」は即ち「宣傳」の力を表徴したものであります。近代の戦は寔に國家の總ての力を以てするものでありまして、今や所謂國家總力戦の時代といふべきであります。その中で思想戦は重大な役割を演ずるものであります。宣傳は國家の運命にさへ關與する所の機能を持つことになつたのであります。印刷技術の素晴らしい進歩に依りまして宣傳の威力を表徴するのに「紙」を以てすることは寔に尤もなことであります。併し最近では聊か物足らぬ感が致します。それは思想戦に躍る無電の目覺しい活躍があるからであります。今回の事變では南京から宋美齡が行つた對米放送は、米國は勿論全世界に異常な反響を與へたといはれて居ります。然らば宣傳とは何ぞやと申しますならば、宣傳の本義は決して偽りを傳へたり誇大に吹聴したりする邪道的なものではありません。支那のやつてゐるのは、あれは「デマ宣傳」とか「虚偽の宣傳」とかいふべきものでありまして、宣傳はあくまで「或る目的達成の爲に正しい事をその儘に普く傳へて共鳴と理解とを求め」ことであらねばなりません。

今や支那事變は新しい段階に入りました。これから思想戦は一層大切になつて參ります。思想戦に於ける宣傳の威力は益々發揚されなければなりません。而も國民の一人一人は日々の思想戦



の戦士であります。それはどうすることかと申しますと、國民の各自が夫々の仕事の中で、正義日本の眞意を、躍進日本の眞の姿を海外に知らせることも出来ますし、日本精神の發揚に貢獻することも出来るのであります。それは平素の心構へ、一寸した工夫で出来る筈であります。私は今後舉國一致して長期戦に對處する爲に、武力戦の戦場に立たぬ國民各自も思想戦の戦士として御活動をお願いしたいと存するものであります。内閣情報部主催の下に思想戦展覽會を催すことに致しました所以のものも、思想戦のかやうな重大性をよく認識して戴きたい爲の一端であります。私も皆様と共に此の重大な思想戦の一兵卒として御奉公致して居ります。皆様の御協力に依りまして使命の達成に遺憾なきを期して居る次第であります。

(二月八日午後七時半東京中央放送局に於ける放送に依る)

## 思想戦展覽會記録圖鑑

### 目次

一、秩父宮殿下・賀陽宮殿下台臨寫眞	一頁
一、近衛首相・荒木大將參觀寫眞	一〇頁
一、思想戦に就て	一六頁
一、展覽會開催經過概要	一七頁
一、展覽會の構成内容	一七頁
一、會場見取圖	一七頁
一、記録寫眞	一七頁
内 譯	
開催趣旨	一九頁
日本精神の昂揚	一九頁
燦たり日本精神	二〇頁
思想戦とは何か	二〇頁
宣傳思想の發達	二二頁
内閣情報部・獨・伊宣傳省の組織	二四頁

防共協定より見たる現代世界思想の動向	二五頁
世界大戦と宣傳戰圖表	二六頁
世界大戦と宣傳戰(デオラマ)	二七頁
スペインの動亂と思想宣傳戰	二九頁
東亞を襲ふ世界思想の諸勢力	三〇頁
我國に於ける政治思想の消長	三一頁
佐野、鍋山の上申書及轉向書	三二頁
共產主義華かなりし頃	三三頁
無政府主義の非合法出版物	三四頁
甦つた赤化村	三五頁
轉向者の甦生	三六頁
ムソリーニの書翰	三七頁
支那の抗日諸資料	三八頁
事變前に於ける抗日雜誌	三九頁
抗日團扇、抗日枕覆	四〇頁
抗日バツヂ	四二頁
抗日教科書	四三頁
愛國女子中學生徒の作文	四六頁
抗日ポスター	四七頁
パリに於ける支那共產黨の抗日出版物	四八頁

事變後の諸資料	五〇頁
抗日畫報	五一頁
抗日雜誌の群れ	五二頁
抗日漫畫	五五頁
シャリー・テンプルに求訴する中國兒童の手紙	五六頁
抗日宣傳に動員された中國兒童の繪畫作品展	五七頁
大上海保衛の宣傳ピラ	五八頁
山西戦線に於ける宣傳ポスター	六一頁
北支に於ける抗日宣傳	六三頁
救國公債募集ポスター	六四頁
抗日書籍片々	六五頁
大バノラマ「支那事變と思想戰」	六九頁
コミンテルンの魔手を發く	七〇頁
ソ聯のポスター	七三頁
ソ聯赤軍の政治作業の一端	七八頁
支那共產黨の反國民黨運動	七九頁
共產黨の自己宣傳	八〇頁
支那共產軍の蠢動	八一頁
第八路軍の活躍	八二頁
朝鮮共產黨の暗躍	八三頁

ソ聯の對日本宣傳物	八四頁
アメリカ、上海共產黨が發行した日本文赤化文書	八五頁
共產黨及人民戰線派の宣傳書籍類	八六頁
現地に於ける我方の宣傳宣撫工作	八八頁
我軍の戰線に於る空中宣傳	九〇頁
新支那建設運動の胎動	九三頁
皇澤外地に於し	九六頁
抗日デマの正體	九七頁
通信報道戰線の華	一〇一頁
對世界通信網	一〇二頁
ニユース宣傳と思想戰	一〇三頁
大電力放送と思想戰	一〇九頁
文化宣傳の全貌	一一〇頁
スパイを防止せよ	一一一頁
國民の一人一人が思想戰の戰士となり得る	一一九頁
國民精神總動員ポスター類	一二〇頁
思想戰展を報道する諸新聞及廣告の一部	一二三頁
一、各省出品目録	一二五頁
二、思想戰展覽會地方開催狀況概要	一三五頁

### 展覽會開催經過概要



昭和十三年十一月下旬時局の重大性に鑑み思想戰の重要性を一般國民に認識せしむる爲、内閣情報部主催のもと思想戰展覽會を開催する事に内定して實行小委員会を組織し、實施の具體的計畫を協議する爲十二月三十一日第一回小委員会を開催し、思想戰展覽會の具體案として左記の要綱を起草せり。

#### 思想戰展覽會要綱(案)

- 一、名稱 思想戰展覽會 内閣情報部主催
- 二、目的 國家ノ興隆ハ國民思想ノ健全ニ在リ、而シテ思想戰ハ現代國際角逐場裡ニ於テ外交戰、經濟戰、武力戰等ト共ニ平時及戰時ヲ通シテ行ハル、鬭爭形態ニシテ其ノ優劣勝敗ハ國家隆替ノ岐ル、所ナリ、仍テ茲ニ思想戰展覽會ヲ開催シ帝國内外ニ渦巻ク思想戰ノ全貌ヲ周知セシメ其ノ重要性ヲ認識セシメ以テ日本精神ノ昂揚ニ努メ濫ニ外來危險思想ニ乗セラル、コトナカラシメントス。
- 三、會期及會場 昭和十三年二月中旬ヨリ約十日間……………日本橋高島屋ニ於テ開催
- 四、實施要目
  1. 日本精神ノ象徴 高遠抽象的ナル表現ト共ニ卑近具體的ニ表現ス
  2. 思想戰ノ意義

思想戦ノ重要性(例へば西班牙ニ於ケル人民戦線ト國民戦線ノ對照、思想戦宣傳ニ關スル内外文献ヲ併セ展示ス)

宣傳ノ本義

日露戦争當時ノ宣傳戦

世界大戦ニ現ハレタル各種宣傳戦ノ様相及宣傳資材(對敵國宣傳、對第三國宣傳、對國內宣傳)

大戦時及大戦後ニ於ケル露、獨、伊ノ革命ノ宣傳的場面

コミンテルンノ世界赤化宣傳ノ諸様相

文化的宣傳ノ諸相(文化宣傳、國民外交、觀光宣傳其ノ他)

民衆運動及労働爭議ノ宣傳ニ依ル展開

我國ニ於ケル政治思想犯ノ消長(國際思想戦トノ對比)

3. 支那事變ヲ中心トスル思想戦  
事變以前

支那ノ排日教育、抗日運動

中國共產黨及紅軍

蘇聯ノ東洋謀略

事變以後

我國ノ對支及國際宣傳諸工作

支那ノ國內國際宣傳ノ諸工作

支那ノデマノ正體

戦線(野戦及陣地戦)及敵後方ニ於ケル彼我諸工作

我方宣傳工作

4. ニュース宣傳ノ様相

世界通信網

同盟通信社ノ組織網

電波通信ノ様相(電信放送及放送電話)

5. 列國政府ノ宣傳機構ノ展望

獨逸宣傳省

伊太利宣傳省

6. スパイ戰ノ様相

スパイノ潛行密動ノ諸様相

防諜心得

7. 國民精神總動員運動

國民精神總動員ノ意義及目的

該運動ノ展開諸相

右要綱に基き各省に資料出品方を依頼する事となり昭和十三年一月六日午後零時二十分より各省文書課長會議を當部内に於て開催し各省の援助を求め、一月十日高島屋に於て思想戦展覽會の会場設備に就き第一回の打合會を開催せり。

次で一月十三日在京八社事業部長の協力を求め、同月十四日午後各省關係官、十五日には當部參與、十六日には報道通信取締關係官會議に於て説明援助を求む。

かくして一月十七日高島屋に於て思想戦展覧會の具體的設計設備等に關する決定的會合を行ひ、次の如く諸項の決定をみるに至れり。(但しこの諸項は實施に當つて順序、展示方法等變更あり、詳細は展覧會の内容の項参照)

記

- 一、名 稱 武器なき戦ひ、世界に渦巻く思想戦展覧會
- 二、主 催 内閣情報部
- 三、會 場 東京・日本橋高島屋八階催場北四筋及ホール
- 四、會 期 二月九日より二十六日まで (但しホールは九日―十一日まで)
- 五、目 的 國家の興隆は國民思想の健全に在り。而して思想戦は現代國際角逐場裡に於て外交戰、經濟戰、武力戰等と共に平時及戰時を通じて行はるゝ闘争形態にして、其の優劣勝敗は國家隆替の岐るゝ所なり。仍て茲に思想展覧會を開催し、帝國内外に渦巻く思想戦の全貌を周知せしめ、其の重要性を認識せしめ、以て日本精神の昂揚に努め濫に外來危險思想に乗ぜらるゝことなからしめんとす。

(4)

## 六、實施要目

1. 日本精神の象徴 立案 文部省  
高遠抽象的なる表現と共に、卑近具體的に表現す。
2. 思想戦の意義 立案 内閣情報部  
イ、宣傳の本義  
ロ、思想戦の重要性  
ハ、宣傳思想の發達

3. 世界各国思想分布大地圖 立案 高島屋
4. 世界大戰に於ける宣傳戦の様相 指導 内閣情報部  
立案 高島屋  
イ、對敵國宣傳  
ロ、對第三國宣傳  
ハ、對國內宣傳  
ニ、世界大戰に於ける列國の宣傳組織  
(参考 右は圖表を以て示す)
5. 大戰時及大戰後に於ける露、獨、佛の革命煽動の場面  
(参考 イロハ各項共に「チオラマ」として出品)
6. スペインに於ける人民戦線、國民戦線の宣傳 立案 内閣情報部
7. 日本を繞る思想戦の諸様相  
イ、コミンテルンの世界赤化宣傳の諸様相 立案 内閣情報部  
ロ、我國に於ける政治思想の消長 立案 及出品 司法省  
ハ、對日思想宣傳一覽表 立案 海軍省
8. 支那事變を中心とする思想宣傳戦  
(参考 右の内イ項は「コミンテルンの魔手を發く」として一場面を構成す)  
立案 内閣情報部  
出品 内閣情報部、外務省、陸軍省、海軍省

(5)

A 事變以前

- イ、支那の排日教育、抗日運動
- ロ、中國共產黨及紅軍の活動

B 事變以後

- イ、事變に於ける支那側宣傳
- ロ、支那のデマの正體
- ハ、戰場に於ける宣傳戦
- ニ、我方の宣傳工作

(参考) A 項のロは「コミンテルンの魔手を發く」の場面に移す、A 項イ中の排日教育及 B 項ハ、ニはパノラマとして展示、B 項ロは一場面に獨立す)

9. 今日列強の宣傳組織、立案 内閣情報部、外務省

- イ、内閣情報部の組織

- ロ、獨逸宣傳省

- ハ、伊太利宣傳省

10. ニュース宣傳の様相 立案及出品 逓信省、同盟通信社

- イ、世界通信網

- ロ、同盟通信社の組織網

- ハ、電波通信の様相

(参考) 別に東京に於ける八大新聞社出品による戦死せる従軍記者の遺品を展示、従軍記者の活躍をチオラマとして展示す)

11. 文化宣傳様相

立案 國際觀光局

- イ、文化宣傳

- ロ、國民外交

- ハ、觀光宣傳

(参考) 右の内ロ項は「國民の一人一人が思想戦の戦士となり得る」の場面として展示、對外貿易商品に依る宣傳の試みも附加さる)

12. スパイ戦の様相

立案 憲兵司令部

- イ、防諜戦に備へよ

- ロ、防諜心得チオラマ

13. 國民精神總動員運動 立案 國民精神總動員中央聯盟

- イ、國民精神總動員の意義及目的

- ロ、該運動の展開諸相

(参考) 以上の外拓務省の立案出品による臺灣、朝鮮、樺太、北海道の國民精神總動員運動の狀況が「皇澤外地に治し」といふ場面で出品された)

七、ホー ル (二月九日、十日、十一日)

國民精神總動員強調週間記念講演と映畫の會

二月十日(晝) J・O・A・K の會場放送

二月十一日(夜) 交響曲「東亞の曙」の中繼放送

以上の計畫により各省の積極的協力を得て二月七日出品資料を整備せり。

尙各省出品資料目錄の項を参照せられ度し。

此の間高島屋に於ては宣傳部を總動員して會場の設計に當り二月八日は徹宵完成を期せり。  
尙同日午後七時半より十分間に亙り東京放送局より部長は前掲「思想戦に就て」なる講演を行ひたり。

かくして昭和十三年二月九日午前九時、一般公開に先立ち部長以下参列のもとに修祓式を舉行、其の目的達成を祈願し此處に「武器なき戦ひ、世界に渦巻く思想戦展覽會」は嚴肅に開會せられたり。

## 二、實施經過

思想戦展覽會に關しては二月二日都下各新聞が同展開催の預告を發表し、二月八日即ち開催前日には新聞廣告として大々的に宣傳されし爲、九日開催に當つては開場前既に參觀者は殺到し、身動きならぬ盛況を呈したり。  
會場ホールに於て「支那事變同盟ニュース」、「大アジア建設」、「抗日映畫を發く」等の映畫上映され、續いて舞踊「愛國行進曲」あり。

十日には午前十時ホールに於て部長の展覽會開催に就ての挨拶あり、續いてラヂオコメデイ「或る恐ろしきスパイ」上演せられ、前日と同様の映畫と舞踊の會開催。十一日には十日と同様の映畫と舞踊の會あり、レヅユー「軍國の春」之につゞき、十二日も十一日と同様のプログラムにて演藝と映畫の會を開催せり。

右の如く、參觀者は日毎に増大し一日平均約七萬人の入場者を見るに至れり。右は同展覽會の爲に印刷發行せる週報、寫眞週報、國民精神總動員の趣旨を現はせる繪葉書を參觀者一人一人に配布したる數量に依るものにして、總枚數百萬枚を配布し盡せるを以ても推測せらる可し。會期中三百二名（内譯歐米人二七四名、滿支人二八名）の在留外人の來觀したるは注目せられたり。

更に同展覽會には左記の如く秩父宮殿下を始め奉り各宮殿下の御來場の光榮に浴し、又近衛首相其他名士の參觀

あり、部長以下情報官御案内御説明申上げたり。

記

二月十六日 李健公妃殿下  
二月十九日 竹田宮大妃殿下  
二月二十日 賀陽宮殿下  
賀陽宮妃殿下  
賀陽若宮殿下  
二月二十二日 秩父宮殿下  
梨本宮妃殿下  
北白川若宮殿下  
二月十六日 近衛首相、永野大將、野村大將  
二月十九日 牧野伸顯伯  
二月二十二日 多田參謀次長  
二月二十三日 荒木大將

## 三、閉會及所感

以上の如く盛況を續けたる思想戦展覽會は、會期を一日延長して二月二十七日豫期以上の成果を收め國民に多大なる感激と教訓を與へて閉會せり。かくの如く一大成功の裡に展覽會を終了し得たるは、未だ曾てかゝる展覽會の開催せられざりしこと、其の内容が國民の豫期以上に重大且興味ありたる事と共に、國民が今次事變に於て、思想戦が如何に重要な役割を占むるものなるかを體驗したるに由るものなるべし。

同展覽會に寄せられたる一般國民の所感は何れも皆思想戦の重大なる事を自覺せる旨を述べ、更に全國各地に於

てかゝる展覧會を開催せらるゝことを要望し、かゝる展覧會の内容を印刷物にして出版せられ度き希望を申出たる者多數ありたり。

一般諸新聞も亦同展覧會の意義深き事を賞し、一般國民に進んで參觀す可き事を記載したり。

思ふに今般思想展覧會が充實せる内容を以て國民に展示し得たるは關係各省の熱心なる援助、後援の結果にして、某新聞社の報ずる如く各省總動員の成果なり。茲に思想展覧關係者に對して更に深甚なる感謝の意を表明するものなり。

## 展覧會の構成内容

### 一、圖 面 (別紙)

### 二、會場案内

高島屋八階展覧會會場入口には「武器なき戦ひ、世界に渦巻く」の文字が右側に、左側に思想展覧會、主催内閣情報部の文字がネオンの光もまばゆく輝いてゐる。この入口の向つて左側に思想展覧會の要旨が展示され、右側には日本精神の表徴として大陳列ケースに近衛首相の「任重而道遠」の書、大觀、栖鳳兩畫伯揮毫の國民精神總動員ボスターの原畫に内閣文庫出品の古事記以下日本精神をその儘傳へた古文書が展覧され、大觀畫伯が明治三十二年岡倉天心先生の日本美術院創設に際し感激あふるまゝに筆を揮つた一幅の紅梅花に「堂々男子は死んでもよし」と歌つた和歌二首のある書も時局にふさわし。

併て、入口から順路に従つて參觀すれば、第一に「燦たり日本精神」と題し、天孫降臨の國礎から、敬神、忠、孝、盡忠報國、清明心を適當なるデオラマ式にしつらへて飾り、長くも 明治大帝の御製をその一つ一つに謹掲してある。

次で「思想戦」とは何かの場面であるが、此は二つに分かれ、一つは我國の採る可き思想戦の本義を明かにした

文章を簡明に展示したもので、第二には思想戦の發達をプロバガンダ(宣傳)の英文文字の中に巧みに圖案化した十場面を教へてゐるものである。

續いて獨逸及伊太利の宣傳省の圖解及内閣情報部の組織體系を明かにした圖表が展示され、次に入口正面に當る場所にネオンサインと電光の明滅によつて、誰にも解るやうに圖示された「防共協定より見たる現代世界思想の動向」がある。

此は世界地圖を思想的に色別けをして、その思想的な主要人物の寫眞を掲げ、防共國、容共國は電氣の明滅線で次々と連絡されて行く效果的な構成を示してゐる。

「歐洲大戰と宣傳戦」は先づ大圖表によつて當時の交戦兩國側の宣傳組織及び宣傳機關が圖式に説明され、續いて小パノラマで(A)佛蘭西宣傳局は何をしたか、(B)聯合軍の獨乙側戦線に向けての對敵蓄音器放送、(C)レーニンの封印列車、(D)夜間氣球利用に依る宣傳、(E)佛軍のバリーに於ける暴動、(F)伯林革命、(G)嵐に依る印刷物撒布が小兒にも判る様に展示されてゐる。「スペイン動亂に於ける左右兩翼の思想宣傳戦」は近代戦の特徴としての放送戦を立體圖表化したものである。

次の「東亞を襲ふ世界思想の諸勢力」は、電光の明滅によつて東亞に如何なる思想がどんな方面から襲つて來るかを示したものである。

之に隣りして司法省出品は左翼運動華やかかなりし頃の非合法出版物の數々に轉向者の手記其の他各種の思想統計等を配して壁面を飾つてゐる。

轉向者の手記の中には佐野學や鍋山貞親の轉向書及今次事變に際しての上申書等今日迄司法省門外不出の資料が展覧されてゐる。

次に保護觀察所出品の各種資料があるが、此は餘り世に知られてゐない思想善導事業を展示したもので、赤化の爲荒廢に歸した豊住村が一巡査の獻身的努力によつて再び明朗な模範村にまで復興して行く小パノラマは、特に興



味深いものがある。

この他轉向者の事變に於ける愛國精神の發露を示す資料があるが、特に今次聖戰に皇軍の一下士官として出征名譽の戦死を遂げ護國の鬼となつた轉向者石澤伍長の遺品などは無言の裡に我國の世界に比類なき特性を顯示して餘りあるものである。今次事變は日本全土の國民の一致協力に依つて戦はれてゐるのであるが、その一端を示すものとして「臺灣外地に浴し」の場面に依つて、朝鮮、臺灣、樺太の同 一統後の活動が寫眞其他の資料に依つて如實に物語られてゐる。

併て愈々本展覽會の呼物の一つである「支那の抗日諸資料」の場面である。この場面は壁面一杯に事變前から今次事變最中に至る迄印刷された支那側の輸入ポスター、煽動ビラ等が貼布され、抗日團扇の逸品や日貨不賣買のビラ等が人目を惹いてゐる。別に陳列ガラスケースには事變前からの抗日雜誌、抗日教科書があり、今次事變を中心として發行された各種抗日パンフレット、抗日雜誌、抗日寫眞畫報、抗日漫畫集など、其の數に於ても如何に支那側が執拗に而も強烈に抗日排日の宣傳を行つたかを雄辯に物語つてゐる。

これに隣して會場の中心に大パノラマが廻轉してゐる。これは三場面に分れてゐて一つは抗日教育の場面で、小學校の教室内で、児童に向つて抗日煽動教育を行つてゐる所である、この教室の壁には各種の抗日スローガンが貼布され、使丁が新しいビラを貼つてゐるなど實感そのまゝに工夫されてゐる。

この廻轉が終わると戦場の風景である。遠く杭州灣を望む日支兩軍相對峙してゐる壘壕風景で、杭州灣には敵前上陸の掩護艦隊が堂々遊弋し、降伏勸告の矢文を放たんとする我軍兵士のバツクには遠く、「日軍百萬上陸杭州北岸」のアドバルーンが空高く上つてゐる。支那側壘壕はと見れば、抗日娘子軍の一隊が支那軍兵士を煽動してゐる場面である。

之が廻り終ると戦ひ終つた部落のはづれの風景の中に日本軍兵士と支那住民が心から融合してゐる宣撫の状態である。

このパノラマに續いた壁面に抗日枕覆ひを擴大模寫した圖が掲げられてゐる。此は一般民衆や兵士達迄に、寢る間も忘れぬ様にと工夫された執拗な抗日宣傳資料の一つで、滿洲國の獨立等を一切日本の侵略なりとして地圖の上で示してゐるものである。

このパノラマの場面を折れて進むと「コミンテルンの魔手を發く」の場面である。壁面には、民族解放を叫ぶポスター、日本攻撃を目標としたソ聯發行のポスター、其他共產主義宣傳の大小のポスターが並べられ、之に隣りして支那共產軍の旗、腕章、同軍發行のスローガン入りのポスター等がある。此の下のガラスケースの陳列臺には先づ今次事變に於て急速に合作を實現した國民黨と共產黨の合流を物語るものとして國共合作の結果を赤裸々に正體を暴露してゐる中國共產軍及共產黨發行のパンフレットが數十冊陳列されてゐる。この隣に外務省、内務省、參謀本部門外不出の資料であるモスコイ發行の日本文の共產主義宣傳のパンフレットが數十冊陳列され、今更乍らに共產黨陰謀の深刻な事を事實を以て教へてゐる。更にアメリカ共產黨の手で發行され、太平洋海上労働者の手を経て赤化を計つた赤色文章、パンフレット、新聞等が並べられ參觀者の目をみはらせてゐる。

米國に於ける日貨排斥のポイコット・バツヂ及コミンテルン大會に送つた朝鮮人黨員の文書等もあり、今次事變に於てソ聯新聞に掲載された抗日漫畫も人目を惹いてゐる。

之に續いてロシア語、フランス語等の共產主義系の文化宣傳雜誌があり、最後に今次事變に於て屢々新聞に報道されたソ聯飛行士の支那空軍再建參加の實證が、我方飛行機に射落されたソ聯飛行機中から發見されたソ聯製パラシュートの燃残りに依つて展示されてゐる。

この場面を曲ると今次事變に於ける我方の宣傳宣撫の資料である。支那民衆の歸來勸告のポスター、鐵路愛護、共產黨排撃、日支親善のポスターが大小幾多壁面に貼布され、空中から撒布された傳單類、防共新支那建設に關する漢文パンフレット、寫眞グラフ等もあり上海大道市政府の旗や、新民主主義のスローガン等も明朝支那建設の資料として興味深いものである。この一隅にムツソリーの日本の青年男女に告ぐの自筆の手紙が陳列され時局柄一般

の興味を惹いてゐる。

併てこゝで會場を後もどりせねばならぬ。つまり右側から左側へ移るのである。「皇澤外地に浴し」の隣りから説明する事にしよう。

この隣は「支那側のデマの正體」である。永野大將の戦死、出雲の沈没等々のデマがこゝでは寫真に依る事實に依つて覆へされてゐる。デマを掲載してゐる支那側新聞が並べられてゐる。

次は「ニュース特派員の活躍」であるが今次事變に各社から第一線に派遣され、報道陣の華と散つた名譽の戦死新聞記者、連絡員の肖像寫眞並に遺品が並べられ、戦況ニュース報道の爲如何に新聞社が犠牲を拂ひつゝあるか、新聞記者は銃をとる兵士に優るとも劣らぬ使命を有する事を國民に知らしめ、見る人をして感謝の涙を新に催さしめてゐる。

之に隣りした小パノラマは南京攻撃の第一線に於ける新聞記者、寫眞班員、連絡員の活動を一目で示したもので砲煙彈雨の中に活躍する新聞記者の面目躍如たるものがある。

之に次で「ニュース宣傳の様相及電波通信の様相」で世界通信網、同盟通信社の組織網等が圖表として展示され、○海底線電波通信装置、○和文印刷電信装置、○司令電話装置、○磁氣録音装置、○光線電話装置、○方向探知装置、○オツシログラフ装置等が陳列され係員が出席の上演演して供覧されてゐる。

この他短波装置、特殊ケーブル片、思想戦に活躍する我海外放送の模型、思想戦を強化せしむるJ O A K大電力放送、國際無線電信系統圖、國際無線電話回線圖が展示され、この場面に續いて文化宣傳の使命を物語る幾多の資料が展覧されてゐる。この間に「國民の一人一人が思想戦の戦士となり得る」といふ題目で今次事變に於て國民が自發的に思想宣傳戦に参加した實例が民間發行のパンフレット、劇場の廣告ビラ、某製菓會社の對外宣傳物が展示されてゐる。

この一隅に日本橋郵便局の臨時出張所が設けられて記念スタンプを押捺して催しを一層意義づけられてゐる。

最後の場面は「スパイ戦の様相」である。此は五つのチオラマで「スパイは何處にも居る」と題して列車中、停車場、グンスホール等の場面で國民に警告してゐる。この他スパイに關する興味深き寫眞及圖表が展示されてゐる。續いて國民精神總動員に關する諸資料が展覧され、會場の最後に當つては電氣明滅装置に依つて第二回國民精神總動員週間に於ける十ヶ條のスローガンが順々に明くなつて國民に再度の緊張を促してゐる。そしてこの場面に向き合つた所で思想戦展覽會を機として、週報、寫眞週報、國體の本義及宣傳關係の書籍及愛國行進曲のレコードが販賣され、絶えまなく愛國行進曲のレコードが賣店から會場一杯に響かばかりに明朗なマーチを送つてゐる。

併て以上で會場を一覽した譯である。具體的な資料に就ては記録寫眞の部の寫眞及説明を參考とせられ度い。

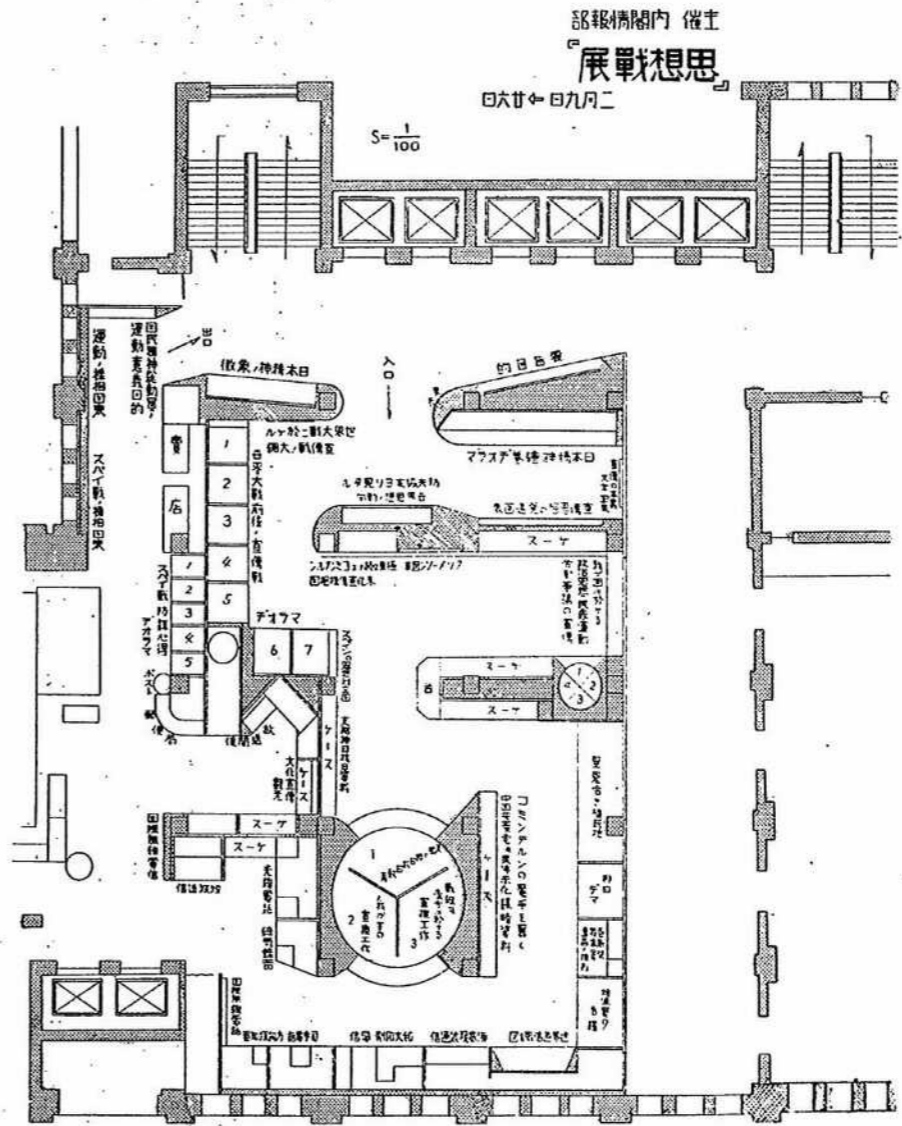
武蔵野線  
世羅仁湖

五箇内閣情報部

記録寫眞

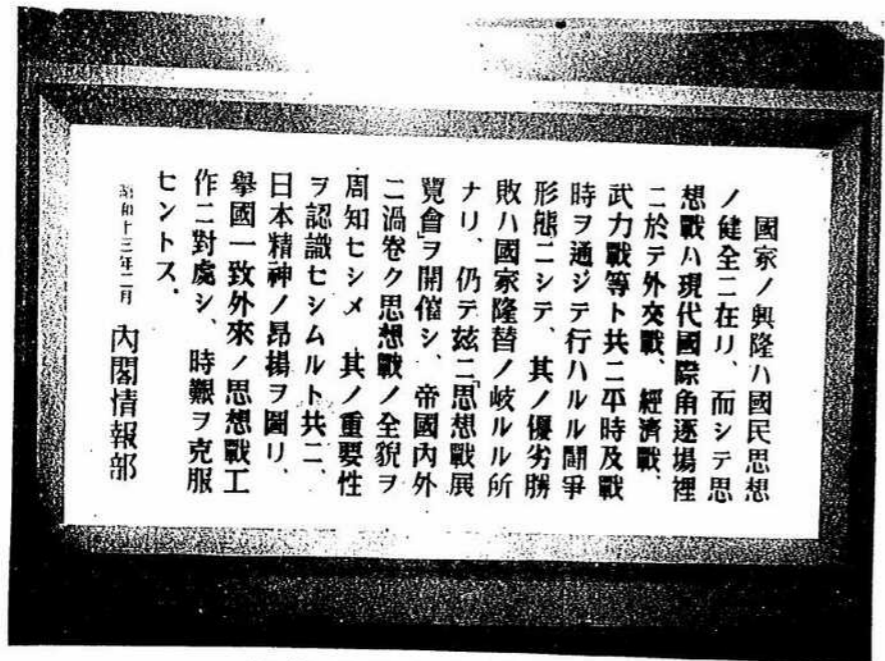
(17)

會場見取圖

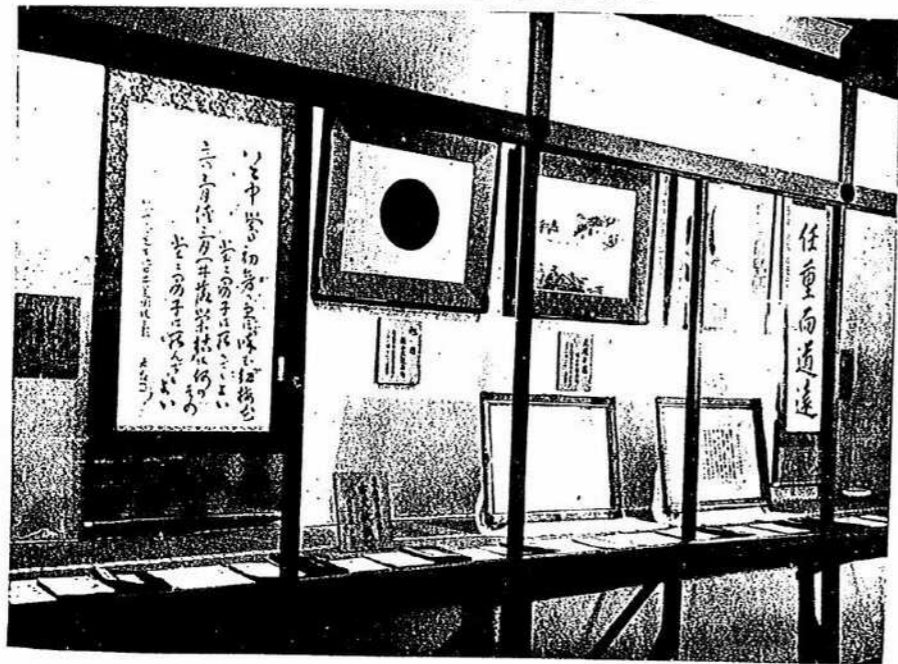


(16)

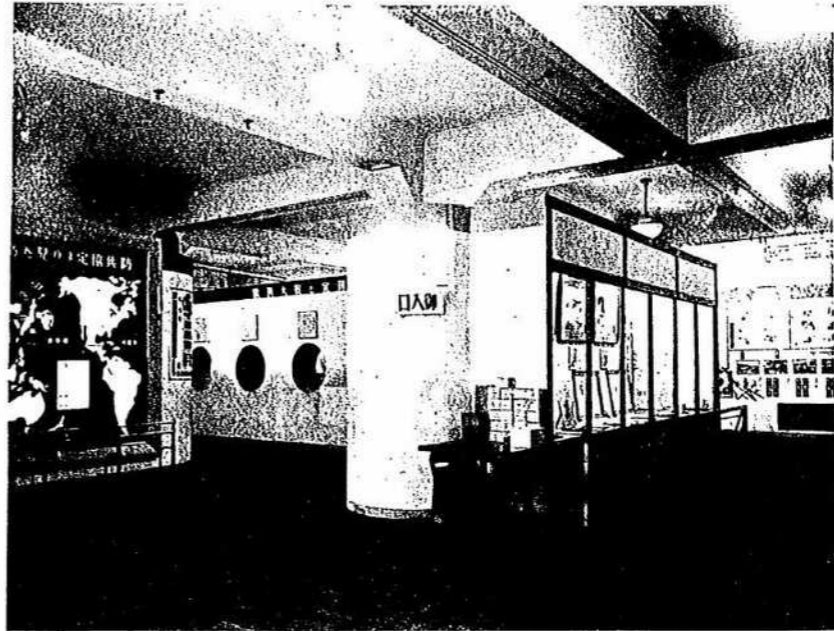




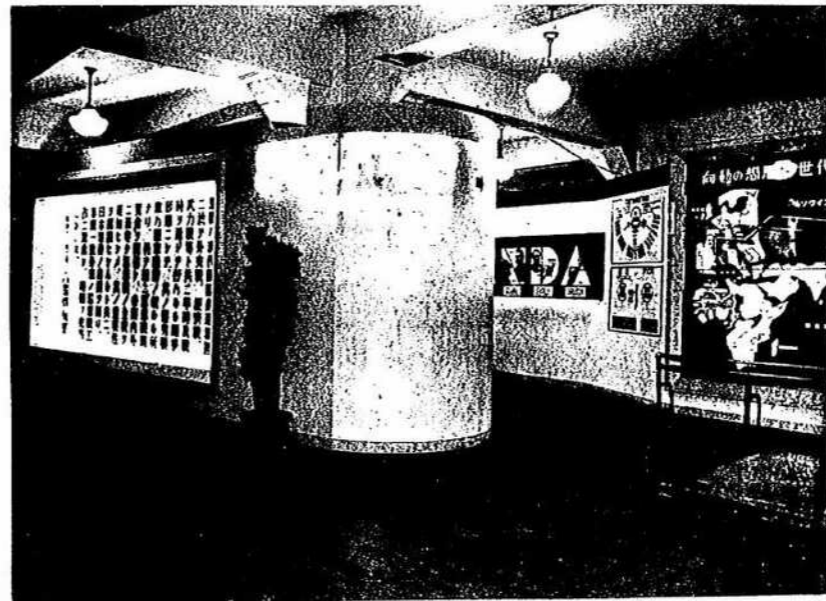
思想戰展覽會開催趣旨



日本精神の昂揚(内閣文庫出品)



會場正面左側



會場正面右側



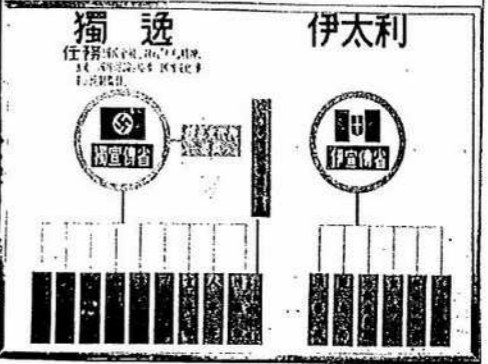




- 防共協定より見たる現代世界思想の動向
- (アジア)
    - 日本、滿洲
    - (ヨーロッパ)
      - ドイツ、イタリー、スペイン (フランコ政府) オーストリア
      - (アジア)
        - シヤム
        - ハンガリー、ベルギー、ポルトガル、ブルガリア、アルバニア、フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニア、ポーランド
        - (アメリカ)
          - サルヴァドル、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンティン、ヴェネズエラ、コロンビア、ペルー、ボリヴィア、パラグアイ
    - 容 共 國 家
      - (アジア)
        - 中華民國 (國民政府) 蒙古人民共和國
        - (ヨーロッパ)
          - ギリシャ、ユーゴスラヴィア、チェコスロヴァキア
          - (アメリカ)
            - メキシコ、エクアドル、チリ
            - (アフリカ)
              - モロッコ
        - 中 立 國
          - (アジア)
            - アフガニスタン、ネパール、ブータン、イラク、イラン、アラビア諸國
            - (ヨーロッパ)
              - イギリス、オランダ、ルクセンブルグ、スイス、ノルウェー、デンマーク、アイスランド
              - (アメリカ)
                - 合衆國、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラガア、コスタ・リカ、パナマ、キューバ、ハイチ、サントドミンゴ
                - (アフリカ)
                  - エジプト、リベリア



内閣情報部の組織



伊太利 宣傳省

伊太利宣傳省は一九三五年六月二十五日、従来の宣傳局を省に昇格して獨立したもので、それ迄内閣、内務、外務、文部、公共省等に分属してゐた諸機關を一省に統合強化したものである。

伊國は所謂組合國家であつて、ファッシズムを根本精神とする組合より成立し、有ゆる新聞、通信社、書店等は皆このファッシズム組合に加盟してゐるし、新聞記者、通信員、學者、論客、藝術家、文士等は皆ファッシストで宣傳省の統制下にある。

宣傳省の組織は上圖表の如くであるがイタリヤ新聞局は内閣新聞局とも云はれるもので日刊新聞課、定期刊行課、文藝課等に分れてゐる。

外國新聞局は資料蒐集課、資料整理課、在伊外國通信員課等に分れてゐる。

宣傳局はラヂオ、映畫、新聞、寫眞等各課に分れ、特に積極的宣傳工作に當つてゐる。活動寫眞局は製作課、編輯課、檢閲及商務課に分れてゐる。觀光局は國外、内の觀光事業を、演藝局は一般演藝指導を行つてゐる。

獨逸 宣傳省

獨逸に於ける情報並に啓蒙宣傳は宣傳省が統轄的な最も重要な役割を果してゐるが外務省其他各省も夫々管轄事項に關して情報部を有してゐる。この他「ナチ」黨機關も中央部並に他方に於て情報部を有し國民の啓蒙、情報の供給に力を入れてゐる事は獨逸の特色である。

宣傳省は宣傳大臣の下に人事、宣傳、ラヂオ、フィルム、演劇、外國關係、書籍及雜誌、美術及學術、音樂の十部に分れてゐる。

外務省情報部は在外公館並に宣傳省の仲介機關であつて在外公館に於ける連絡は常に情報部を通じて行はれてゐる。又國內新聞及通信の統制は宣傳省の權限に屬し、毎日宣傳省に於て新聞會議が開かれてゐる。

この宣傳省の別働隊として國立文化院があるが此は文化關係事業の一切の部門に従事する者を義務的に收容する一種の公法上の自治團體で宣傳省の部門別に從ひラヂオ院、フィルム院、演劇院、書籍院、藝術院、音樂院に分かれてゐる。この他宣傳省と直接關係のない機關として日獨協會の如き獨逸と諸外國との相互親善を目的とする社交團體があり、獨逸文化を外國に對して宣傳する機關として「Deutscher Akademik」なる機關がある。

昭和十一年七月始めて内閣に情報委員會が設置されたが、時代の進展に従ひ昭和十二年九月二十五日内閣情報部へと擴充された。

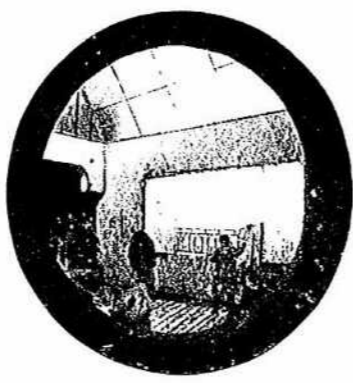
内閣情報部には部長以下書記官、屬と云ふ様な他の一般の部局と同じ様な職員が相當配置されてゐるが、更に政府總掛りのものである特性を尊重し、之を保持する爲に内閣書記官長を委員長とし、各省次官及特に情報宣傳事務に關係の深い部局長課長等は委員として、當時事務に參與する事になつてゐる。又内閣情報部の書記官及關係各課高等官の中より情報官を命じ情報部の職務たる情報、報道及啓蒙宣傳の事務を掌らしめてゐる。

別に參與の制度がある。是は國家の情報、報道、啓蒙宣傳と云つた様な仕事は官廳許りでなく、廣く民間の人達、即ち國家國民全體に依つて行はれる時、始めて其の全きを期し得ると云ふ趣旨の下に選ばれ、内閣情報部の職務に與らしめる事になつたのである。即ち新聞通信、雜誌、放送、演劇、映畫其他廣く情報、報道、啓蒙宣傳の事に造詣の深い、其の方面を代表する様な人々が任命されたのである。

内閣情報部の機能に關しては右の圖表を参照され度い。

たははれ術数銃のしを干れ毎布は軍大のイ毎て及がの勝た下收'週'の絹品中あ戦約た徳げ及'ピツビ個千法氣發英る線五'的ら下捕ヲ戦'の箇を球明因'及百一優れイ獲の線'氣の考に毎航後萬九越'ツせ中及リ球氣案依'空方收一等英個るに後1は球'た宣事明配にの八が國戰大は方フ五が'傳情委らラ在調事者機英撤ツ乃作'物報員れがにさ技の顯國布ト至ら'撤部會

氣球による宣傳



封 印 列 車  
向てのヤレ列禁宣下車てめ産チ命をツ一けあでにニ車せ傳イにん黨ヤし計政九るた下歸ンらヤツ乗出と員ルて府一'は七年事兵イリ等とれ反内せ發しをスあ'ロキた當ロ月出をは二此ばの筋にれし'シ1'時シ月來ヲシ命列た爲をて共た列に四ニイ内十'ンヤを車'め行は産'車歸十'スの日'に起で'ふ'黨を還名'等の日'向しロ'封事反員'の仕せのルに崩下'にけたシ'印を戦は列立し共ナ亡壊イ



フランス戦時宣傳本部  
泉關傳はあ寫れつん眼れ人のヲフとすさ云た眞たてにをた形屋ソソなるれふ'原幕操作決人師根ソソつ慮た迄こ畫'破らり間に裏アスた偽ドもれが荒され枝のよの街宜るのイな等影廢れ'か射つ影に傳のニツくのしした背れ體て眞設本でニ軍'人くた寺景た'木繪け部あ1の世形描村院世人腕製畫らは巴つス殘界やか落'家形'の案れ巴たの慮に繪れ等發にが脚新で'里'源に宣'甚てのかよ盛'らはそフ

フランス戦時宣傳本部

世界大戦と思想宣傳戦(チオラマ)

蓄音器及手榴彈

による宣傳

あ側器と送向スにへ同をす榴特技戦るにらのらけト依ら時注る彈別術線'。殺れ爲れてつれにいややのやに'降て兵た彼1て擴音た無擦裝法も'す志士'等ハ下聲樂の場置置法も'る氣達'の故ンイ機にでの上は加算ら'に至望'郷の1線の宣'。ビに敵へさ'つし郷'の民戦及蓄傳'。ラに爆たた'た聯の合念'の合念'に軍に'がに'器考'手'傳



世界大戦と思想宣傳戦



佛蘭西側の組織變遷

- 一九一四年十月 外務省の代理局たる外國事務中央局設置
- 一九一四年十二月 内閣新聞局協力
- 一九一五年八月 空中宣傳部設立
- 一九一五年十月 宣傳に關する中央局設立
- 一九一六年 *Mission de la Presse* に統一さる

英國側の組織變遷

- 一九一四年 外務省に戦時宣傳局設立
- 一九一四年八月 愛國團體中央委員會設立
- 一九一六年 「ウェリントン」の家、外務省下に統一さる
- 一九一七年六月 戦時計畫委員會設立され國內宣傳に當る
- 一九一八年二月 ビーヴァブルック卿の指導下に宣傳省設立、ノースクリフ勲章國宣傳部長に任命さる

米國側の組織變遷

- 一九一七年四月 ウイルソンの指令に依り公報委員會設立、ジョージ・クリール宣傳大臣の位置に就く
- 一九一八年四月 開戦以來戰線宣傳を行ひし軍事情報部、心理部と改稱
- 一九一九年六月 公報委員會解散



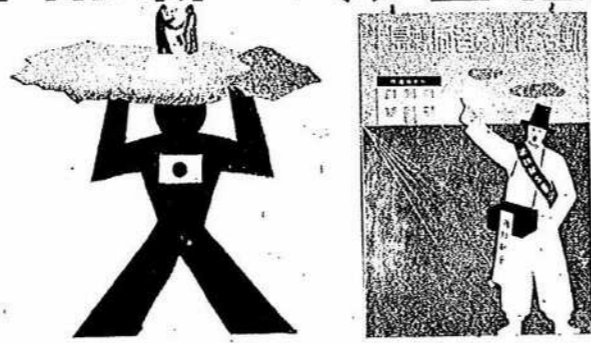


我國に於ける政治思想の消長

# 思想國防戦への参加

東京以下二十一箇講義場の  
国民精神総動員活動統計表

政敵討伐 演説會開催数	225
政敵會開催数	178
講演會開催数	86
軍事顧問 報告會開催数	165
其他集會	86



内外情勢の緊張は  
全國民の内省自覺を促し

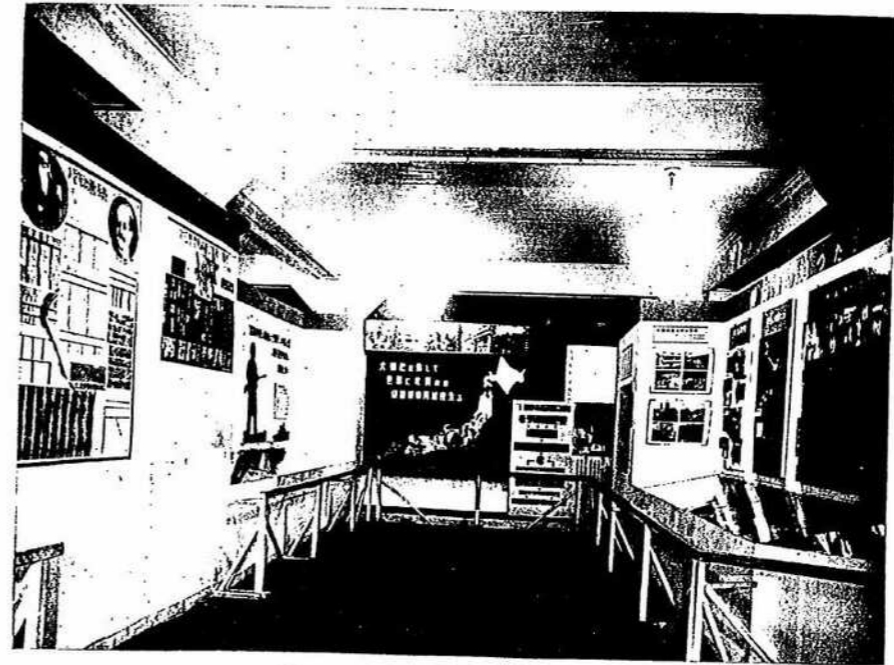
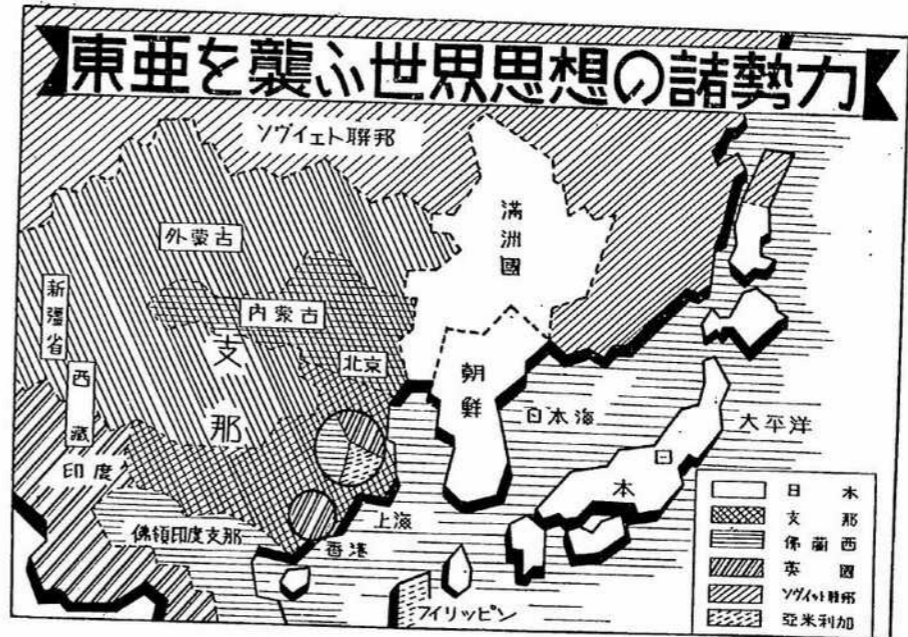
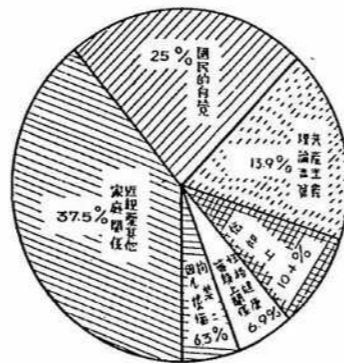
國民思想の大轉換を招來せり



治安維持法違反者中より  
轉向者續出す

年次	出獄者數	内轉向者	出獄者に對する 轉向者の比率
昭和7年	97	68	7割強
昭和8年	105	72	7割強
昭和9年	289	247	8割強
昭和10年	321	285	8割強
昭和11年	200	184	9割強

(司法省刑事局出品)  
治安維持法違反受刑者轉向動機百分比表  
(昭和十二年末現在)



景 全 室 三 第



共産主義華かなりし頃の  
非合法出版物



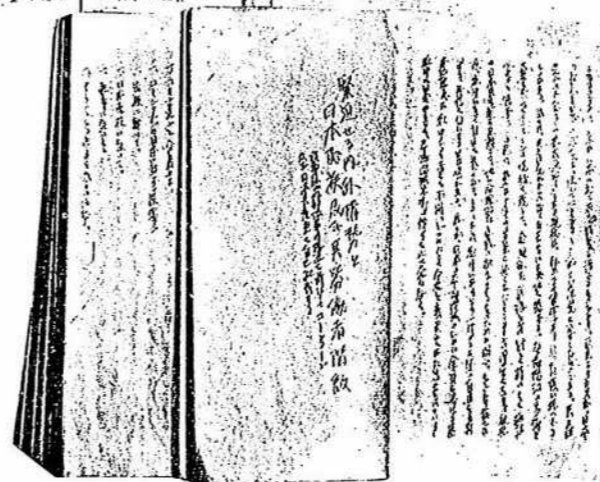
司法省刑務局出品



佐野、鍋山の上申書及轉向書



司法省刑務局出品



品出課護保省法司(村住豊縣栗千)村化赤たつ廻

ひ誓の生更 景二第  
てがや、勇健の者謀百の頁に年八・七和昭  
不捨の動運生更し責自く澄は等彼るせ村歸  
す意決を事んらた



村の禍赤 景一第  
農し廢業村全、れ破は治自に嵐の年階級階  
ふ拂を地たま俗美の村  
!を姿るす舞亂の童小げ掲を旗赤よ見



望希の拓開 景四第  
!せ排を沼長、き拓を地有共  
段の山、進前の致一村舉、下の望希の拓開  
つ待を春の實結が樹樹の木千六は畑



へ村生更範模 景三第  
會労働ふ盟に神を誠至、に闘合を鼓大の曉  
生更範模てしに年三は熱と和の人、成結の  
む生を村



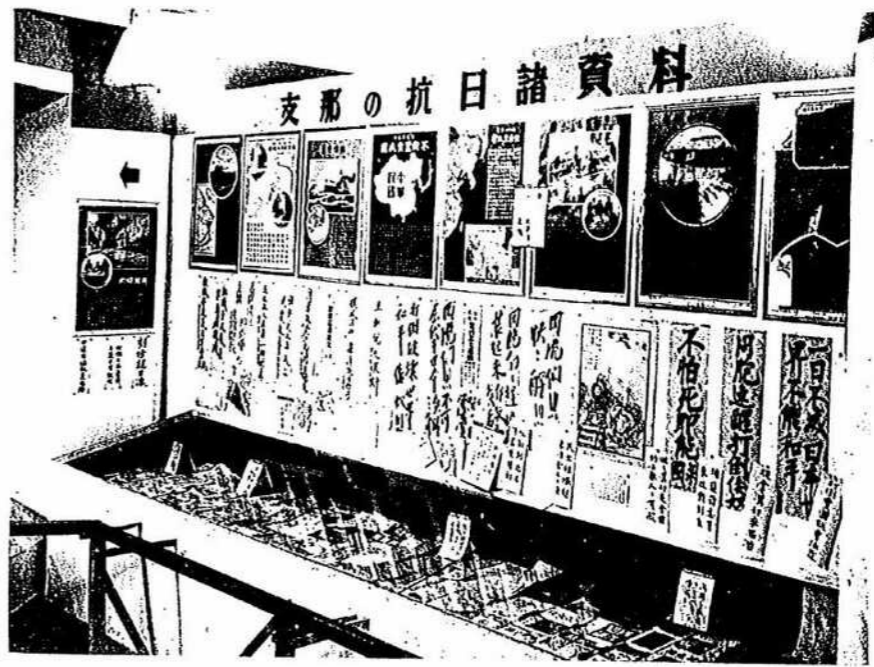
物版出法合非の義主府政無

品出局事刊省法司



品出課護保省法司





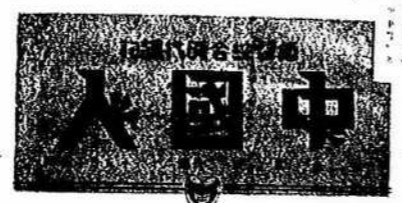
抗日宣傳を衝く

支那の抗日運動は一面民族主義運動とも考へる事が出来た。白崇禧が嘗て、我が武官に「支那民族を復興させる爲めの手段として抗日なる注射を施すのである」と語つたさうであるが、それはどこまでも手段としては一時許されても、目的であつてはならない。隣人を敵視して生活する事が誤つたものである事はいふまでもない。大正八年五・四運動、大正十二年の關東州奉還を唱へる排日運動、大正十四年の五・三〇、昭和二年・三年の山東出兵反對運動、昭和六年六月の蕪湖山事件等の起伏はあつたが排日運動は止まなかつた。實に支那の指導者は心せねばならなかつたのである。昭和七年上海に設立された反日援僑會は滿洲事變を機として抗日救國會となり、對日永久經濟絶交をスローガンとして抗日運動を展開するに至つた。一方共産黨も急速な活動を行ひ、この操縦の下に上海で章乃器等が人民戦線の名の下に凡ゆる抗日團體を吸収して上海各界救國聯合會、次いで忽ち擴大して全國各界救國聯合會を組織した。彼等は共産黨との妥協、抗日聯合戦線の成立を提唱した。蔣介石は共産黨を利用したり裏切つたりしてゐたが自己の勢力強化の爲め之を支援して排日の第一線に立たせようとした。然るに驚くべく蔓延した人民戦線の勢力を見て慌て、CC團で國民黨線運動を起したが及ばず、遂に蘆溝橋事變勃發に至つた。事變が起るや、合作せる國共兩黨は支那人に、所謂全民武裝をなさしめるべく、獨動的なポスター、傳單を大量撒布、貼布した。抗日吹響も作られた。支那軍が大勝したとか、日本兵は弱いかいふ畫報、書物が作られた。對外的にも、蔣介石、宋美齡は外國映畫會社のトーキーに日本人の非人道性を諷ひたり、放送を以て外國に哀願したりした。外國向けのパンフレット、畫報も勿論出された。

事變前に於ける抗日雜誌

事變時には榮になるとは知つてゐても、その度を過す時は取返しがつかなくなる。蔣介石が自己政權強化の爲めに用ひた抗日政策が、江西を道はれ陝西の北部に餘幅を保つてゐた支那共産黨の狙ふ所となつた。いふともなくいつてゐた抗日思想が意外にも膨脹し來り、收拾できぬやうにさへなつて來た。凡ゆる雜誌が抗日を吼え出した。こゝにさうした雜誌の一斑を紹介しよう。なほこの中の多くが北支で出版されてゐる事は注意すべきである。

中段の「解放」は西安より出版されてゐるもので、丁玲などの記事もあり、共産黨機關紙である。



軍評授承總合同總兵騎防編

姓名	職名	職名	職名
...	...	...	...



大衆文化



思想月刊



こゝに載せられた雑誌も前頁と同じ色彩のものであるが、唯中、下段に見られる「東北知識」「東北生活」「東北呼聲」などは滿洲問題を中心としてある特殊なものであるのは注目すべきである。それには滿洲に於ける土匪―彼等にはせると義勇軍であるが―の活躍状況や滿洲回復、對日即時開戦要求等の矯激な記事が盛られてある。これらは何れも北支で發行されたもので、それがどんな意圖をもつてなされたかは推測するに難くはなく、日本への挑戦は特に蘆溝橋でなくとも、何處かで必ず行はれるに違ひなかつたのである。



生路



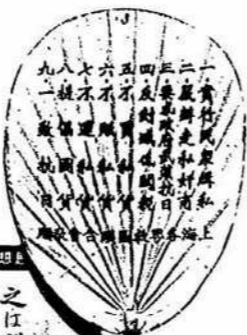
東北知識



東北生活



\*ゆる部門に迄も抗日を押し込むこの工作、これは我々が笑つていゝ事でない、考へねばならぬ事であつたのだ。  
この團扇は昭和十二年六月頃上海で頒布せられた日貨排斥



排日團扇

之は昭和十二年六月頃上海に於て頒布せられた日貨排斥宣傳の團扇であら、支那の排日思想の消滅を期してあり。

扇子で開れば事實風が起るのだから、排日團扇を作れば排日の風潮は翕然高まるかと支那人は考へたのだから、かうして迄も生活のあらも



嚴勸三、政府の武装抗日を要求す 四、關稅引下げ反對 五、密輸品の不買 六、密輸品の不買 七、密輸品を運送せず 八、國産愛用 九、一致抗日などのスローガンが書かれてある。

夢にも忘れないといふと文句めくが、支那人はそれを實行したから好く。この寫眞は枕頭に「寝るにも食事も忘れない困難地圖」が書いてある。武進一に常州といふ一青年工學團が作つたので、それによると樺太、朝鮮、臺灣等、兎に角何れも日本に侵略と誹り、誹つてゐるのである。夜半の鐘聲に驚き、夢覺めて枕頭この圖を眺めて慷慨した人ありといへば正に喜劇ではなからうか？

下圖抗日枕覆





右  
ここに示したものは抗日バツヂであつて、廣州即ち廣東で作られたものである。日本を虎とし、それを支那人が押へてゐる有様を作つたもので、上に、「一致して起ち、共に國難に赴かん」といふ文がある。

下  
國民政府は一意國內の再建に狂奔したのであるが、支那特有の「好い鐵は釘とならず、好い人は兵士とならぬ」の兵士や、國民黨員の建て直しにも大膽であつた。以下黨員守則の全譯を掲げて見よ。

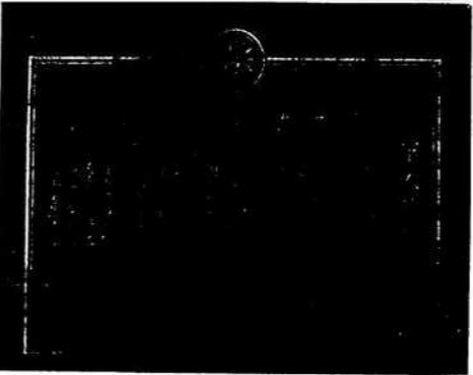
- 黨員守則
- (一) 忠勇は愛國の本
  - (二) 孝順は家治の本
  - (三) 仁愛は物に接する本
  - (四) 信義は業を立てる本
  - (五) 禮和は處世の本
  - (六) 禮節は事を治める本
  - (七) 服従は責任を果す本

- (八) 勤儉は服務の本
- (九) 整頓清潔は身を強くする本
- (十) 人を助けるは樂しみの本
- (十一) 學問は世を濟ふ本
- (十二) 辛抱は成功の本

左下 軍人 誡訓

上海市公安局印發

- 第一條 三民主義を實行し、國家を守り、違背怠慢の行爲を許さず。
- 第二條 國民政府を擁護し、長官に服従し、虚偽背離の行爲を許さず。
- 第三條 官吏を敬愛し、人民を保護し、僭倣粗暴の行爲を許さず。
- 第四條 盡忠職を守り、命令を奉じ行ひ、遲延、怯懦の行爲を許さず。
- 第五條 紀律を嚴守し、勇敢果斷、弛緩、購賄の行爲を許さず。
- 第六條 精神を團結し、協同一致して散漫、責任轉嫁の行爲を許さず。
- 第七條 責任を果し、恥を知り、武德を崇尚し、汚辱貪鄙の行爲を許さず。
- 第八條 刻苦、忍耐、節儉、質朴にして奢侈、浮華の行爲を許さず。
- 第九條 禮節を重んじ、儀容を整へ、卑賤、傲慢の行爲を許さず。
- 第十條 誠心、修身、篤く信義を守り、卑劣詐偽の行爲を許さず。



抗日教科書

いとけない子供が何を知らず、日本人はすべてこれ敵と教へこむ所なきを、排日教育が、國民政府に依つて堂々行はれてゐたのである。そこには眞理も、正義もないのである。ここに我々が耳に聞いて案外その内容を知つてゐない排日教科書一いや支那では全部の教科書が排日を基調としてゐたのであつて、排日教科書といふ特殊な一種があつたと考へるのは誤りである一を紹介しよう。





次に國語教科書の内容を二三摘記して見よう。左は「豆腐の値上がり」と題するものである。豆腐の値上がり  
 「豆腐の値上がり」  
 やがてお母さんに「今日は、今日僕が学校へ行く途中でお隣のねえさんが豆腐をひそめて「豆腐でさへこんな高くなつちや、今年はお隣さんに豆腐まで上がるつたらう」といつてお母さんには「お母さんどうしてそのかい今、お母さんが一つづつききからお前さんがへ、全部できたらならい生かすのよ」といひました。「大豆はどこから出れるか」「地面から一番多く出る言はれたら、大豆はさうなつてお母さんか」

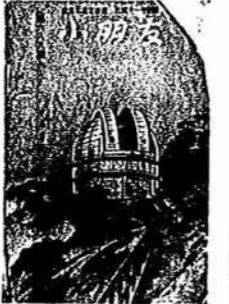
三七 豆腐漲價

「大豆那裏來的」「地上長出來的」  
 「豆腐是甚麼做的」「大豆做的」  
 「大豆那裏來的」「地上長出來的」  
 媽媽說：「這個道理你不懂嗎現在我問一句」  
 「大豆那裏來的」「地上長出來的」  
 「豆腐是甚麼做的」「大豆做的」  
 「大豆那裏來的」「地上長出來的」  
 「那個地方出得頂多」  
 「我聽得老師說遼寧出得頂多」  
 「那末現在遼寧怎麼樣了呢」  
 「被人家強占去了」  
 媽媽說：「對了遼寧被人家強占了大豆的來源太少了，豆腐漲價就是這個道理」



前頁のやうな記事は國語教科書のみではない。歴史、地理、公民、算術、化學、物理、博物等あらゆる部門にもあるのである。こゝには地理、歴史、算術等の教科書を掲げて見た。こゝでは算術をお知らせしやう。  
 左上の國立編譯館の算術教科書の本文百三十六頁の7方哩の認識と應用といふ項目に曰く  
 土地、人口、主権は國家の存在に必要である。弱小民族は帝國主義に日に日と侵略されて居る。我國はアジアの東部にあり國境は黒龍江、鴨綠江、黃河、ヒマラヤ山、中央アジアに接し、アジアの最大國であつたが、近頃十年來帝國主義者は進みず侵略し、領土は常に奪取せられてゆく。我國の前途は危険である。我民族を復興するには失地を回復せねばならぬ。故に我國の面積はどの位か、失地の面積はどの位か、租借地はどうかを研究しやう。  
 「方哩の應用問題」(一)九・一八の國難が起つてから東北四省は取られた。遼寧755,971方哩、吉林850,072方哩、黑龍江省1,742,031方哩、熱河524,330方哩を合せて面積はどの位か  
 (二)我國は最近百年帝國主義の侵略を受け、失地は多い。……我國が日本に取られた領土は下表の通り、面積總數如何か

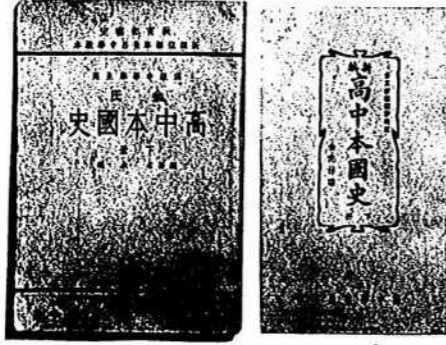
年代	地方	面積
1895	臺灣等	130000
1879	琉球	60000
1910	朝鮮	800000



「人」強奪されました。お母さんは「さうです、遼寧が人にとられたので大豆が来なくなつたのです。豆腐が値あがりするのはこの理由からです」といひました。  
 次は「日本の侵略」と題するものである。  
 日本は民國前十年より、朝鮮を奪取する爲めに我國と開戦して、朝鮮を占領し、我が國内に侵入して來ました。民國前八年、滿洲の權利を東三省で勢力を擴張し、民國十七年、東三省が國民政府に對して、滿洲國の成立を謀りました。二十年、九月十八日、日本軍は奉天を攻撃し、續いて東三省の各地を占領し、二十一年三月一日、日軍は滿洲國を作つたのです。  
 巡捕出來干渉、竟對羣衆開槍、釀成大慘案、慘案發生後、我國民衆、更痛恨帝國主義、於是又起了一個更大的革命怒潮。  
 五卅事件是怎样發生的？  
 對於中國革命的關係怎樣？  
 二二三 日本的侵略  
 由朝鮮侵入東三省 日本從民國前十八年，爲奪取朝鮮、與我國開戰後，向我國侵略，一天利害一天。民國前八年，爲爭取滿洲權利，又在我國境內、與俄國開戰，戰勝以後，他的勢力就從朝鮮侵入東三省的南部。  
 九一八事變 民國以來，日本極力在東三省擴張勢力，民國十七年，東三省隸屬國民政府，兩國糾紛更多。二十年九月十八日，日軍突然攻取瀋陽，隨即佔領東三省各地，並於二十一年三月一日，設立所謂「滿洲國」。



「小朋友」は少年の友ともいふべき雑誌である。この雑誌の「國難」に「國難の算術」といふのがあつた。お母さんが「國難の算術を教へる」といふ。曰く「98に86を掛け4で割りを引れば幾つになるか」。姉妹は「918です」。兄「合つてゐる。が九一八の事件を知つてゐるか」。姉妹「それは民國二十年九月十八日、日本が奉天を砲撃して滿洲を強奪した日だ」。お母さんは「さうだ。お前さんは何知つてゐるか」。姉妹は「128よ」。兄曰く「合つてゐる。が128は何知つてゐるか」。姉妹は曰く「民國二十一年一月二十八日、上海海關北一帶が日本軍の爲に破壊された。お前さんは何知つてゐるか」。お前さんは「インテリの女性だ」。



左 愛國女子中學生徒の作文表紙



左同 内容の一部

抗日根本方針

東方の最大國は支那と日本であるが、現在は日本は大變強く、支那は貧弱である。日本の支那併呑の野心は日に増加し、壓迫されるので支那は讓歩せざるを得ない。我々がもし努力して彼等と抵抗せねば、我々の支那は彼等に亡ぼされるであらう。又もし支那が強大となれば日本は必ず衰滅するであらう。兩者は俱に強盛なる事が出来ないからである。日本は何故支那を吞滅しようとするのか、(一)日本は支那が統一して一致外に當るのを恐れてゐる。だから常に我々が内戰を起し、同士討つをすればそれに乘じて利を得ようとする。然し支那は現在統一した。彼の計畫は失敗したといつてよい。それで彼は支那が未だ強盛でない時に乘じて我々を侵略しようとする。と(二)日本の生産は自給に足りない。我々の支那の生産は豊富である。もし支那を滅ぼせば一切の生産品は日本のものになるといふこととの爲めである。

上海の愛國高等女學校(支那では之を女子中學といふ)では「抗日の法」を生徒に作文させたのである。作文までもと我々は驚かされる。今その一を紹介してその輕薄な考へを哀れみたい。

抗日の根本方針

華元照

東方の最大國は支那と日本であるが、現在は日本は大變強く、支那は貧弱である。日本の支那併呑の野心は日に増加し、壓迫されるので支那は讓歩せざるを得ない。我々がもし努力して彼等と抵抗せねば、我々の支那は彼等に亡ぼされるであらう。又もし支那が強大となれば日本は必ず衰滅するであらう。兩者は俱に強盛なる事が出来ないからである。日本は何故支那を吞滅しようとするのか、(一)日本は支那が統一して一致外に當るのを恐れてゐる。だから常に我々が内戰を起し、同士討つをすればそれに乘じて利を得ようとする。然し支那は現在統一した。彼の計畫は失敗したといつてよい。それで彼は支那が未だ強盛でない時に乘じて我々を侵略しようとする。と(二)日本の生産は自給に足りない。我々の支那の生産は豊富である。もし支那を滅ぼせば一切の生産品は日本のものになるといふこととの爲めである。

我々は支那を保護せんとするならば、支那を強盛にして抗日せねばならぬ。それで我々は必ず(一)外を恐れ、又は儼然なる心理を除かねばならぬ。支那は數十年來、一種の救ふべからざる心理即ち恐外苟安心が強い。故に外人と抗争せず、一時の安全を得れば安樂だと考へてゐた。だから外人と理山もないのに不平等條約を結んだ。現在我々は日本に抵抗するには決して恐れたり一時の安全を求めたりしてはならぬ。

(二)海岸線を放棄せねばならぬ。何故か、支那の海軍は決して日本に抗する事は出来ぬ。故に海岸線を放棄して敵を深く誘入し、然して後一舉に擊破すべきである。(三)持久戰をせねばならぬ。支那が對日戰爭に於て必勝の唯一の方法は戰線の延長である。何故か、日本は物資が缺乏してゐる。戰期が短く、時は豊富でも一たび延長せぬか、物資問題が起るのである。彼等は採取する原料もなく買ふ金もない。かくては日本の陸海空軍も皆な廢物となる。支那の物資は大變豊富で延長しても平氣で、かくて或は勝利を得る事もできるかも知れぬ。たとへ失敗しても主力を安全な地に退かしめれば、抗日のもし勝利を得れば進んで日本を攻撃すべきである。以上の所説は、抗日の根本方針で、我々は如上に基いて行へば最後の勝利は必ず我々のものであると思ふ。

抗日ボスター

學生のみでない一般民衆にまで抗日思想を注入すべく、國恥掛圖といつて、日清戰爭より先の上海事變に至るまでをボスターにしたものがある。それは多色刷のあくどい場面を畫いたものである。一つ最初の馬關條約の項を譯載しよう。

清の光緒二十年、朝鮮の東學黨が亂を起したので、清兵は往つて助けた。日本軍も亦た行き、亂が治つてから、支那は日本と共同撤兵を約束した。ところが日本は朝鮮を併呑しようと野心を起し、撤兵しないばかりでなく、處



々に支那を押しつけたので、遂に日清戰爭が起つた。不幸にして清の陸海軍は皆敗れた。清廷は李鴻章を全權大臣とし馬關に赴いて、日本人と和を講ぜしめた。翌年馬關條約十一條を締結したが、その大旨は次の通りである。支那が朝鮮を獨立國として承認する事、(後、日本は清の宣統二年に朝鮮を併呑した)遼東半島、臺灣、澎湖島の割讓、賠償金二億兩、長沙、重慶、蘇州、杭州を開港する事等であつた。時にロシアは日本が遼東半島を占領するのは自己に不利と考へ、獨佛二國を誘つて、日本に遼東半島を還付させ、支那から三千萬兩の代償金を日本に拂はさせた。



パリに於ける支那共産黨の抗日出版物

コミンテルンは一九三五年（昭和十年）夏、モスコで第七回世界大會を開き、この際反帝國主義運動の爲めの一戦線の新方法を採用した。支那共産黨も勿論この方針による暗躍を開始した。彼等は第一根據地たるパリで多数の抗日出版物を發行し、もつて支那の輿論を捕提し、抗日開戦の一路へ導入しようとした。

こゝに掲げたのはさうした書籍の一部でこれらは又々續々と支那に送られたのである。

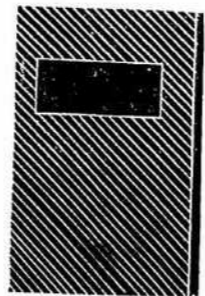
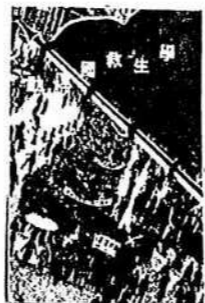
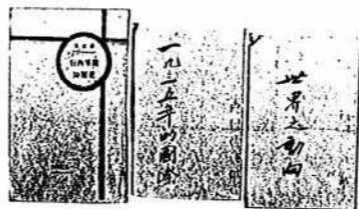
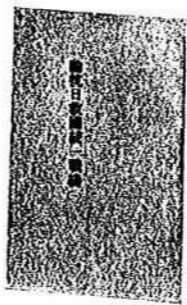
先づ最初の二冊を手にとつて見よう。

「抗日救國政策」は「新形勢と新政策」といひ、陳紹禹の著で一九三六年パリ、イビエ街三アジヤ書店の出版である。

著者の序文によると、此の書は一九三五年十一月下旬、中國共産黨の新政策を説明する爲にボリシエグイク誌（ソ聯共産黨中央雜誌）と共産國際雜誌に寄稿した二つの論文を組合せて出来たものと云ふ。その内容を大體紹介して見る。

「日本帝國主義は新政策をとり、先づ北支五省に北支國を組織しようとし、陸海軍を増強し、一方陸戦隊は曲頭、福地、漢口に上陸して策謀し、南京政府に新要求を提出し、全支を完全に日本の保護國たらしめんとした。かゝる時我々は第七回第三インター全世界代表大會でデミトロフが提唱した反帝統一戦線に基づき、全國反日統一戦線を組織し南京政府の不抵抗主義を粉砕せねばならぬ。然るにこの抗日救國統一戦線に對し漢奸殷汝耕、閻錫山等は反共統一戦線を提唱して來た、然し反日は支那人民の出路であり、反共は中國人民に反對する名詞である。

全國人民、軍隊は一致して抗日に立たんとしてゐる。各地學校は救國會を作つてゐる、我々は全戦線を統一し、國防政府を作り漢奸を打倒し反共統一戦線により國を救はねばならぬ。」



左のカットは前頁掲載の「世界之動向」「一九三五年之動向」の小パンフレットの裏表紙の印刷文字である。（前頁説明参照）



Imprimerie Spéciale de  
"Asie Librairie Editions"  
3, Rue Valette, Paris-5<sup>e</sup>  
(France)

「抗日救國統一戦線論」や「中國人民を救ふ鍵」も同じ著者（別名を王明といふ）の作であつてその内容は前書と大同小異といつてよいから説明を省かう。「一九三五年の國際」と「世界の動向」も同じく似通つた内容を持つてゐる。それによると、世界各地の半殖民地、植民地の弱小民族が帝國主義反對の爲めに團結して起たうとしてゐる。現にイタリーのエチオピア攻略の時やスペインの内亂に際して、全世界の弱小人民は被壓迫民族に同情し支援した。支那も今や日本の爲めに日に日に壓迫されてゐる。然るに國民黨は却つて日本と通ずる如く抗日の同志を逮捕してゐる。我々は之と抗争し、一方世界の弱小民族と提携し眞正の民族解放に進むべきであるといつてゐる。

「隨軍西行見聞録」

これは共産黨が江西省瑞金の根據地を追はれ陝西北部の延安に移動した經過をのべたものである。然しこの書は決してそれだけでない。かうして、共産黨の偉大性を誇張し宣傳したものである。

「學生救國運動」

この本は支那の學生運動の歴史、その救國運動にまつはる犠牲者などの話、學生運動のもつ意義などを述べたものである。

「東北抗日烈士傳」及び「烈士傳」は滿洲に於ける匪賊即ち彼等のいふ烈士の傳記や、烈士軍の組織などを記述したものである。最初に各軍長や各軍の生活の寫眞をのせ次に軍隊の編成や、その所謂光榮ある歴史などを載せてゐる。これを見ると、滿洲の治安擾亂が支那共産黨とつながりがある事が明白になるのである。

最後の「中國呼聲」は英文雜誌で、上海で發行されてをり、抗日の煽動を目的としてゐるものである。この雜誌の資金がコミンテルンより出でゐる事はかねて人にも知られてゐる事である。

事變後の諸資料

蘆溝橋事件はかくして起つた。起らざるを得なかつた。かくして、抗日支那がそのウエールをかなぐりすて、その余勢を現はした。今や、街々の壁には昨日までの廣告畫と違つてあくどい抗日畫がベタベタと貼りまはされたのである。

こゝに掲げたものはさうした繪の一部である。然しその下劣さは却つて何人の共感も起さないであらう。

なほ畫中の文は、「起て、このおれ達を壓迫する暴敵を殲滅しろ」といふものである。

そんな繪を見て、通りの書店でも覗かうものなら、目に入るものは無数の抗日グラフばかりだ。



抗日畫報



抗戰といひ、鐵血といひそれら畫報の誌名があくどさもさり乍ら、内容もこれに劣らず、無を有と誣ふる支那式の寫眞が滿載されてある。これらの意圖は大體三つに分けられるやうである。



即ち一は日本軍が非戦闘員、文化機關を破壊したと誣ふる事、  
二に日本の脆弱性、日本軍



の弱さを宣傳する事、  
三は支那の舉國一致、支那軍の強さを誇張する事、



これらが中心となつてゐる。

次に救亡情報に載つた愛すべき寫眞を紹介しよう。

右上の寫眞はこれ我國の某映畫會社の作品のスクリーンであるが、支那人はいはく「日本人が召集令が來てから悲憤の情が眉間に現はれてゐる」と。

右下は我國の女學生の身心鍛練の蓮刀練習の風景であるが、彼等は逆宣傳をして、日本婦人の軍事訓練としてしまふのである。

滑稽なのは左のである。死ありて生を期せない我が將士が饑饉の旅を作つて活躍した事は我々も新聞で知つた事であるが、支那人はこれを日本兵士が戦ふのが厭な氣持を現はしたのだと説明してゐる。

抗日雜誌の群れ (1)

畫報だけが無暗に出たのではない、抗日雜誌も勝るとも劣らず、丁度廣告ビラの様に汎濫して出た。これらを發行だけについて見ても月刊、旬刊、週刊、五日刊、三日刊、日刊等々の多様さで周知徹底網には水ももたらさぬものも少くない。

單調の様であるがこれらは史料としての價值もあるから、煩を厭はず掲載する。尙各誌の重だつたものには簡單な説明を附する事にしよう。

【汗血】 汗血書店出版

第十期に「日本女性の悲哀」として張生が日本の女は殆んど貧乏の爲めに賣られてゆくなどと書いてゐる。

【同情】 同情社出版 章乃器編輯

英文と漢文と並載したもので、英文の狙ひ所は發行の詞の「現代の國家は孤立する事は出来ぬ。故に世界が我國に同情してくれる事は我國の勝利の先聲である。」に明瞭である。

【國訊】 張雪澄編輯

第五期に「思想戦と經濟戦」なる論文あり。

【八一三】 謝澄平編輯

八一三とは上海で日支が戦火を交へた八月十三日の事である。

【戰綫】 章乃器艾思奇等編輯

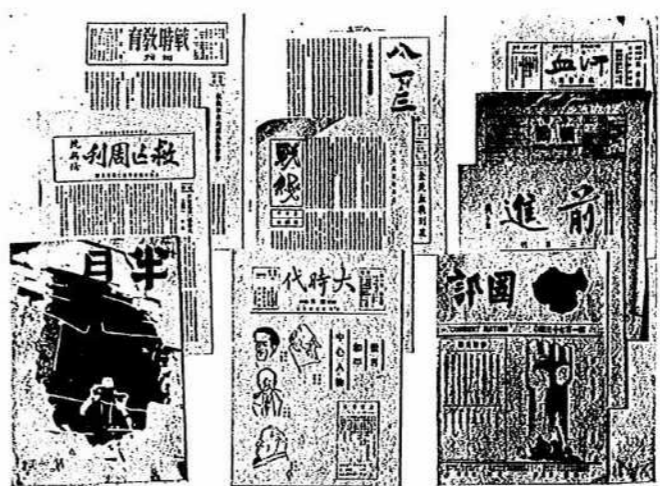
宣傳の方法に関する記事が多い。滿洲の義勇軍の遊撃戦の方法なども論ぜられてゐる。

【救亡週刊】 沈鈞儒編輯 上海市職業界救亡協會發行

第二號に「日本軍隊の一瞥」(丁林)なる論文がある。

【文化戰綫】 陶亢德編輯 上海編輯人協會發行

この附録が「文藝戰綫」である。



【中國兒童】 中國兒童救亡協會出版

兒童の繪、詩が收められてある。この内容は後頁に紹介しよう。

【職時大學】

共產黨的色彩が濃い。筆者に楊虎斌、毛澤東、宋子文、丁玲、章乃器、田漢等有名人が多い。

【文摘】 復旦大學刊行

各雑誌の記事を切り集めたもので、特に外國雜誌からの記事が多い。中に日本無産作家聯盟がアメリカの「ライオン」誌に送つた田中鏡二の「三日星軍」なる小説がある。

【世界知識等職時聯合旬刊】

生活書店出版

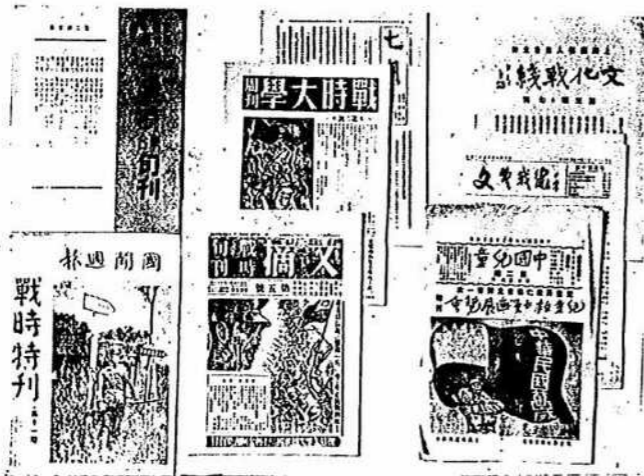
これには上海の婦人の救亡運動の現状検討の記事があり参考となる。尙ほ第四期に英國労働黨の大會に宋慶齡が送つた手紙が譯載せられてある。

【救亡遊藝】 上海市遊藝界救亡協會發行

流行歌、連續漫畫、などをのせた新聞。

【救亡日報】 上海市文化界救亡協會發行

人民職工派の大御所たる巴金、茅盾、郭沫若、魏金枝、章乃器等々の多數の所謂救國君子が執筆してゐるが、記事は最もデマ、煽動的である。



抗日雜誌の群れ (三)

これも同様な抗日雑誌である。その内容は同じものである。短い各種の論説をのせた連射砲といふ所である。『戦歌連射砲』は連射砲の發行で戦歌が収められてある。『大家抗戰歌』は連射砲の發行で戦歌が収められてある。また各方面の新聞雑誌でもその使命をすて、抗日を云々し出した。中段の『上海救亡』の雑誌を中心として冊子である。その中の救亡漫画は次頁で詳しく解説する。



抗日漫畫

支那の漫画家は戦争が開始されるや否や直ちに動員された。彼等は漫画雑誌を出したり、展覽會を開いたり、前線へ行って漫画を以て將士を鼓舞したりした。今「救亡漫画」を詳細に紹介して漫画の一斑を偲びたい。



大體これらの狙ひ所は全民衆の武装抗戦を煽る事、日本を文化の破壊者と誣ふる事、戦争が日本の破壊を招く事、などであると思はれる。

上圖左側の漫画  
日本の強盗が勝手に戦  
區内の我同胞を苦しめ  
てゐる

左圖  
「文明のキングコング」



左圖  
將に崩壊滅亡せんとする日本



雙十節陳娟娟黎運寄秀蘭頓波兒的一封信



シャリー・テムブルに求訴する中國兒童の手紙

支那人は考へ丈はうまい。今度は子供を騙り出して小賢しい芝居をうたせる。これはアメリカ映畫の子役スター、シャリー・テムブルに支那の兒童から手紙をやつて同情を求めたものである。本文は次の通りである。

「今度中央社が私達にした報告によると、在支アメリカ領事はアメリカのスター、シャリー・テムブルに打電して我國の受難の小朋友を救けるやうにと請ふた。中央兒童協會員陳娟々、黎運は直接にテムブルに手紙を送つたがその原文を下に翻譯して讀者にお知らせしよう。

抗日宣傳に動員された中國兒童の繪畫作品展

「私達はこゝで展覽會を開きませう。私達の展覽會の繪は日茶苦茶であります、それでも何かを畫いてみるつもりです。筆をもつて繪をかくてある時、敵のブンブンドンドンいふ飛行機や大砲の音を聞き、この時前線で私達の忠勇な兵隊さんが突撃し、敵を刺してゐるのだといふ事を考へると頭が氣狂ひのやうに興奮して、たゞ塗りたくつて畫いたのです、名畫家でもない私達だから、これが繪になつてゐるとは思つてゐません。(以下中略)

大概の傷病兵醫院、收容所を毎日慰問してゐますし、又た漫畫界に御願ひして三幅の救亡畫を畫いて貰ひ、私達も、これを學んで、『中國先鋒隊』を一つ畫いて政府に獻するつもりです、其中には支那の軍隊、タンク、大砲、飛行機などがとんでゐるのを畫きました。十二尺四方の小さい部屋で、貧しい食物で仕事をし、それを全國小朋友の『中國兒童』に送り出版し、『砲火中』『お前の鞭を下せ』『夢に北平に遊ぶ』などは演出され、又た聯華分廠からは映畫に撮られました。侵略者が消えなければ仕事をやめないつもりです。私達には精神があり、力があります、又奥地へ行つて同胞とも握手したいと思つてゐます。」

以上は中國兒童の繪畫作品展開催の趣旨書の翻譯であるがこんなところまで抗日宣傳の手が延びてゐる事を思ふと慄然たらざるを得ない、下はその作品の一部と題名の譯である。



親愛なお友達シャリー・テムブルさん

私達は貴女の映畫を見るのが好きだし、又た貴女も好きです。貴女は或ひは私達を御存知ないかも知れませんが、私達は貴女を一番の親友と思つてをります。貴女、支那の恐ろしい戦争の事御きゝになりましたか？現在大變澤山の支那の子供は皆な食べるものも、着る着物も、住む家もなく、可愛がつて下さるパパ、ママもない有様です。偉大な日本兵がパパ、ママを皆殺しにし、又た日本の飛行機がその家をつつかり爆撃したからです。本當に苦しんでゐるのです。私達は今の俄え凍えてゐる友達を救はうと一心になつてゐます。ですが私達の力は限りがあります。

親愛なお友達よ、どうぞ貴女もこの仕事に加はつて下さい。もし貴女がアメリカのお友達と連絡して支那兒童の忙しさを助けに來られたなら、本當にうれしいです。又どうぞアメリカで兒童に關係のない團體にも私達の事を言つて下さい。私達はこれからも時々支那兒童の有様をお知らせします。貴女も私達にお手紙を下さい。お送りしました寫眞は私達が貴方を愛する印ですが、喜んで下さいますから。どうぞお大切に。

貴女の支那の友達 陳娟々

黎運

十月十日國慶記念

かしこ

1、痛さも、傷もかまはず、彼は早く好く好く再び前線へ行きたがつてゐる。

- 2、この野獸を射ち出せ。
- 3、殺せ、殺せ、殺せ。東京まで殺してゆけ。
- 4、故郷へ歸らう。
- 5、婦女よ、一百万もの綿入れを縫つて壯士に送れ。
- 6、敵を二度と來させるな。
- 7、ア！どこへ逃げやうか。
- 8、見たか



抗戰ビラ(上)  
大上海を防衛せよ

支那側の躍起の戦勝放逐にも  
はらず、上海の戦争は既に我  
れのものとなる事は明白であ  
つた。  
然しこの經濟の一大中心地を失  
ふ事に苦悶した支那側は保衛大  
上海運動を起さざるを得なかつ  
た。

店頭にも排日宣傳  
——日貨不買のホイコット・ビラ——

下のビラは  
何れも上海で蒐集したもの  
であるが今次事變に當つて  
上海全市商店に對し強制的  
に之を店頭に貼付せしめた  
ものである。

全市 實行三大運動  
封日經濟絶交  
勸募救國公債  
慰勞抗敵將士

本店 實行對日經濟絶交  
不賣日貨

上段左の日貨不買のビラ説明

- 「全市民衆は三大運動を實行せよ」
  - 一、對日經濟絶交
  - 二、救國公債の勸募
  - 三、抗敵將士の慰勞
- 「本店は對日經濟絶交を實行し、日貨を賣らず」

告市民書

國民革命軍の北伐の勝利も亦廣大な民衆を獲得した結果に  
よるのである。此等の歴史事實は我々に全民族を團結し、民衆の力量を強化し  
て始めて中華民族を徹底的に解放せしめる事ができる事を告げてゐる。  
現在、日本帝國主義——險惡な敵——は世界を征服せんとし、その爲に先づ我々  
を征服して我々を日本自身の前衛者たらしめようとしてゐる。それは滿洲の同  
胞を上海へつれて来て戦はせたのに同じい。我々が彼等の爲めに犠牲された事  
は一二年に止まらず、もう十幾年である。  
我々は現在、團結せる力量をもつて彼等の陰謀を粉碎せねばならぬ。同胞よ  
！敵人が海陸空三軍で脅威するのは我々が立つた事を證明する。敵人の首相は  
最近、世界に向けて必ず我々を打倒して跪ますか！と宣言した。然し我々  
は膝をつくどころか、足を開く、前へ進む、敵人に平手を喰はす。これでこそ  
堂々たる中華國民の偉大な精神である。我々はこの偉大な國家の主人の名  
に背き、日本帝國主義の足下に踏まれてはならぬ。我々の血の中で國慶を記念  
し、我々の光輝ある生命を嬰子の如く血の中に誕生せしめねばならぬ。同胞  
よ、上海の同胞よ、我々は日本帝國主義の壓迫、搾取をうける事極度に達した  
のだ。我々はまた日本帝國主義の殘暴と兇狼をはつきり知つてゐる。我々の救  
亡の責任はそれ故最も重大である。救亡は自己を救ふ事である。今日我々を  
して國家の主人たらしめる國慶日なる事を記憶して、一齊に奮起せよ！  
民族聯合戦線を強化せよ  
打倒日本帝國主義  
民主政治を完成せよ

上海市文化界救亡協會

市民に告ぐる書

親愛なる同胞諸君、今日は中華民國成立二十六週年の國慶記念日である。中  
華民國はすでに二十六歳となつた。我々は革命の先驅の功績を記念し、國家將  
來の幸福を望む爲めに、今日は熱烈な慶祝を行はねばならぬ。然し今年の國慶  
は往年に比して更に重大な意義がある。民族の獨立解放を獲得する爲の對日戦  
争はすでに全面的に開かれた。日本帝國主義がいかに飛行機、大砲、軍艦、毒  
瓦斯を用ひて猛烈に我が國土を侵略し、我が同胞を屠殺しても、我々全國上下  
はすべて毫も畏懼せず、妥協せず、萬民は心を一にし、血肉をもつて中華民國  
を守衛し、この光榮ある國慶日を持せんとしてゐる。これは何んと偉大壯烈  
な事ではないか。同胞よ、今日こそ、我々は腰背をのびし立上つたのである。  
今日こそ我々の眞心の國慶日といふべきである。即ちまづ第一に二十六年前の  
辛亥革命は滿朝專制政府を顛覆し、五族共和を樹立し、民主政治の基礎を確定  
した。これは勿論慶祝に値ひする。我々は毎年國慶を記念するのはこの爲めで  
ある。只辛亥革命の後世世凱は日本帝國主義に唆かされ、帝制を恢復し、洪憲  
の年號を選定し、我々を振りすて、再び奴隸とならうとした。護國軍が起り、  
袁世凱の迷夢を打破したのであるが、結局軍閥割據の形勢となり、我々を水火  
の中に暮らさせた。この一切は想ひ起せば、皆な日本帝國主義の賜物である。  
故に辛亥革命が端を開いた民主政治を完成するには、必ず日本帝國主義を打倒  
せねばならぬ。第二に中華民國は我等の革命領袖孫中山先生が作つたものであ  
る。中山先生の革命策略は皆な民衆の爲めを考へ、民衆が起つて、その力量を  
發揮する事を望んだ。辛亥革命の成功は中山先生が會黨を聯絡し、與中會を組  
織し同盟會を改組し、後久擴大して國民黨とし、革命聯合戦線を統一した結果

によるものである。國民革命軍の北伐の勝利も亦廣大な民衆を獲得した結果に  
よるのである。此等の歴史事實は我々に全民族を團結し、民衆の力量を強化し  
て始めて中華民族を徹底的に解放せしめる事ができる事を告げてゐる。  
現在、日本帝國主義——險惡な敵——は世界を征服せんとし、その爲に先づ我々  
を征服して我々を日本自身の前衛者たらしめようとしてゐる。それは滿洲の同  
胞を上海へつれて来て戦はせたのに同じい。我々が彼等の爲めに犠牲された事  
は一二年に止まらず、もう十幾年である。  
我々は現在、團結せる力量をもつて彼等の陰謀を粉碎せねばならぬ。同胞よ  
！敵人が海陸空三軍で脅威するのは我々が立つた事を證明する。敵人の首相は  
最近、世界に向けて必ず我々を打倒して跪ますか！と宣言した。然し我々  
は膝をつくどころか、足を開く、前へ進む、敵人に平手を喰はす。これでこそ  
堂々たる中華國民の偉大な精神である。我々はこの偉大な國家の主人の名  
に背き、日本帝國主義の足下に踏まれてはならぬ。我々の血の中で國慶を記念  
し、我々の光輝ある生命を嬰子の如く血の中に誕生せしめねばならぬ。同胞  
よ、上海の同胞よ、我々は日本帝國主義の壓迫、搾取をうける事極度に達した  
のだ。我々はまた日本帝國主義の殘暴と兇狼をはつきり知つてゐる。我々の救  
亡の責任はそれ故最も重大である。救亡は自己を救ふ事である。今日我々を  
して國家の主人たらしめる國慶日なる事を記憶して、一齊に奮起せよ！  
民族聯合戦線を強化せよ  
打倒日本帝國主義  
民主政治を完成せよ

上海市文化界救亡協會





山西戦線に於ける宣傳ポスター（二）  
こゝに掲げた大形のポスターも正太鐵路同人救國會のものである。民衆を煽動し、組織するの狙つたものである。以下その譯文を載せる事にする。

大同協進會  
「同胞達よ、再び敵國の商品を買ひ、甘んじて亡國奴となるな—」  
「同胞よ、速かに目醒め、世界は平和となる事はできないのだ—」  
「死をも恐れなければ、即ち國を救ふ事が出来る—」  
「和平論の漢奸を打倒せよ—」

打倒主和的漢奸

同胞們!!!  
不要再買仇貨甘心做亡國奴

打倒賣國賊曹汝霖

一日不滅日本世界不能和平

祝李漢奸李思浩

同胞速醒打倒倭奴

擁護蔣委員

反抗錢到衣

不怕死即能救國

「賣國賊曹汝霖を打倒せよ—」  
「蔣委員長を擁護せよ—」  
「徹底的に抗戦せよ—」

大同協進會  
「同胞達よ、速かに目醒めよ—」  
「同胞達よ、早急に武裝し、政府の後盾となれ—」  
「同胞達よ、日本の鐵路の下に潜伏するな—」  
「世界平和を破壊する漢奸を打倒せよ—」

「民衆は結合し、大上海を保護せよ—」  
「美奸となるのは、全盟の公敵である。一人一人、殺すべきである—」  
「徹底抗戦せば、必ず最後の勝利が得られる—」

民衆組織起  
未保衛大上海

同胞們!!!  
快醒!!!

做漢奸是全國  
的公敵、可殺

同胞們速醒快武  
裝起來

抗戰到底必  
得最後勝利

同胞們!!!不可  
屈於日本

打倒破壞世界  
和平偽奴!!!

侵略者ハ君等ノ血肉ヲ吸フテキルノヲ觀  
愛ナル日本ノ兵士諸君ハ已レノ殘酷ヲ  
他人ニナスリツケヤツトシテキルノダヤツラ  
ノカラクリヲ見ヌケ!

日本平和同盟

支那ノ人民ノ敵ハ唯一ツ橫暴ナ軍閥ダケ  
グ軍閥ニ強壓サレテキル日本民衆ヨ深イ理解  
ト同情ヲ與ヘヨ

日本平和同盟

我等ハ國際主義ノ精神ダ支那ノ

兄弟ト親密ニ手ヲニギラツ

日本平和同盟

戦線ノ諸君ハ命ヲ無駄ニスルナ苦シイ生  
活アレハレナ家族ヲ思ヒ出シ誰レガ諸君チドン  
底ニオトシタカト自ヲ開ケ親愛ナ日本ノ兵  
士ヨ

日本平和同盟

北支に於ける反日宣傳

事變初期津浦、京漢兩戰線一帯に  
進撃中の我軍に對して高度約二千  
米の上空から支那飛行機が撒布  
した日本語の傳單である。

日支ノ親善ハ平等ト平和ノ  
共存共榮カラ

日本平和同盟

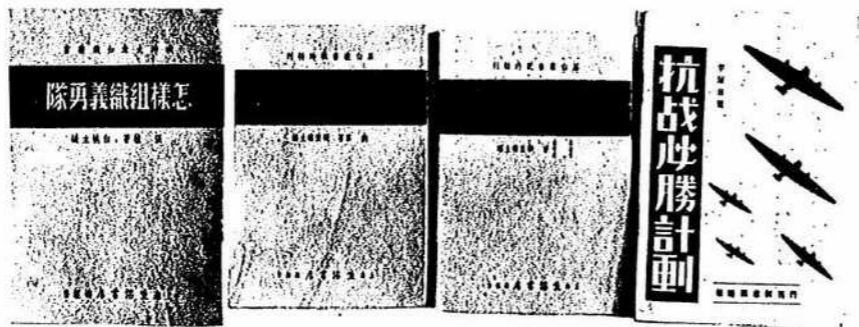
ヨケイナ侵略チャノヤツ  
同文同種ノ支那兄弟ハ解ノマイ

日本平和同盟

北支に於ける反日宣傳  
事變初期津浦、京漢兩戰線一帯に  
進撃中の我軍に對して高度約二千  
米の上空から支那飛行機が撒布  
した日本語の傳單である。

傳單の内容は世界大戰時の傳單文  
句をそのまま直譯したものあり、  
二、二六事件からヒントを得てデ  
ツチ上げたものあり、何れも我方  
の士氣を革命に轉換せしめんとし  
たものであるが我兵によつて一突  
に附され戰場の珍品として後方に  
送られたものである。

此處に掲げられたものは活字印刷  
文であるが漫筆入りのものもあり  
歩哨線通過證といった巧妙な降服  
誘導の傳單もある。



抗日書籍片々(一)

戦争の擴大に從つて、國內民衆を指導すべき工作は雑誌のみでは果せない。そこに單行本を出す契機も生ずる。これらの山の如く出た單行本は

- 一、民衆の戦時に於ける常識の普及、軍事常識叢書等の發行による啓蒙工作
- 二、如何なる些事も英雄化し美談化して民衆の感情に訴へる事
- 三、學問的根據がありさうに見せかけた、抗日必勝又は日本崩壊の必然性を論ずる著作
- 四、有名な文士を動員して煽動的な小説戯曲を作る事等々に分ける事も出来る。

上段

抗戰必勝計劃(民國廿六年十一月 李冷日著、新華出版社發行)  
これは表にして抗日の基本原則、抗戰の方法、勝つ結果、對敵宣傳の組織方法を現はしたもので、代數式的に書いたものである。最終頁の勝利の利益の項に曰く、東北五省、平津の回復、四億同胞の解放、日本の不平等條約廢除、巨大な賠償金をとる、國際地位を高める、民族復興と國家獨立と。

戰時的婦女工作(麗瓊等著、民國廿六年十月 生活書店發行)  
全面抗戰の時に當つて、婦女も當然參加すべきであるといふ見地より書かれたのである。

宣傳、救護、慰勞、慰勞、經濟、開課(反漢奸)等の仕事に婦女が従事すべき事を書いてゐる。

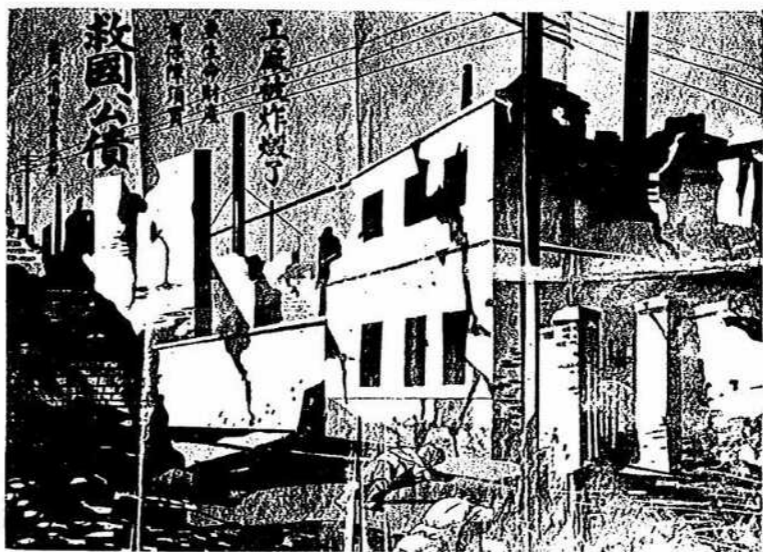
戰時的宣傳工作(劉群著、生活書店刊)  
宣傳工作の重要性を述べ、その概要を説いたものがあるが、特に具體的なれと強調し、演説ポスター、標語ビラ、漫畫、映畫、演劇等全體について述べてゐる。

怎樣組織義勇隊(民國廿六年九月 張桂著、生活書店發行)  
內容概略「偉大な民族抗戰の最後の勝利を得る爲には我々四億四千七百萬の各個人が全力で三百萬の戰士を擁護、後援、支持したりする外に、更に自己を武装し、前線に行き、祖國の爲に戦はねばならぬ。その爲には速かに義勇隊を組織すべきである、民衆武装の現はれとして便衣隊、遊撃隊スパイ等を



愛國の同胞  
要購買救國公債!

上海的文化界救國會  
上海の職業界救亡協會  
上海の學生界救亡協會  
上海の戲園界救亡協會  
婦女運動促進會



救國公債募集ホスター

無謀な抗戰による戦線の敗退もさり乍ら、軍費缺乏も目に見えて著しくなる。夢のやうな條件で民衆を誘惑し、遮二無二公債を賣りつけ軍費を捻り出さうとしても、成功する筈はない。

これは上海に於ける救國公債勸募の宣傳ホスターである。

上段左

文化機關破壊さる。  
文化を保存せんと欲すれば國防を鞏固にすべし。  
國防を鞏固にする爲に速かに救國公債を買ふべし。

上段右

- 救國公債勸募委員會製
- 上海市文化界救亡協會
  - 上海市職業界救亡協會
  - 上海市學生界救亡協會
  - 上海市戲園界救亡協會
  - 婦女運動促進會

下段

工場は破壊された。  
生命財産の保障を欲せば須からく救國公債を買ふべし。

救國公債勸募委員會製

考へてよい。そして戦争には別動隊として参加したり、又は運給、救護、偵察等に從事する。一方敵軍では交通を破壊し、治安を亂したりする。」

前頁下段

七君子事件（民國廿六年十月 時代文獻社發行）

所謂人民戦線、抗日統一戦線、内戦停止などの一ポイントをなした沈鈞儒、王造時、鄒穎奮、李公樸、沙千里、史良、章乃器等の七君子事件を述べた本である。序文には事件の経過を述べ、第二に起訴公判書答辯書を載せ第三に輿論一斑として各新聞雑誌の論評、第四に情報として市民の上申書各界各名士の打電、第五に獄中人訪問として彼等の獄中生活記を、第六に獄中人の家庭状況として彼等の妻子、両親の有様を述べ、附録として各辯護士の辯論や全國各界の救國聯合會成立、宋慶齡夫人の言論を載せてゐる。

失地記痛（民國廿六年八月 陶允德編、宇宙風社發行）

編者曰く、九月十七日の晩、私はよく眠つてゐた。翌朝目がさめると已に東北は我領でなくなつた。今第三の九一八を迎へて、民衆の抗戦気分を見るに涙が出る。東北は私は今に愛着を感じるよい土地である。故に失地後の東北を知りたいと思つてゐる。失地の有様を述べた文章は私が編輯した書物に頗る多く載つた、今これを収集して民衆に示すのも、無意義でないと思ふと。

敬せるもの八編。失地記痛、流淚話東北、僑國通訊、諸君今日之瀋陽、等である。中に日本に留學してゐる滿洲國人と中國人學生との思想的交渉を扱つたものがある。

抗戦與覺悟（民國廿六年十月 郭沫若著、大時代出版社發行）

著者は永く日本にあつた人であるが、その日本に居たと云ふ經歷は悪用されて、

人をして憫笑せしめる底の情ない日本論を書いてゐるのである。

「我々は何故抗戦するのか」では日本は世界平和を破壊する狂犬である我々は祖國及び全人類の爲めに起つのだといひ、

「抗戦と覺悟」では長期抗戦をせよ、たとひ我國が破れてもそれ支那農民の日貨の購買力が減るのだから、やはり我々の勝利だとし、

「理性と獸性との戦ひ」ではファツシズム及び日本を獸性とし、人民戦線、支那を理性としてゐる

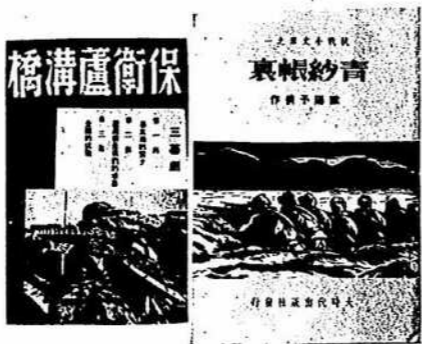
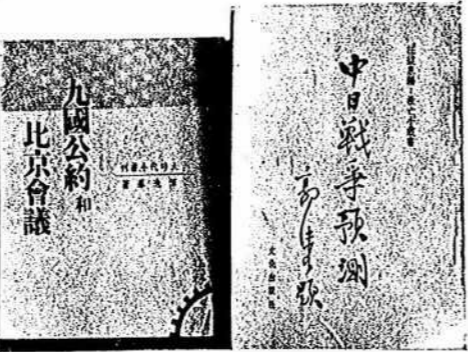
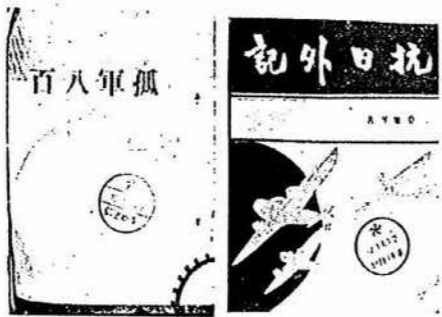
「日本政治家に忠告す」では窒息させられてゐる日本政治家も決然起たねば、結局日本は亡びると論じてゐる。

抗日必勝論（民國廿六年十月 章乃器著、上海雜誌公司發行）

内容、概略、第一章、支那は必ず破れる、とか五十年後に抗日せよと云ふ機械的失敗論者では國は救へない。第二章、日露戦争、日本の地震が起る事をあてにする確信なき機會主義的抗日論を批判し、第三章、科學的抗日必勝論は冷靜な客觀的條件—世界の趨勢、日本の内情、支那の實力より必勝を結論する。

第四章には沒法子的機械的定命論を排斥する。

第五章日本を打倒して支那が東亞の盟主となると云ふ帝國主義的戰爭論も排斥する。



抗日書籍片々（二）

上段

抗日外紀（民國廿六年十一月、章雅羅著、中國圖書雜誌公司發行）

これは種々の話を集めたもので、大衆的な内容を持つてゐる。「ヒンデンブルグの遊撃戦術と中國抗戦」ではタンネンベルグの大勝もゲリラ戦の爲だといひ、「南京第一次の空中戦観戦記」では日本の飛行機がボンボン落される事になつてをり、「日本人は死を怕れる民族だ」ではお守りや佛教を信するから日本人は死を恐れるといひ、「重機関銃手」では一機関銃手が單身數倍の日本兵を殺したといひ、「京漢線の前線」では安陽附近は土器の出る所で我が支那民族の祖先の地である。そこを日本軍が荒したと知り、「賣られ行く日本女性」では日本の女性は何故妓に賣られるといつてゐる。

孤軍八百（民國廿六年十月 祖澄編）

中段

中日戰爭預測（民國廿六年十月 汪復泉、文化出版社發行救亡小叢書）

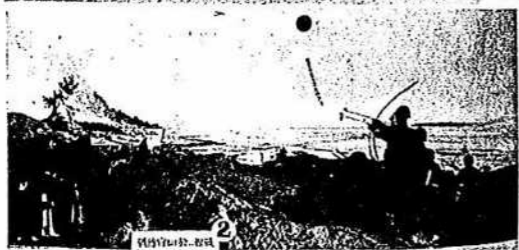
本書は色々な人の論文を集めて作つたものである。第一章は今回の戦争が神聖な民族解放の抗戦であるといふ事を、蔣介石のロイテル通信員に語つた「中日戦争論」やレーニンの「民族戦争論」を載せて知らせ、第二章は中日實力の比較と題し、「彼我軍力の對比より抗敵戦争を論ず」や「蘇聯の見大日本作戦能力」「日本陸軍軍力の計算」なる三篇の論文を載せる、いはんとする所は兵員では支那は日本に勝り、且つ日本は足もとに臺灣、朝鮮等の不安が



### 支那事變と思想戦

思想戦にも勝たねばならぬ!

大バノラマ「支那事變と思想戦」  
(一)支那の抗日教育  
支那の抗日運動は國民政府の遠大、執拗なる抗日教育に依つて



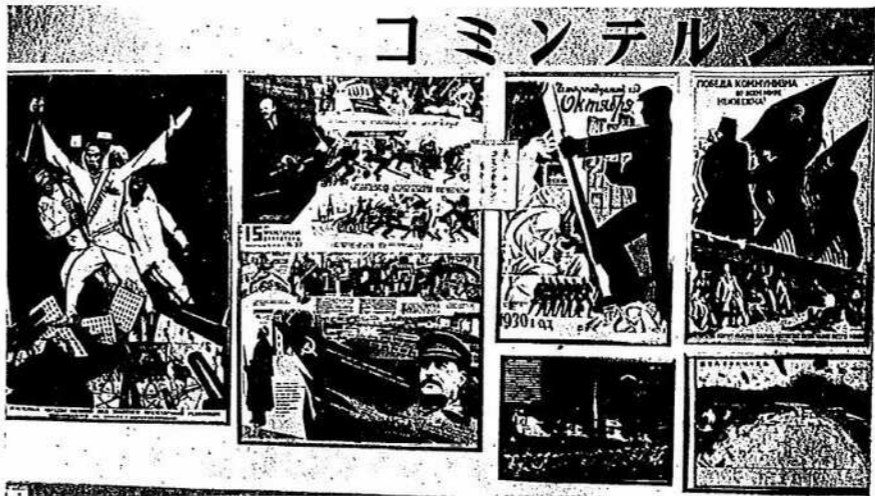
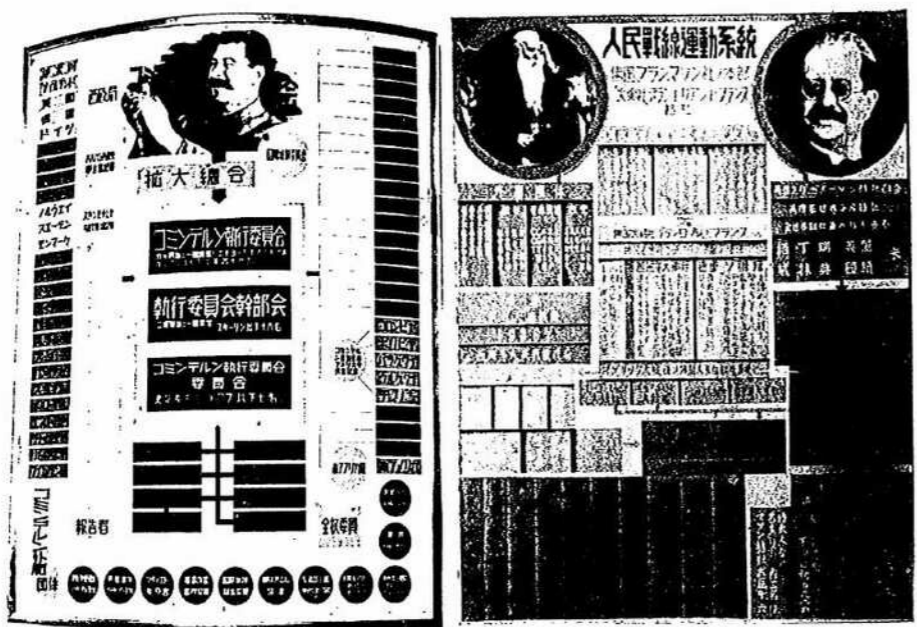
大バノラマ「支那事變と思想戦」  
(二)皇軍の宣傳工作  
今次事變に於ける皇軍の目的は抗日の主體たる國民黨及び抗日軍と戦ふのであつて、罪なき良民を敵とはしてゐない。従つて皇軍の行く處、歴史に於ける人道的平和工作を進められ、新しい支那が建設されてゆくのである。この工作の主體をなすものは皇軍の宣傳工作であつて、戦禍を受けた良民の生活再建の爲に治安維持會の設立、食糧其他生活必需品の給與、醫務、建設工作が進められ、支那良民の感謝は永久に搖ぎなき日支親善を目標とする國民臨時政府の樹立、維新政府の誕生となつて現はれたのである。

大バノラマ「支那事變と思想戦」  
(三)皇軍の宣傳工作  
今次事變に於ける皇軍の目的は抗日の主體たる國民黨及び抗日軍と戦ふのであつて、罪なき良民を敵とはしてゐない。従つて皇軍の行く處、歴史に於ける人道的平和工作を進められ、新しい支那が建設されてゆくのである。この工作の主體をなすものは皇軍の宣傳工作であつて、戦禍を受けた良民の生活再建の爲に治安維持會の設立、食糧其他生活必需品の給與、醫務、建設工作が進められ、支那良民の感謝は永久に搖ぎなき日支親善を目標とする國民臨時政府の樹立、維新政府の誕生となつて現はれたのである。

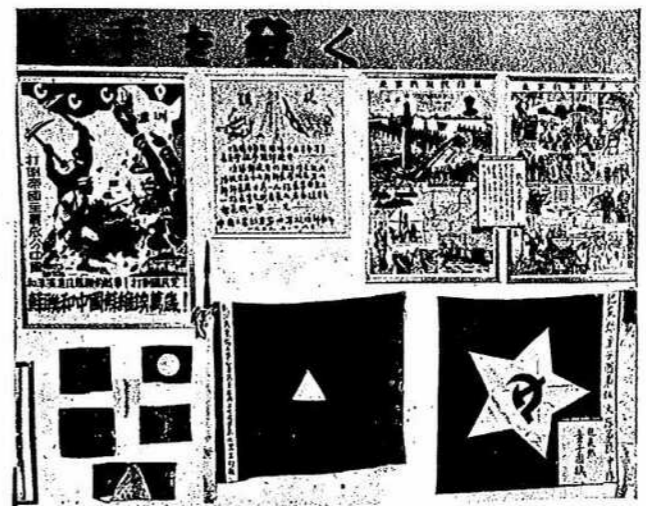
ある、物力でも日本は資源に不足するから、支那は勝つといふのである。第三章は「我等の戦略、戦術」といひ、彭德懷の戦術として人民全體武装と持久戦を述べ、劉志堅の抗日戦争の戦術も同様な事をいつてゐる。最後に馬一行は「我々は日本の封鎖をどう破るか」と題し、東南諸島として香港、西南諸島として佛領印度支那、西北諸島として外蒙に通ずる三路のある事を述べる。第四章は中日戦争豫測とし毛澤東の中日戦争論、凌青の中日戦争の豫測、趙亮の中日戦争假想がある、それらは何れも全面抵抗によつて最後の勝利を得る事を期待してゐるものである。最後に伊藤政之助少将の論文の總譯がある。九國公約和比京會議(民國廿六年十一月 碧泉著 大時代出版社發行) 九國條約はどうして出来たか、その内容條文はどうかを述べ、次に日本は二十一ヶ條條約成立以來次々とそれを無視し破壊してゐると説き、滿洲事變の際の國際聯盟の始末を述べ、今度のベルサイユ會議との差異を條文より述べ、次に本會議の開かれたのは英國の發案であり、その意圖は何たるかを述べ、最後に本會議の前途を述べ、調停するには英國の條件と日本のそれとは一致しないとし、結局國際的制裁が日本に與へられる事を希望してゐる。

青紗張裏(抗戦小文庫の一、民國廿六年十月 歐陽予倩著 大時代出版社發行) 著者は劇通の人で、日本人とも親交のあつた人である。 内容大意  
第一幕 滿洲事變後の熱河某村百姓張夫妻及子供が話してゐる所へ奉天の學校へ行つてゐる張徳が歸つてくる。彼は學校で先生から中華民國を外國として教はつた事に憤慨して歸つて來たのである。すると早速警察の人が來て張徳が歸つたら知らせろといふ。

第二幕 張徳は家で近隣の子供を教へてゐる。村長が來て、教育ある人を作るのは政府が好まない、學校を開くのはよくないといつて歸る。そこへ、伯父の李がやはり官憲に追はれたのだといつてくる。一同悲憤する。すると巡査が來て張徳を捕へようとする。李は巡査をうち殺す。  
第三幕 一同は山中に逃れてゐる。すると、支那事變が起つたといふニュースが入る。一同は徹底的抗戦を叫んでたつ。  
保衛蘆溝橋(民國廿六年七月中國劇作家協會會員集體創作の一 戯劇時代出版社)  
第一部 「暴風雨の前晩」蘆溝橋附近の農村、百姓劉は喜峯口で日本軍と戦ひ足を一木なくした、百姓了、李と語してゐる。そこへ王が來る。彼は日本兵が近邊で演習をするといふ。一同は又農作物がだめにされると怒る、やがて砲聲が聞える、日本兵が來て通る、一同は怒る。やがて支那兵が來る。一同は日本兵を追出せと叫ぶ。  
第二部 「蘆溝橋は我々の墳墓だ」  
宛平附近の村、支那軍の一部がある。そこへ百姓が日本人に村中を荒されたと救ひを求めに來る。兵士達は出かけようとする。中隊長は止める。一同は我々は支那人の軍隊だといつてきかない。やがて他處で日支衝突する。一同も戦ひをひらく。百姓も兵士を助ける。  
第三部 「全民の抗戦」宛平縣  
大工、壁屋などが土裏を作つてゐる。一同は徹底的に日本を討つべしといふ。そして蘆溝橋は我々の墓だといひ、退却命令も承知しない。そこで幕となる。



るあでのもす結連てしと體一全は圖下と圖上



我國に赤化の魔手が延びてから久しくコミンテルン一派の陰謀は各方面で喧傳されて居たが、具體的な證據に接する機会が與へられなかつた。今度思想發展を機としてこの恐る可き赤化の魔手は具體的な實物證據に依つて國民一般に呈示され、今更ながらにその陰謀の深遠且執拗な事に驚愕と憤慨を呼び起したのである。

右上一一般に云ふフリーメーソンの陰謀特に日本に對する工作を圖表化して説明したものである。左上一世界赤化の陰謀本部コミンテルンの本部及び赤化網を體系的に圖表により明示したものである。右下一對日思想戦宣傳謀略は何をねらふか、英、米、佛、露の兩大民族運動による思想宣傳戦の主要目標及目的概要を體系的に圖示したもので最下段の條項（目的）に注意せられ度い。



帝國主義諸國はソ聯邦を攻撃せんとす  
ソヴェエトを守れ!



青年共産黨員よ!  
蘇聯の國防を強化せよ!

ソ聯のポスター (一)

毒蟲を壓しつぶせ!  
我等のソヴェエトの裁判をして全世界  
のプロレタリアートの名の下に彼等を  
裁かしめよ



(73)



左  
ソ聯五年計畫宣傳ポスター  
左下  
「プロレタリア革命旗の下に殖民地の被壓迫民族は帝國主義との戦闘の爲に立上つてゐる」と題するポスター  
下  
バルセロナ市コロン・ホテルの正面に裝飾されたスペイン動亂に於ける人民戦線派のポスター類、レニンの肖像入りのポスターも掲げられてゐる。

上掲のソ聯ポスターは横三間縦一間半といふ大きさで十五枚の部分畫を貼合せて全圖を構成するものである。



(72)



世界反政の策防のしにソ聯  
！境の忠實なる兵赤軍萬歳！

ソ聯のポスター (三)



希羅教とブルジョアに對して  
！防衛力と赤軍の戰鬥力強化！



ソ聯の防衛強化せよ！



赤軍學校に入學せよ！



資本主義と白色テロと飢饉と戦争とに  
！對抗する革命の波は刻々と起り  
つゝある。

ソ聯のポスター (二)



全世界のプロレタリアト及び被壓道  
！民族よ、世界革命戦に起て！



被壓道民族と手を握らう。





！だ的定決は利勝の義主産共るけ於に界世全  
血と者義主産共ーリバはアヨジルブの界世全  
りあいつし爲を争闘の



ソ  
聯  
の  
ポ  
ス  
タ  
ー  
（  
五  
）

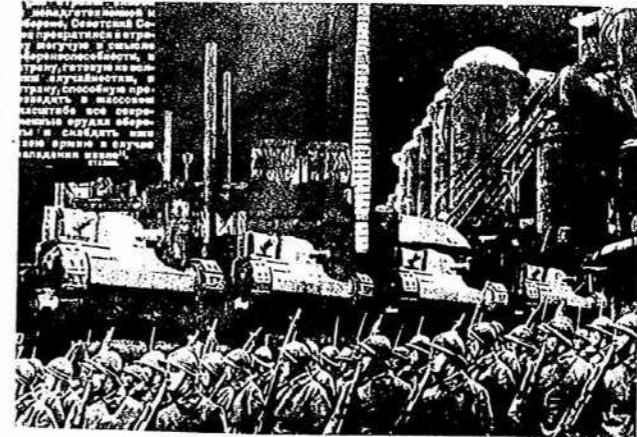
す化強し有發し大標は黨ソニール  
！へ黨ソニールは員隊聚突き善の場農及場工



ー  
タ  
ス  
ボ  
帝  
反



風  
颯  
の  
命  
革  
月  
一  
十



國防未準備の弱小國からソ聯は強  
力な國となつた。非常時に備へ凡  
ゆる近代兵器を生産し外敵の攻撃  
に際し我國にそれを供給し得る國  
となつた。

( 四 ) ー  
タ  
ス  
ボ  
の  
勝  
リ



念  
紀  
年  
週  
四  
十  
の  
命  
革  
月  
十  
ー  
タ  
ス  
ボ



年  
週  
五  
十  
載  
獨  
ア  
リ  
タ  
レ  
ロ  
ブ  
ー  
タ  
ス  
ボ  
念  
紀



蘇聯報

頃接中華蘇維埃中央革命軍事委員會秘書陳帥電：頃接鄂皖電昨報：馮玉祥之敵共活捉五十七師師長梁鴻恩第七師師長厲士昇一旅長李士龍二旅長李文彬團長七名無線電七架飛機一架——完

中國工農紅軍第四軍政治部翻印 一九三二、五、十八日

國民黨十大罪狀

一、帝國主義的代理人。二、民族利益的賣出者。三、土地革命的障礙者。四、農民利益的剝奪者。五、工人利益的剝奪者。六、青年利益的剝奪者。七、婦女利益的剝奪者。八、知識分子的剝奪者。九、全國人民的剝奪者。十、全國人民的公敵。

支那共產黨之反國民黨運動

一九二七年（昭和二年）武漢に於て遂に分裂した國共兩黨は對立抗爭し、支那共產黨は

支那共產黨の反國民黨運動

一九二七年（昭和二年）武漢に於て遂に分裂した國共兩黨は對立抗爭し、支那共產黨は

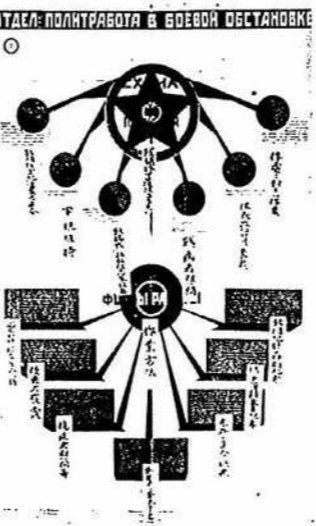
國民黨十大罪狀

一、帝國主義の代理人。二、民族利益の賣出者。三、土地革命の障礙者。四、農民利益の剝奪者。五、工人利益の剝奪者。六、青年利益の剝奪者。七、婦女利益の剝奪者。八、知識分子の剝奪者。九、全國人民の剝奪者。十、全國人民の公敵。

支那共產黨の反國民黨運動

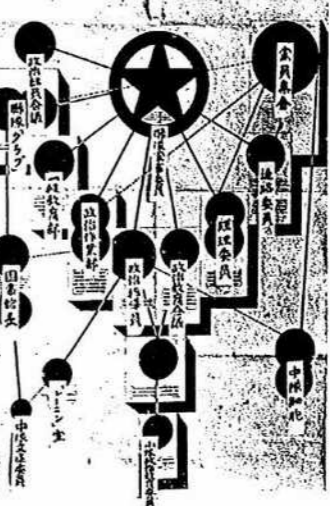
一九二七年（昭和二年）武漢に於て遂に分裂した國共兩黨は對立抗爭し、支那共產黨は

紫作治政ル於ニ時戰



國統系閩機部治政隊聯

СХЕМА ПОЛИТАППАРАТА ПОЛКА

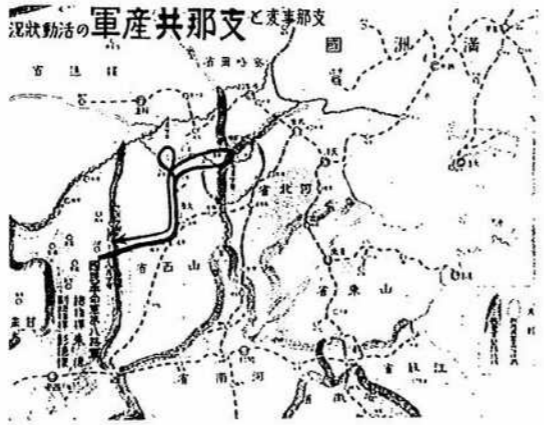


ソ聯赤軍の政治作業の一端



赤軍壁新聞の範例

新開		班	開	新
例	範	局	支	的
社	面	會	社	樂
軍	活	生	軍	我
行	發	稱	名	ヨセ
報	論	活	生	ノ
報	情	會	社	軍
報	情	軍	赤	室
ソガールス				



支那共産軍の蠢動  
 滿洲國熱河で蠢動して来た共産匪の團旗である。  
 こうした治安の擾亂の後にも赤い魔手があるのである。  
 昭和二、三年頃福建省龍巖縣で暴徒を振つて来た支那共産軍の團旗や腕章である。  
 日支事變が起るや、陝西に蟄居して来た共産軍は到る處にその暗躍を開始した。寫眞はその昨年末に於ける状態を地圖で概示したものである。



共産黨の自己宣傳  
 國共一たび合作するや、共産黨は公然と自己を誇示した書籍を氾濫させ、以て民心を收攬せんとした。  
 共産黨の偉力は神秘的にまで高められ、國民黨の影はうすくなって来た。こゝに掲げた書籍は何れもさうした意圖を持つたものである。  
 「國共合作的未來」(馮傑著 今日問題研究社發行)  
 内容 國共合作は数々の苦難を経て成つたもので、一朝一夕のものでない。之に依つて支那は新しい未來を有する事となつた。我々は團結して敵に當り、たとひ沿岸の大部會がとられてもそれは列強のものであるから、意に介せず、内地に入り焦土の中から新支那を建設すべきである。  
 「聯合戰線與中國抗戰」(朱德等 解放出版社發行)  
 各人の論文を集めたもので、支那反日帝國主義聯合戰線は、世界反日戰線の成立促進、日本帝國主義下の人民に革命を起させる事等で最後の勝利を得る事が出来ることと述べてある。  
 「二萬五千里的長征」(朱笠夫編 抗戰出版社發行)  
 共産軍が國民黨に追はれて江西省から陝西省に逃げた經過を述べたものであるが、この行動を偉大なりとしてある。  
 「毛澤東印象記」(斯諾進歩圖書館發行)  
 エドガー・スノーと毛澤東との會見記の支那譯である。スノーの紹介で共産軍は有名となり、偉大視されて來、國共合作の機運が起つた。  
 「八路將軍列傳」(趙鐵琳論 自力出版社發行)  
 共産軍の人物の傳記、訪問記を載せてある。終りに「抗日的第八路軍」(張國平論 抗戰出版社發行)  
 先づ紅軍は抗日の爲めに第八路軍となつた、第八路軍は和氣調々としてゐるといひ、次に中國人民抗日軍政大學の教育方針、八路軍の精神等を載せてある。

六月十日事件は日本の侵略を  
種々の英文報告書  
朝鮮共産党の暗躍  
朝鮮共産党の活動は、  
朝鮮共産党の活動は、  
朝鮮共産党の活動は、

朝鮮共産黨の暗躍

朝鮮共産黨第一回大會に  
出席した者等は、  
朝鮮共産黨の活動は、  
朝鮮共産黨の活動は、  
朝鮮共産黨の活動は、

共産青年團設立  
第五週年紀念の由り  
共産青年團の活動は、  
共産青年團の活動は、  
共産青年團の活動は、

KOREAN DELEGATION  
THE PEACE CONFERENCE  
THE CLAIM OF THE  
KOREAN PEOPLE AND NATION  
FOR LIBERATION FROM JAPAN  
AND FOR THE RECONSTITUTION  
OF KOREA AS AN INDEPENDENT STATE  
Petition  
APRIL 1941

DON'T BUY  
JAPANESE GOODS  
"QUARANTINE"  
THE AGGRESSION

BOYCOTT  
TO STOP  
JAPAN  
AGGRESSION

RELEASE PEACE LOVING  
JAPANESE LEADERS

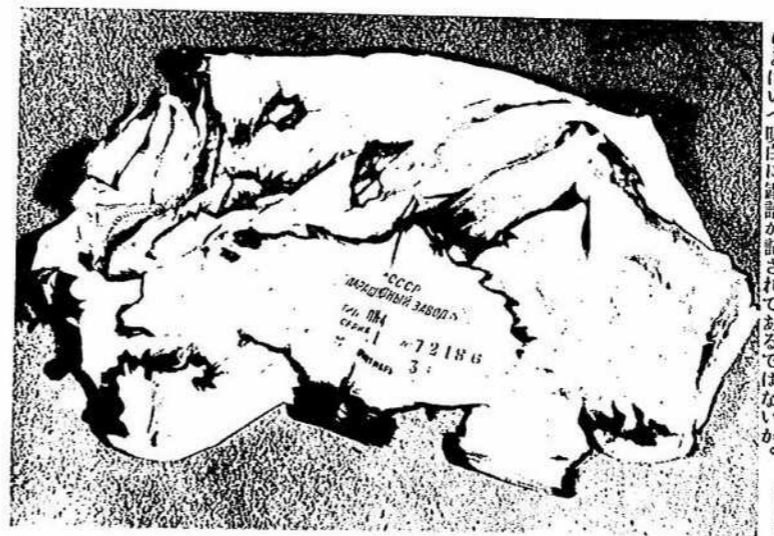
DEMONSTRATE IN FRONT OF  
THE JAPANESE CONSULATE  
44-51 5th AVE. 23rd ST. N.Y.C.  
TICKET AGAINST JAPANESE GOODS  
AT 1212 3RD ST. 3RD FLOOR  
FRI. MOON. DEC. 24

右 日排排のラビ、上は特に本日の本報を買わない動向をもつて、本日以下に於て三名の平和を主張する者、左は九一九年一リ婚議の朝鮮共産黨の活動家、右は本報の編集者、左は本報の編集者、

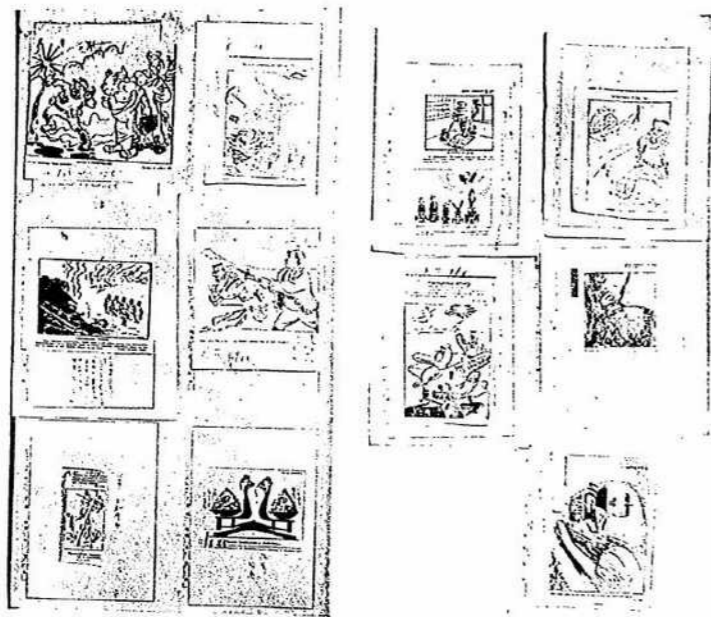
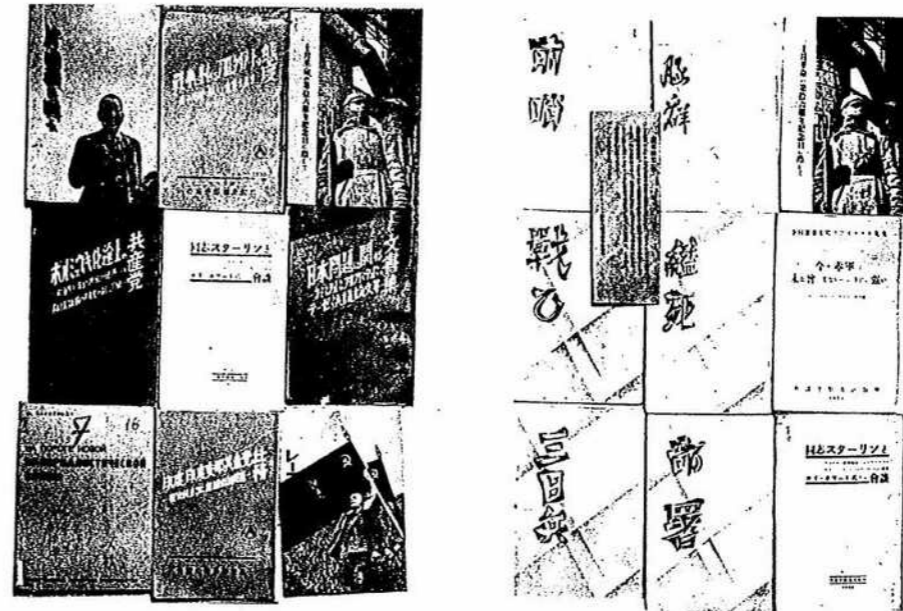
第八路軍の活動  
事變が起つてから、第八路軍は山西を本拠として北支に活動した。  
上は察哈爾省蔚縣の人民抗日自衛隊司令部の報告である。  
内容の大意、日本帝國主義は我國を侵略して四十餘年になる。六年前失はれた滿洲の同胞は、今苦しい生活をしてゐる。蘇滿協定は第二の滿洲事變である。日本は全力を以て我々を攻めて来た。我々も全民族一致して抗戦せねば生路はない。我軍は命を奉じて前線に行くが、日本を追い出さぬ限り止めない。我軍は軍規厳正で、人を攻めず、金を奪はず、品物も取らない。借りたものは返すし、壊した物は償償する。買物すれば金を與へるし、人や車を捕へば貨銀を拂つて人民の福利を圖るものである。只スパイ、漢奸は各界の同胞は安んじて業に勵み、一致して抗日救國運動を助け、軍人合作を實現せよ、我軍は人にして不正の行ひあらば報告せよ。

國民革命軍第十八集團軍總司令部佈告  
我十八集團軍總司令部は、  
國民革命軍第十八集團軍總司令部佈告  
國民革命軍第十八集團軍總司令部佈告

國民革命軍第十八集團軍總司令部佈告  
總司令朱德、副總司令彭德懷  
中華民國二十六年 月 日



下、週報第六十九號の記事に依ると、  
二機は六月二十六日午前十時頃、  
二機は六月二十六日午前十時頃、  
二機は六月二十六日午前十時頃、  
二機は六月二十六日午前十時頃、



上  
日本人海員労働者に対してアメリカ及上海の共産黨が發行した日本文化文書  
下  
ソ聯新聞に掲載された抗日漫画



ソ聯の對日本宣傳物  
此處に掲げた寫眞はモスコイで發行された日本文の共産主義宣傳のパンフレット類であるが、論文、決議のほか日本人黨員の手になる短篇小説もある。ソ聯には極東大學あり、黨組織中には對日本宣傳部あり、日本人が相當活躍してゐる事は周知である。嘗て北嶺渡と共に滿洲國からソ聯人退去の際多量の日本語活字を買上げて行つた事などから推察してもソ聯の對日宣傳工作の如何に執拗であるかを知る事が出來やう。

一タスポ及誌報の行發派線駐民人ソイベス



Estampa

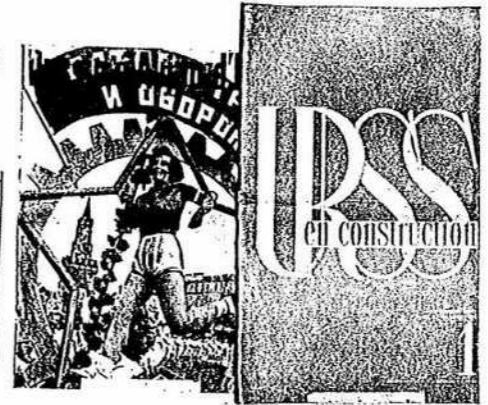


"MADRID SERA SIEMPRE NUESTRO", dice el general Miaja que, con los demás consejeros de la Junta de Defensa de Madrid, habla a los españoles en este número de "Estampa".



( 87 )

宣義主産共るせ行發が派線駐民人及黨産共  
類誌報の傳宣化文及物版出の傳



( 86 )



現地に於ける我方の宣傳宣撫工作

戦火華北の地に發し、砲煙支那全土を覆ふに至る間その背後にあつて武器に依らざる戦争は世紀の黎明を呼んで戦はれて来た。

邪惡なる世界の目に皇軍正義の進撃を映し、陰險醜くなき國民政府の惡宣傳を打破して中國國民及兵士に對して破邪顯正の報道宣傳を行ふ

一方、世界戦史上曾てなき人道的宣撫工作が進められたのである。

次に掲ぐる寫眞の内特に注目すべき宣傳物は支那全土、戦線、後方に亘つて行はれた空中宣傳の傳單である。その種類にして數百を越え、その枚數にして各種數十萬、數百萬枚を以てした傳單は漫畫、寫眞の利用によつて世界大戦時の空中宣傳を凌駕してゐる。

敵將をして日本側傳單を拾ふ者は銃殺すると佈告せしめた程、戦争の新しき武器として威力を發揮した事は屢々報道された通りである。戦線未だ治らざる時、堂々防共新中國建設のポスターが中國民をリードしてゆく姿は更にその力の大なるを痛感せしめる。宣撫班に就ては六九頁を参照せられ度い。

今次事變に於ける我軍の佈告文とポスター

**佈告**

為佈告事今後凡於日軍之作戰地域内倘有做下列之行爲或希圖做下列之行爲者決予嚴懲不貸縱該犯屬于第三國人亦不得保障其自由

一 做間諜之行爲

一 對日軍作反逆之行爲及教唆反逆日軍之行爲

一 其他危害日軍安全之一切行爲

昭和十二年九月一日  
大日本軍司令官

**華北乃華北人之華北**

日本軍佈告

事變が起るや否や、直ちに我軍は佈告及ポスターを以て我方の眞意を表明した。

「北支は乃ち北支人の北支だ」

「日本軍の、暴を除き良を安んずる善意を信任せよ」

「北支民衆は結束し、北支人の北支を建設せよ」

**華北民衆結束起來 建設華北人之華北**

大日本軍佈告

大日本軍佈告す、近來各地に日本軍事通信、運輸を妨礙する事件續出す、今後日本軍は電線の切斷、鐵道の破壞或は本軍の交通運輸を妨礙するものには嚴重に處罰す各地民衆は務めて慎重に注意し、電線、鐵道、道路の愛護を擔任し、且つ匪賊の破壞行爲を防止して不測の災厄を免るゝを必要とす、こゝに佈す。

違ふ事なかれ

大日本軍司令官

大日本軍佈告

大日本軍佈告事 近來各地妨礙日本軍事通信及運輸案件迭出不窮自今而後日本軍每遇發現切斷電線破壞鐵路或妨礙本軍之交通運輸者一律從嚴懲辦各地民衆務須慎重留意擔任電線鐵路及道路之愛護並遏止匪類之破壞行爲以免不測之厄運為要 茲佈

大日本軍司令官

大日本軍司令官



日本軍隊是爲肅清中國  
赤化而來的  
中國民衆所以均誠歡迎  
羣友之來臨



上  
「日本軍隊は支那の赤化を肅清せんが爲に來たのである。支那民衆は故に誠をつくして親友の來臨を歓迎する」  
「や！兄弟の骨肉を薪として焼いた料理を華國の客に獻げてゐるではないか！」  
下  
「赤化の魔手に操縦されて支那は死路へ走つてゐる」



我軍の戦線に  
於ける空中宣傳  
今次の事變は何よりも  
先づコミンテルンの魔手  
がもたらしたものである  
事、且つ國民黨が彼等に  
踊らされてゐる事、これ  
らを闡明して、ただに民  
衆のみでなく、支那兵士  
にも知らせ、無益な戦争  
を止めしめんと空中から  
無数のビラが撒布された

## 日軍百萬陸續向 杭州灣北岸上陸

數百艘の巨艦滿載着日軍百萬、飛機數百架、海軍巨砲數百尊、互相協力齊向杭州灣北岸上陸、趁着中國的空虛、着々向北開始進攻、松江、嘉興、次及蘇州河南岸的華軍、發生大動搖、現下紛々向西退却中

### 我軍の傳單

戰史に有名な杭州灣上のアドバルーンのみでなく、かうした傳單も用ひられて、上長の欺瞞にかゝつてゐた支那兵の膽を挫いたのである。  
「日本軍百萬陸續として杭州灣北岸へ上陸せり。數百艘の巨艦、日本軍百萬を滿載し、飛行機數百架、海軍巨砲數百門も相互に協力し一齊に杭州灣北岸へ上陸す。支那の空虛に乘じ、着々北方へ進撃を開始す、松江、嘉興、蘇州河南岸の支那軍は大動搖を來し、日下紛々として西方へ退却中なり」

強いばかりが武士でない、包圍下に無益な抵抗を止めて降服せよと勧めたに拘らず、敵は應じたかつた。我軍は遂に南京へ火蓋を切る事になつたのだが、それでも民衆に避難を勧めたのである。

「南京附近民衆に勧告す。  
現在日本軍百萬は大舉南京を壓倒せんとす。敗殘の支那軍は南京を抗日の根據地とし、無益な抵抗を試みんとす。日本軍は徹底的に抗日軍隊を撃滅し抗日團體を掃蕩せん爲に、猛烈に南京を攻撃せざるを得ず。唯一般良民を戦火に追ひ込み、害をうけしめる事を好まず、故に一般民衆は速かに南京を退出し砲火を免がれよ、特に豫め警告す。日本軍司令官」

### 警告南京附近民衆

現在日本軍百萬大舉將要壓到南京了  
敗殘的中國軍隊以南京爲抗日根據地  
要白試抵抗可是日本軍爲了徹底的擊滅抗日軍隊及掃蕩抗日團體起見不得不猛烈攻擊南京的日本軍是不希望把一般良善的民衆趕到參戰而使無辜受累所以一般民衆應即馬上退去南京以免炮火爲要特豫警告  
日本軍司令官





新支那建設運動の胎動

我が眞意を了解し、遂に支那側有志も決然支那更生の爲に起ちあがつた。左ポスター！

「同胞よ、起て！」

我等の明朗なる北支を建設しよう。

人類公敵の萬惡なる赤化を防止せよ。」



中日親善是救亡圖存の策！

「日支親善は亡を救ひ、生存を圖る良法なり」

（原註）

上ピラ

下ピラ

「互恵互助で日支經濟提携を實行しよう」

互恵互助實行中日經濟提携！

（原註）



後方の民衆は迷へる羊である。これらにも赤化の恐しき、我軍の眞意、治安確保の重要性を知らしめる宣撫工作はつゞけられる。  
「見よ！ 共產黨の惨害  
日本軍は人民の痛苦を救ひ、利己的な黨軍と惨虐な共產黨を除かうとするのである」



「二人鐵路を愛護すれば、萬人福を享く」



「親日なれば自ら福來り  
容共は狼を家に入れるが如し」



「日軍の到る處、平和は即時實現す」



上  
新政府も新支那誕生に乗り出して来た。  
「同胞よ、五色旗の下に團結せよ」

下  
誤れる考を捨て、新民主主義による建直しを企圖する新民會も設立された。

「新民會大綱」

- 一、新政權を護持し、民意の暢達を圖る
- 一、産業を開發し、人民の生活の安定を圖る
- 一、東方の文化道徳を發揚す
- 一、共產黨、國民黨を融滅せんとすの旗幟の下に反共戰線に参加す
- 一、親隣との同盟の實現を促進し、以て人類の平和に貢獻す

新政府の運動

新民會大綱

- 一 護持新政權以圖暢達民意
- 一 開發產業以安民生
- 一 發揚東方之文化道徳
- 一 於剿共滅黨旗幟之下參加反共戰線
- 一 促進友隣締盟之實現以貢獻人類之和平



右ピラ

「鞏固な北支新政權を樹立せよ」

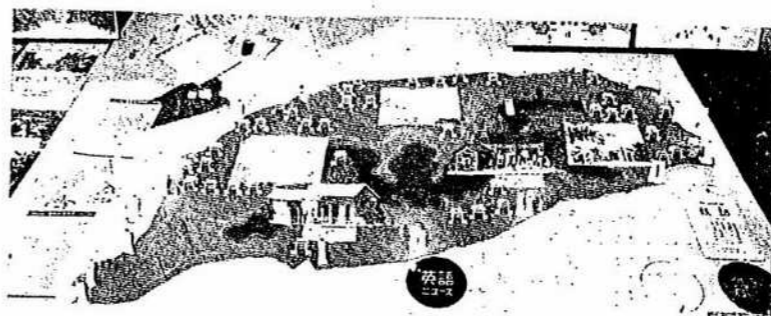
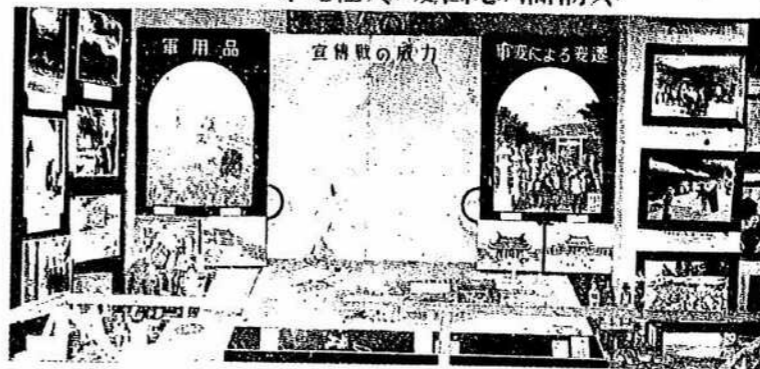
樹立鞏固的華北新政權！

華北青年黨宣傳部印刷

皇軍進むところ新中國建設の希望と熱情は中國大衆の心底に燃え上つてゆく、北京入城間もなく華北人による親日防共の民衆運動は展開され華北青年黨のピラ、ポスターは町に村に至る所貼りめぐらされた、下の寫眞は示威行進に進發せんとするところである。



皇澤外地に洽し  
外地ノ思想戦線ハ一齊ニ總動員サレタ  
外地住民ノ愛國心ハ高潮ス

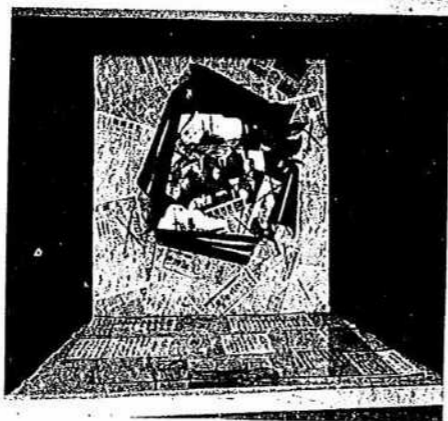


皇澤外地に洽し

暴支匪寇の聖戦長期に亘らんとするや、上皇恩に報い奉り、現地將兵の血戦に應へんとする愛國の至誠は、朝鮮同胞、臺灣同胞、樺太僻地の同胞の心の中にも同じく沸き上つたのである。戦勝新旗、恤兵婦問、出征遺家族の救護、軍需糧秣の製産増加運動、等々涙ぐましくも亦力強き外地の銃後活動こそ東亞の盟主たる日本の精華であらう。

上段寫眞の左側は朝鮮に於ける銃後活動の資料で出征兵士慰問の特製煙草もみえる。中段の寫眞は臺灣の時局下に於ける放送陣と某方面に向けて宣傳戦に活躍した空中宣傳の傳單が陳列されてゐる。下段は樺太に於ける銃後活動の寫眞である。

抗日デマの正體



此處に掲げた寫眞は九十九頁に詳述してある永野大將戦死、軍艦出雲、陸奥の煤沈のデマ宣傳を暴露する爲に寫眞に依つてモニターとして展示したものである。

抗日デマの正體

「自ら反みて縮みながら、掲掲博と雖も我れ備れざらんや」とは孟子の言であるが、抗日の迷夢に崇りつかれた支那側は、自ら正しくなければない程、却つてその非を蔽ひ、内は國民を、外は各國を欺瞞せんものとデマを飛ばしたのである。然し天日は昭昭である。嚴正な客觀的事實は支那側のデマの正體を暴き出さずにはゐない。

永野大將戦死説、戦艦陸奥煤沈説等は、一瞬の中に粉砕され、徒らに有識の士の眼を招くに終つたのである。



### 支那新聞のデマ

我が空軍出動！  
日本航空母艦を爆沈  
土庫空軍機を撃墜！敵艦空母を爆沈！  
我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

香港、發行、日支新聞  
華僑日報の廣告  
我が空軍、日支新聞の月日、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

### 支那新聞のデマ

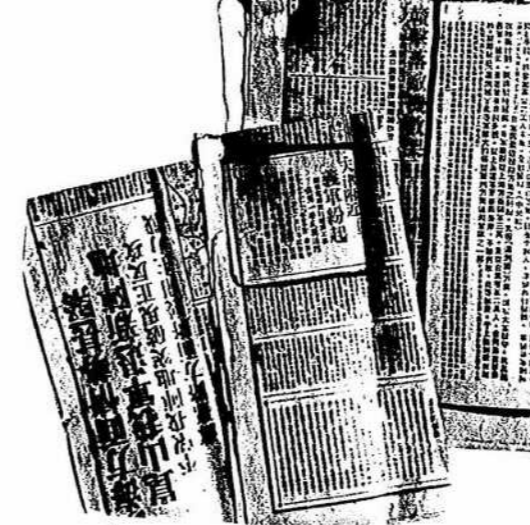
揚子江に於て  
日本軍艦五隻を沈没  
我が空軍の為、爆沈された日本軍艦は、何れも多量の爆弾・火薬を積載してゐるが、敵の汽船多数を、漸く之を引揚げて、敵艦中、輕微の損害を止つた。

逐艘小型砲艦五隻は、目下匯山大阪各碼頭に修理中。尚揚子江通州附近に於て沈没した敵の大型巡洋艦は、幾噸数三万五千噸、艦身は全部江中に没し、僅かに煙突三本が水面に露出してゐるのみあり。尚砲艦五隻も同様完全に江底に没し、一亦煙突のみが表面に現はれてゐるのみあり。

確石口に沈没  
四日海軍消息  
我が空軍、日支新聞の月日、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

### 酒革命工人殺斃自軍千餘

革命軍現進人里山中準備再行發難  
敵因偽滿清勢不穩無力分兵犯華南  
敵艦一艘會到海口爲法艦跟蹤窺伺



### 支那新聞のデマ

揚子江下流行動中の  
日本軍艦五隻上海に於て修理  
一大型軍艦重量に耐へかね  
民間の汽船強襲して良航

我が空軍、日支新聞の月日、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

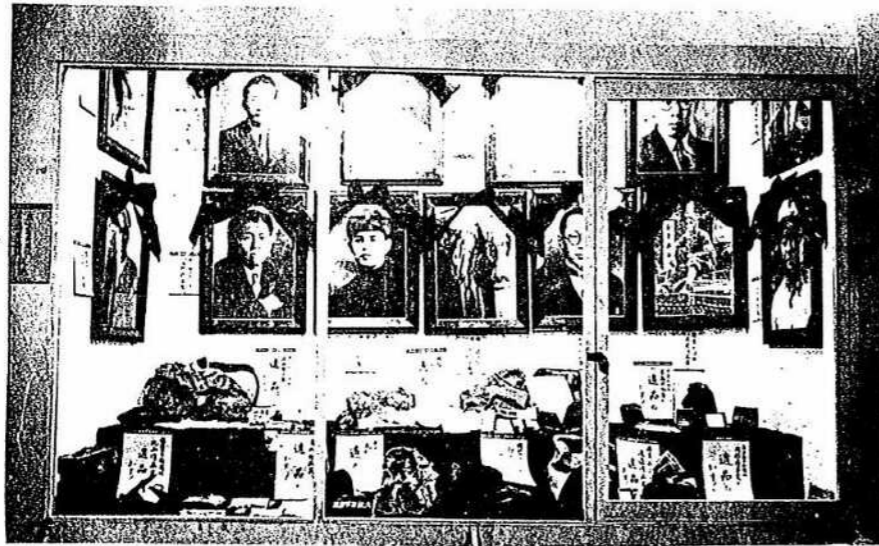
五日海軍消息  
揚子江下流、駐泊中の日本大型軍艦  
一隻外間上力甚長門を傳ふ及ぶ  
小型艦多数を撃沈された  
日本軍に之を修理せよとの艦身甚  
な重く揚子江黃浦江に於て民間の  
汽船を徴収して之を曳航せよとの  
之がたの黃浦江一帶に大小汽船は  
多量の安が没せしに至つた。

上圖右説明  
暴徒革命労働者日本軍千餘を殺す。  
革命軍は目下阿里山中に退き撓亂の準備中。  
敵は滿洲の情勢不穩なる爲め兵力を分ち南支に侵入する暇なし。  
敵艦一隻嘗て海口に到り、佛蘭西軍艦に追跡さる。  
上圖左説明  
天津附近義軍紛起す、敵落壁、黃村にて工事に奔走  
敵は平津間の落壁、安定、黃村等の停車場で防禦工事を新築し多忙を極めてゐる。高陽、任邱附近の村落では民間が紛々として起り敵に抗争し、遙かに我が遊撃隊と呼應してゐる。  
揚柳鎮鎮南北にも亦大量の義勇軍あり、其の數三三萬人に達してゐる。  
敵は運河で糧秣を運搬したが、切斷捕獲された。

日支新聞の月日、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

日支新聞の月日、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！  
敵艦空母を爆沈！我が空軍機三機、敵艦空母を爆沈！

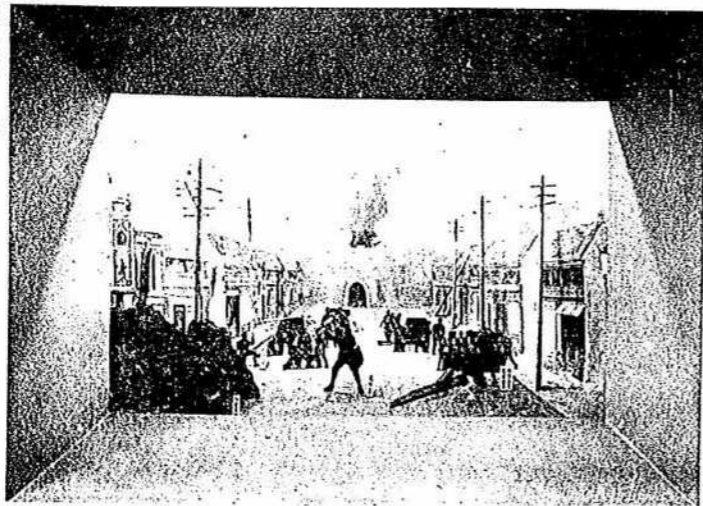
通信道戰線の華



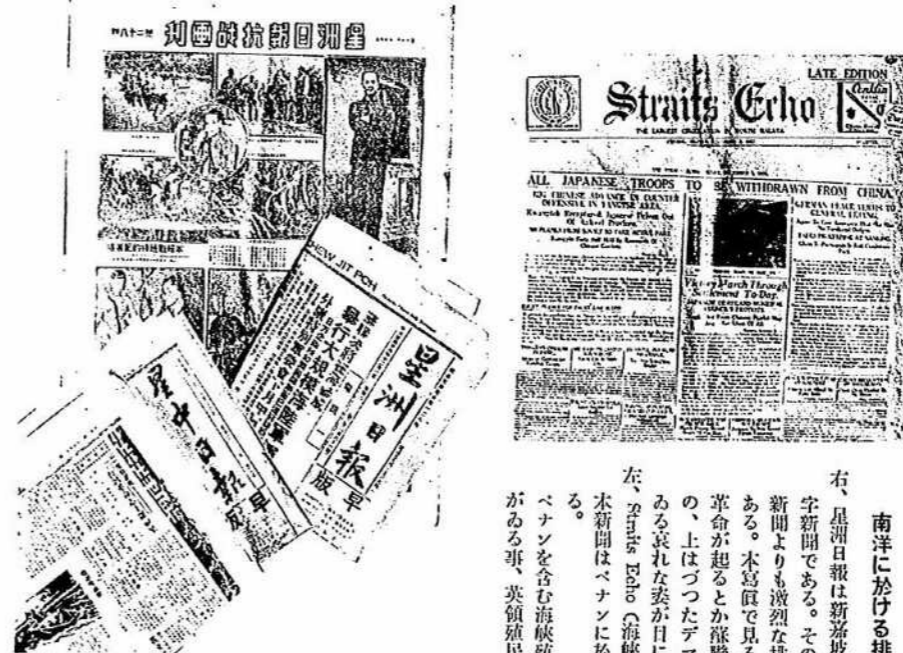
上 今次事變に於て武器なき戦士として活躍、報道戦の華と散つた在京七新聞社及同盟通信社の特派員、聯絡員の寫眞及遺品のかずかず。

下 南京光華門外に於ける特派員の活躍第一線の皇軍將士と何等異なる所なくかくも敵前間近くまで出動して寫眞撮影に記事に特派員は活躍しつゝある。

在京七新聞社提供  
並に同盟通信社提供



(101)

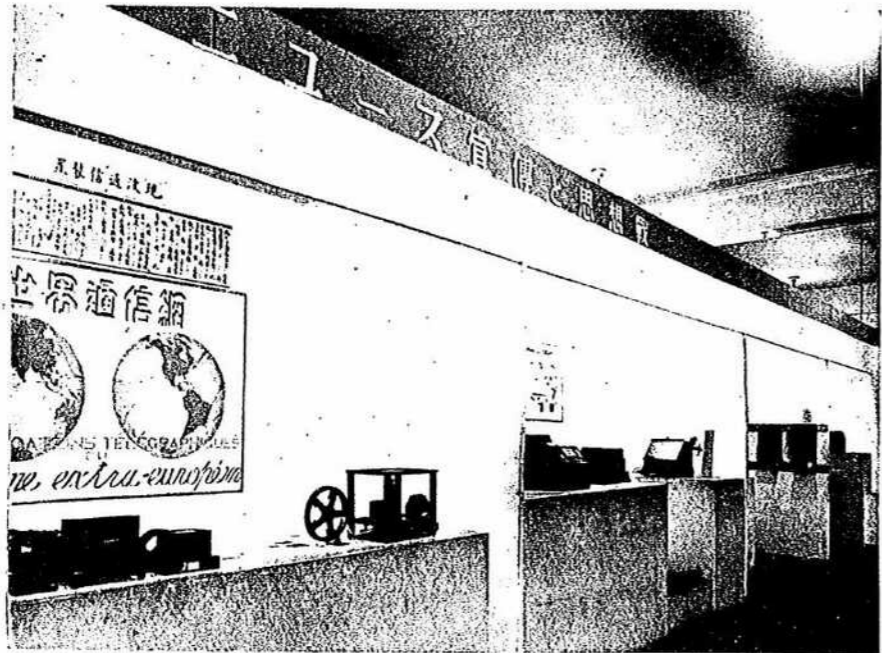


南洋に於ける排日、反日の各新聞紙  
右、星洲日報は新加坡に於ける華僑の發行する漢字新聞である。その内容には時に本國に於ける新聞よりも激烈な排日記事が見られる事がある。本寫眞で見ると、彼等が日本の國內に革命が起るとか薩摩が日本を抑へるだらうとかの、上はつたデマ報道に唯一の望みを託してゐる哀れな姿が目に見えるやうである。  
左、The Straits Times (海峡のこだま)  
本新聞はベナンに於て發行された英字新聞である。ベナンを含む海峽殖民地一帯は、大多數の華僑がある事、英領殖民地である事などで一般に反日風潮が猖んで、各新聞紙とも支那側からの一方的デマ記事を受入れて喜んでゐる。本寫眞による見出しを見て、全日本軍支那から退却の日近し。長江沿岸に於ける支那軍の反撃大進展。廣徳克復され、日本軍安徽省より驅逐さる。攻撃に向ふべくソ聯より三百機來る。江陰砲臺支那守備隊に未だ守らる。といふ有様である。

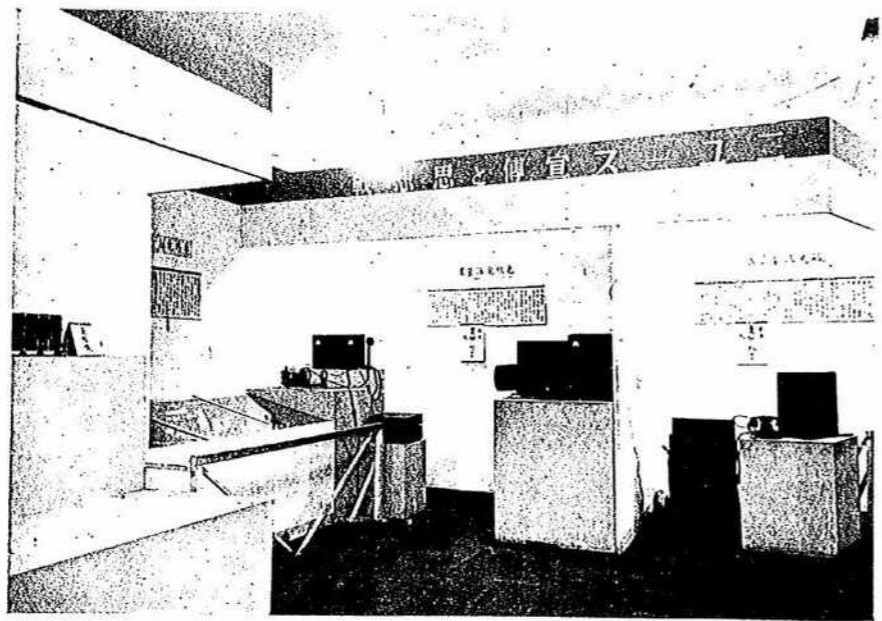


支那のデマ寫眞—カメラが嘘をつかぬか?  
左の寫眞は支那の抗日畫報にも載り、外國にも送られた寫眞で、それは日本が非戦闘員も擧撃するといふことを目的としてゐる事は明らかである。然しトタン屋根を無理に集めて、破壊の様子を示し子供を一人置いた此寫眞の作爲は餘りにも見えすいてゐる。況んや左上の事前工作を見たならばはやくいふ事はない。

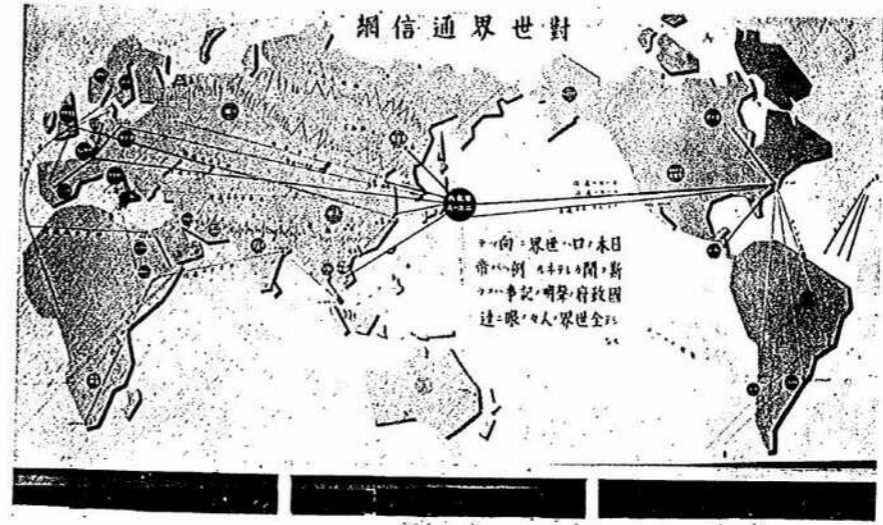
(100)



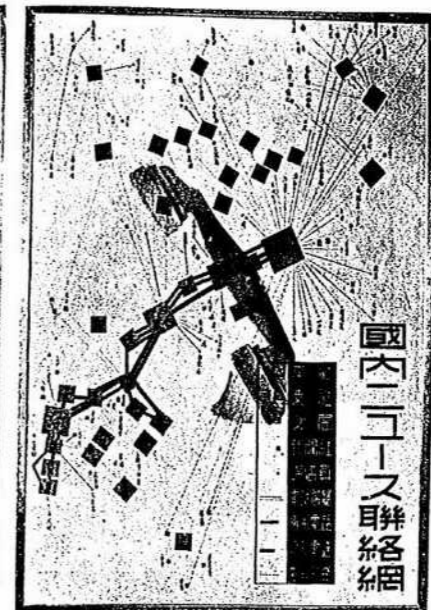
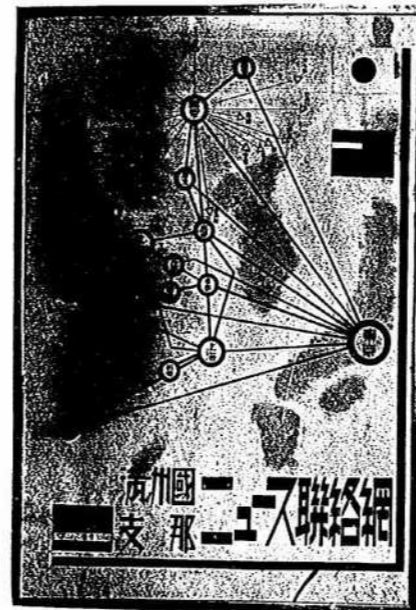
万国通信網の思想と伝送物全の景



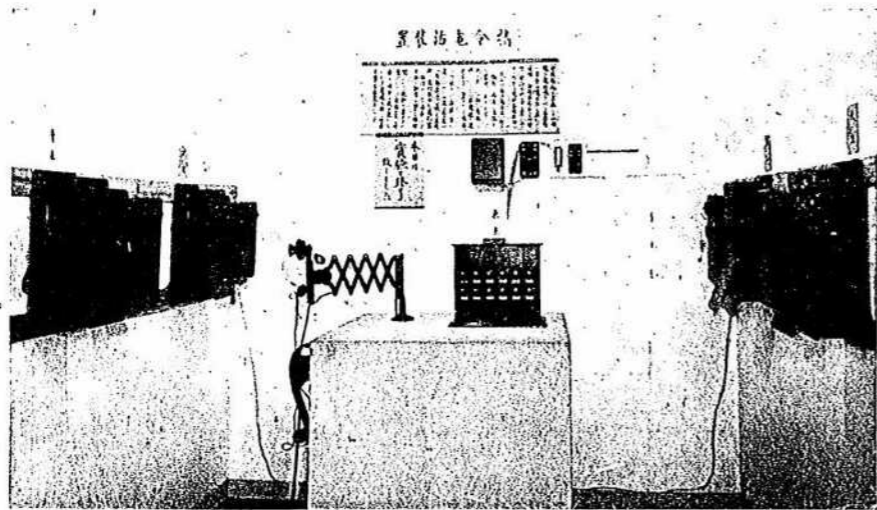
(103)



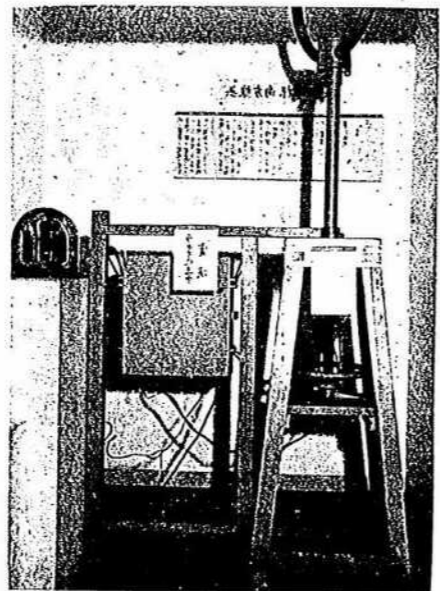
見ざるも伝信の網は地球の全面に張りめぐらされてる



(102)



指令電話装置  
中央樞軸の官廳か  
ら全国各府縣總個  
々に或は一齊に呼  
出し得る装置

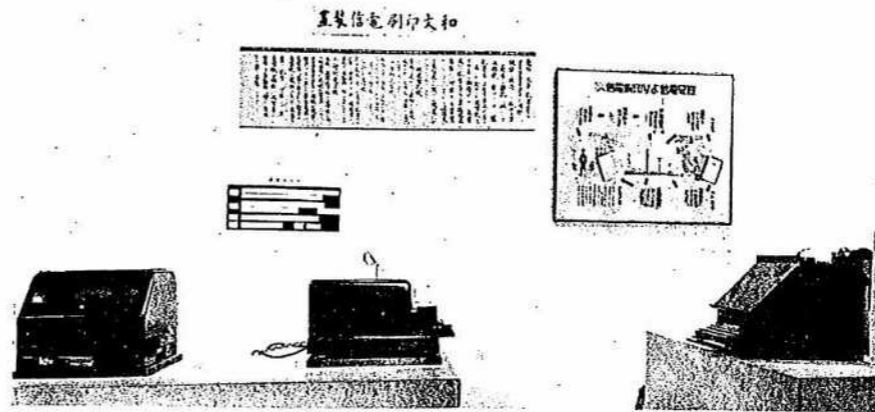


無線方向探知装置  
電波の方向を探知する装置で棒型アンテナ空中線と無線  
の受信機を組合したものである

(105)

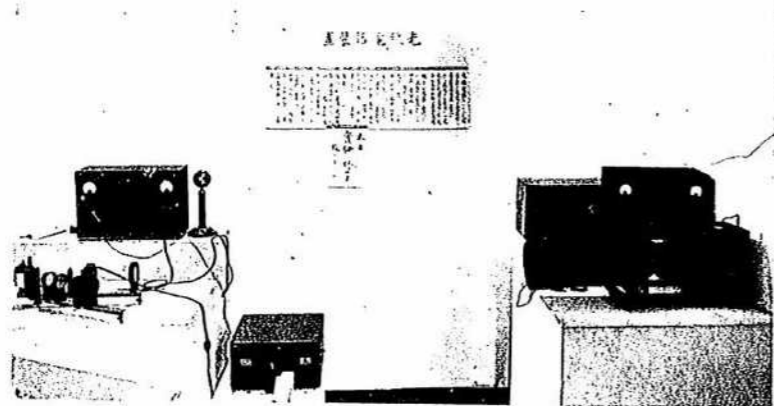


現波通信装置  
これは海底電信の  
送受信装置である  
左 自動送信機  
右 現波受信機



和文印刷電信  
装置  
今日の電報通信は  
符號電信から印刷  
電信へと進歩して  
ゐる、上圖タイプ  
ライターの如き機  
械、左より鍵盤機、  
孔機、自動送信機、  
印刷電信機

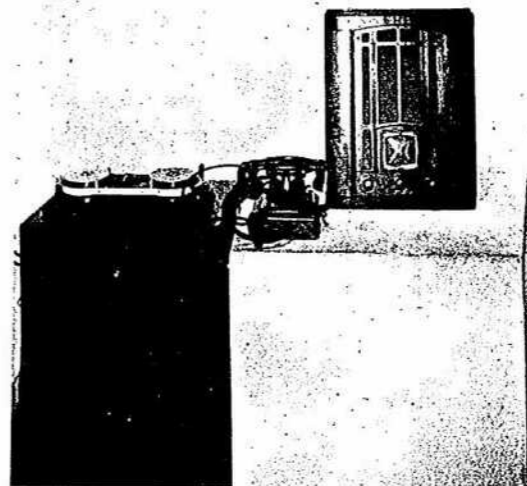
(104)



光線電話裝置 (上圖)  
 この裝置は一定の光度の光源を使用し之を電氣的及機械的に音聲波同様にその光量を変化せしめて送話する方法で、秘密通話の爲に用ひられるものである。



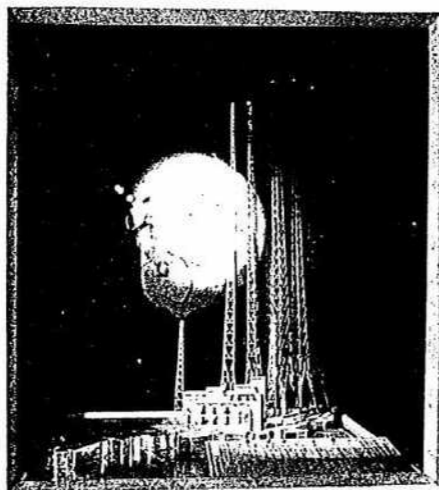
磁氣錄音裝置



音を記録して再生する方法としては電氣光學的方法、例へば「トリーキー」の様なもの、電氣機械的方法、例へば著音機の様なものと電磁的方法とがある、この寫眞の裝置は電磁的方法の一種で音聲又は音聲等を一本の細い銅線上に記録して必要に應じて之を再生し、不必要な場合には之を抹殺する事が出来る装置である。



### 戦想思と送放力電大



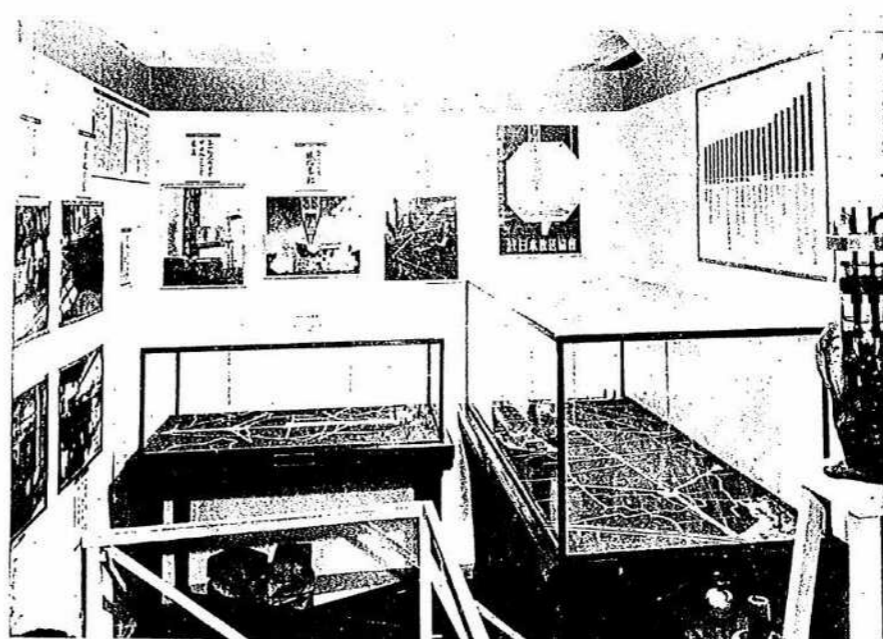
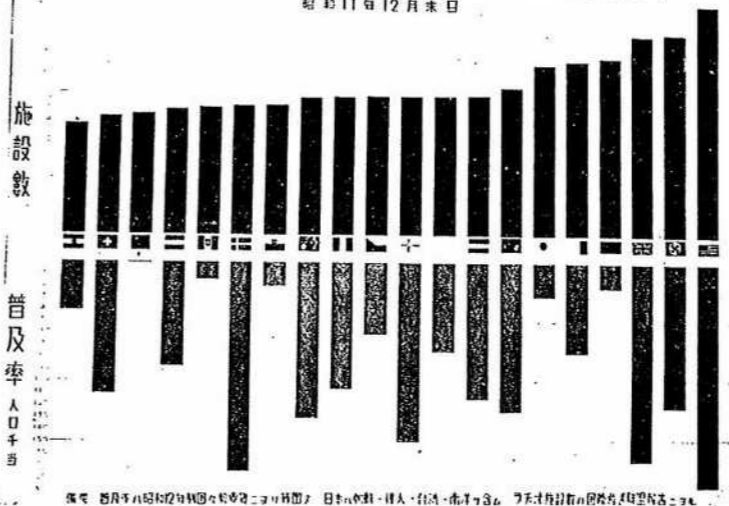
今日の世界は見えざる武器に依つて戦はれてゐる。その一つは即ち電波戦である。英國のダヴエントリイからはB・B・Cのエンパイア・プロが終日地球全體を五地帯に分けて放送され、獨逸のナチスの叫びは地球の六方向(南・北・中米・アフリカ・南亞・東亞)に傳播されてゐる。巴里の殖民放送局からは六ヶ國語で佛領殖民地に向つて電波が投げられてゐる。更に伊太利は二十ヶ國語による放送を以て全地中海、バルカン諸國を支配せんとしてゐる。

一方モスコの放送局からは六十數ヶ國語の赤化宣傳放送が行はれ、近くはハバロフスクに於て直接日滿を目標として親支、抗日のデマ放送が送られてゐる。

かくの如く亂れ飛ぶ電波の眞中に支那事變が勃發したのである。當時支那に於ては七五キロの南京廣播電臺(放送局)漢口(五キロ)杭州(二キロ)香港(二キロ)百W程度の長沙、雲南、重慶、廣州、天津、濟南、青島、河南、洛陽、南昌、福州、鎮江、無錫等の放送局があり、その他私設小放送局が相當多數設置されてゐた。これ等の放送陣が事變勃發となるや一齊に抗日戦線に動員され、内に外に吠え立てたのである。皇軍の攻略と共に此等放送局の内多くは我方の手に歸したが未だ重慶、長沙等に於て抗日宣傳の毒舌を振つてゐる。現在世界には五千六百萬のラヂオ聴取者がある。一個の受信機に四人の聴取者があるとすれば二億二千四百萬の人間がラヂオによつて把握される譯である。而してその数は愈々増加され電波戦は益々巧妙の度を加へて行く、この時日本が怪電波を征服し新興日本の正義の聲を世界に送らんとし既にその第一歩を踏み出したのである。

### 世界主要國ラヂオ施設數及普及率

昭和11年12月末日



景全物品出會協送放本日

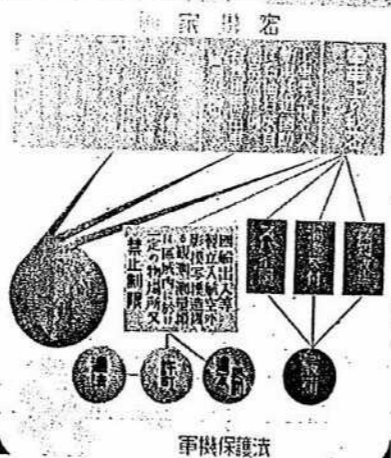


本展覧會の呼物の一つとして今日迄各種展覧會に出品されなかつたスパイに關する資料が展覧された。  
日本國民は防諜觀念に乏しいと云はれ、特に事變下にあつて國民の緊張を必要とする時以下掲げられた資料・ジオラマ等は、一般の關心を惹き起すに充分であつた。勿論展覧し難き機密資料も多々あるのであつて、國民はスパイ・トリックに好奇的興味を抱くよりむしろ進んで防諜の積極的機構へを持たねばならぬのである。本展覧會に陳列されたスパイ資料はこの意味に於て、國民が如何なる方面に心の武器を執つて祖國を守らねばならぬかを暗示するに充分であらう。

スパイを防止せよ



重大な國家機密は如何にして保護されるか?  
防諜は國民の防諜觀念の徹底から!



(111)

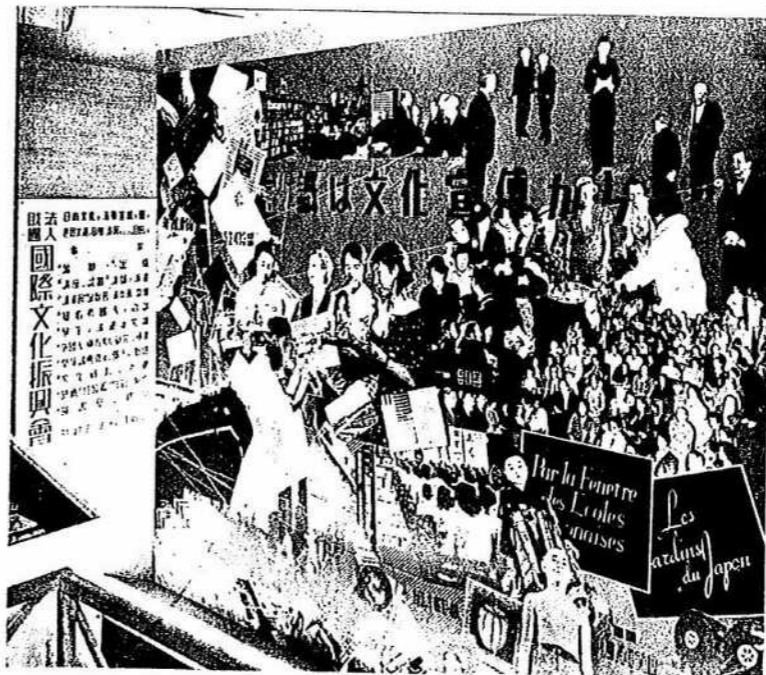
## 文化宣傳の全貌



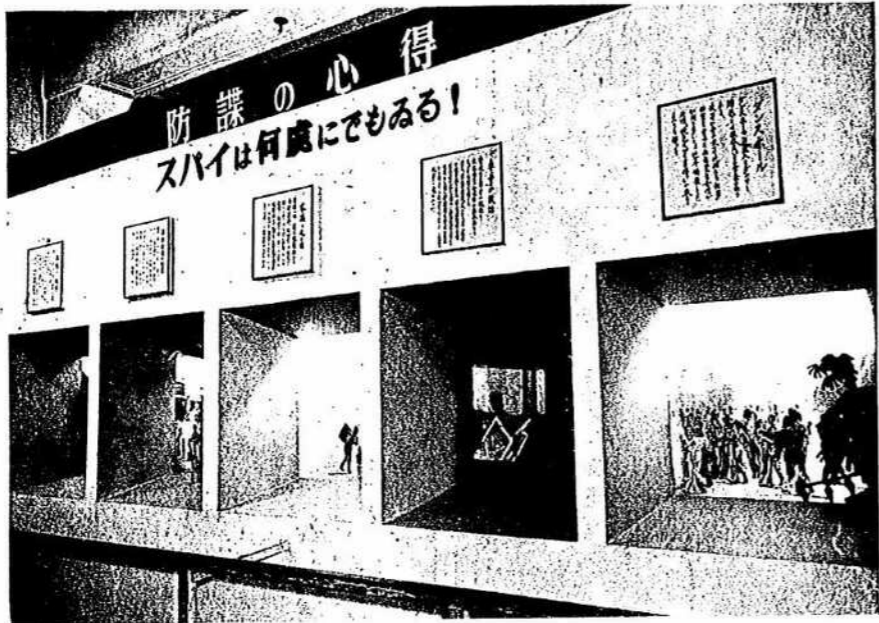
機關ノ總テカ活動スル

戦時ニ於テモ此等ノ

文化宣傳の全貌  
上圖は觀光局出品、下は國際文化振興會出品

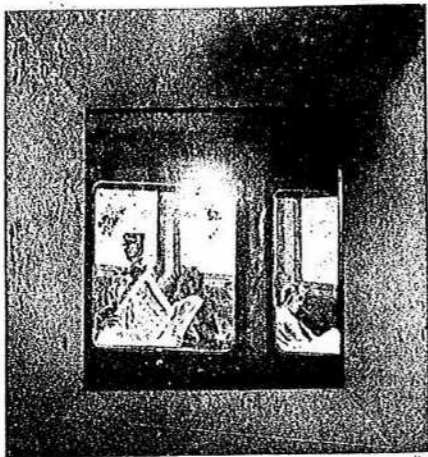


(110)



**車中の談話**  
 警戒せよ車中の談話！  
 乗客同志の世間話や無駄話にもスパイは耳を傾ける。  
 軍人、軍属の家庭の人々から軍の動静が嗅ぎ出される。軍需品製作工場関係者の話から国防の兵器機密が窺はれる。何気なく傍に新聞読む紳士が意外にも恐る可きスパイであつたりした事は枚擧に遑がない。

**ダンスホール**  
 ダンスホールへの出入とダンス！誘惑とは歐米スパイの常套手段である。  
 彼等の手に乗つて迂濶にも、祖國の秘密を賣つた無自覺な女性が如何に多いかは、近代頻發した所謂「桃色スパイ事件」の數々によつても解る。



この頁に掲げられてゐる圖表は  
 世界大戦當時 スパイが使用したスパイ・トリックの一部である。  
 スパイは自己の蒐集した情報や敵國側の機密を通信する爲には想像以上の苦心を拂ふのであつて、その技術に至つては驚嘆に絶するものもある。



**表象連絡方法**

表象連絡方法の表

① 通譯の通譯	② 敵軍退却
③ 敵軍の進軍	④ 敵軍攻撃
⑤ 歩兵の進軍	⑥ 騎兵の進軍
⑦ 敵軍左翼行動開始	⑧ 通譯の通譯
⑨ 飛行機の進軍	⑩ 敵軍右翼行動開始

Below the table are several circular icons containing different symbols, such as a cow, a pig, and a sheep, which are used as a visual code for communication.

置装破爆及夷焼用者謀



同と塊大炭石の内麻炭石の等船商艦軍  
筒夷燒な抜奇る寸有を視外と量重じ  
さ厚の壁隔の鋼の間中れさ分區に室二は此  
限時火發るな單筒の筒夷燒いし珍の此は  
るみてね象を置装



を視外と量重な様同と筆鉛ソオレクの通普  
形體の筆鉛用破爆る寸有

ラメカ・イバス

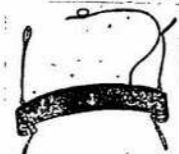


ラメカ・クツパドンハ

小超はラメカ・クツパドンハ用イバス性女  
ダイヤア付付取に中央の具金をラメカ型  
の適般に眞寫アツナス。るみてい附でま  
るあでの



除掃恐て於にソンドロ  
トエイヴツたけ化に夫  
さ用使案考り依に負館  
ケバるあ底重二たれ  
間裝偽たし隠に底のツ  
。機眞寫用謀



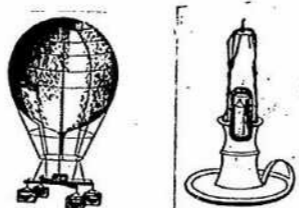
ドンパのトツポルタ  
ラメカ用者謀式

タ・ターオウはラメカ本  
るよに案考の氏トツポル  
取に下のキツヨチでのも  
のソパボはズンレれら付  
ズーリレキ視を外ら孔  
導にトツケボのソボは  
。るか

計好の法帯携・附送の書文密秘

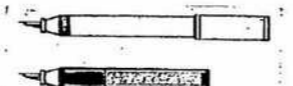


とこる寸短契いまたし照燈を類書密秘  
圖造構のアイバイパスる來出の

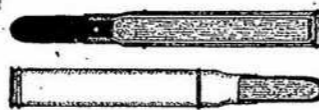


バス民市のソソラフ  
たる送を規建傳にイ  
球氣たれさ大工にめ  
使に信通密秘の視可不  
ガ入キソイ密秘る寸用  
ベの形圓端尖と箱スラ  
製局金をたし照燈をソ  
にめた寸燈をルセフカ  
しに空中を部底の揚綴  
。蒸揚綴た

器容菌細用帯携者謀



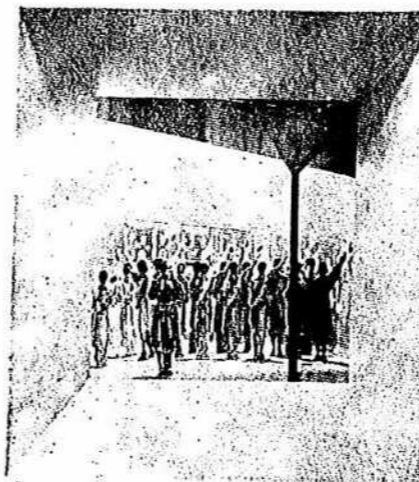
名署に書告宣の死し對に人會都き多口人  
筆年萬のめたる寸  
の他其菌ラレコに此は筆年萬裝偽き如の斯  
武非論勿は場戦し敵隠を菌養培ヤリテクバ  
るれらせ布撒り依に手のイバスでま帯地裝  
。るあでの



出散放つ且敵隠を菌養培ヤリテクバは夷裝  
。るみてれさ案考く如來

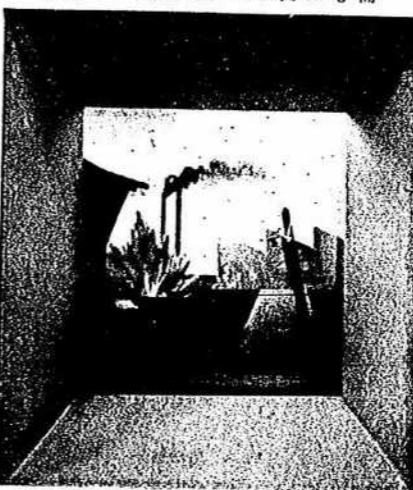
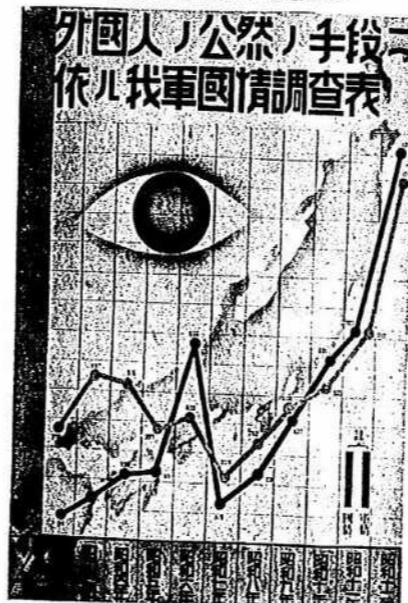
芥箱に光る目  
官廳に働く者も紙屑  
拾ひも油断禁物、ス  
パイは何気なく捨て  
られたたつた一つの  
紙片からも、國防の  
機密を探り出さうと  
する。紙屑拾ひがス  
パイの手先に使はれ  
たり、又スパイ自身  
であつたりすること  
は餘りに屢々あるこ  
とである。

軍事輸送の妨害  
歡呼の聲の中にも忘  
るゝ勿れ、スパイの  
潜入。彼等は熱狂の  
群集に混つて、出征  
將兵の兵種、裝備等、  
凡ゆるものに注意す  
る。軍隊の移動や行  
先や、到着點が何時  
の間にか敵國に知ら  
れてゐたり、輸送船  
や列車の爆破、脱線、  
顛覆等は即ちこのス  
パイの仕業である。

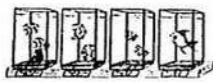


工場への觸手  
スパイの魔手は軍需  
品製造工場へまでも  
延びる。世界大戦は  
スパイが軍需工場從  
業員のストライキや  
怠業の煽動者であつ  
た例を無數に教へた  
が、就中恐るべき彼  
等の行爲は工場爆破  
の陰謀であつた。  
現にアメリカだけで  
も大戦中、彼等の陰  
謀で數十個所の工場  
が爆破されてゐる。

！よ見を實事き可る恐のこ



號暗な妙奇



用使でドンラーボがイバスの逸聞  
ばれず解を此、號暗鉢魚たみてじ  
ち即「Bielsk-Vilna-Memel」  
ーメーメーナルイフークスルビ」  
。るなど「ル



傳を令指誤間で量の其と類種の誤  
るす達  
「ーイキ」の管験試るみでん並に右  
「Vendun」ばけ解を令指此て以を  
。るなど(ソダルベ)

相々種のクツリト・イバス



百に正果效の眼義  
トンセーバ



香くいたを頬の人住  
もに毛刷粉白い高



うかも形手のソペーパンノフ  
。ぬれば浮とるな



鍵の屋部  
の號暗が  
用流に鍵  
のるれさ  
か理無は  
眼著ぬら  
るあて

ボの套外  
二をソタ  
れすにつ  
ば

相々種のクツリト・イバス



つ切に則規不  
が縁の手切た  
。ひ言を物



スーレイし美  
れ忘も用利の  
。ず



も筆年萬  
るなうか  
重々益と  
るあて資

書理約新  
の字文の  
針に々所  
あが穴の  
基はてつ  
笑苦も督  
。ひ

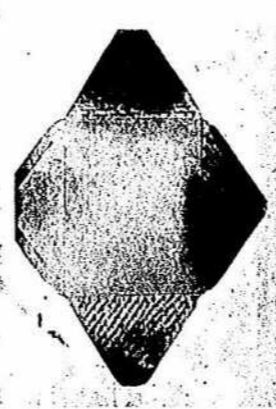
ドイロルセの櫛や子刷齒  
ずせ透見リカツツも

機號暗るな單簡



板圓號暗の國コシキメ  
用使の軍陸コシキメ時當戰大界世  
を字數ち即。板圓號暗理良改たし  
解タステ。ーアファイサるすと調基  
。ーイキ讀

例用使キンイ密秘



面内のれ垂の倚封が虜捕逆獨時當戰大界世  
し出現を文信通密秘たい書でキンイ密秘に  
。のもた

號暗の本日たれさ讀解



令訓密秘の府政本日たれさ讀解に初最  
の室密機カリメア時當談會緒軍ソツツワ  
日たれさ讀解に初最りよに手の者讀解號暗  
。文號暗本

相々種のクツリト・イバス



るれられ容がブーテの米四に優はに頭上の齒義

も吊ソボズ  
吊はに達伊  
ずら



が頭たつ刺  
と密機車  
いはとるな  
刻深かゝさ  
るあて

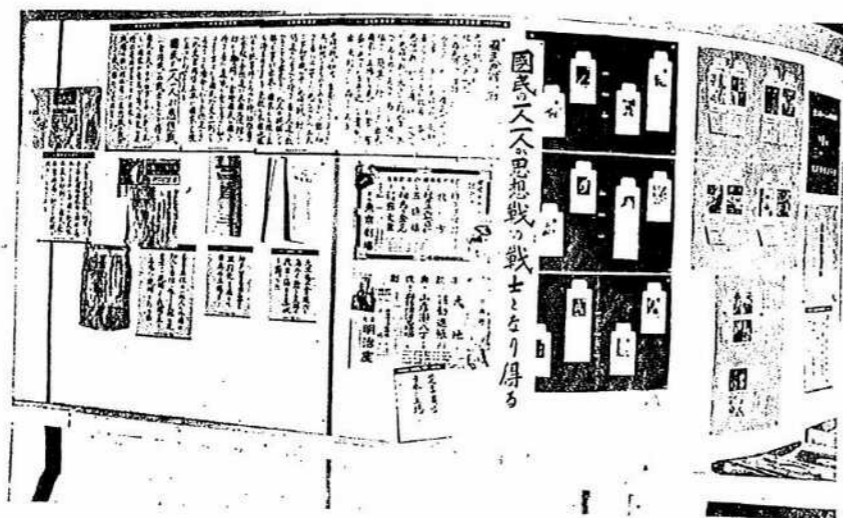
相々種のクツリト・イバス



號暗たせば忍に中の飾首



信通密秘たし隠に芯のイタクネ



**國民の一人一人が思想戦の戦士となり得る**

國民思想戦に就いて  
思想戦は平時にあつても政治、外交、經濟、文化其他色々な國家の活動や國民個人の活動に於ても行はれてゐるものであるから、國民一人一人は誰でも多かれ少かれ思想戦に参加してゐるものである。

それ故若し各人が「思想戦が如何に重要なものであるか」又「如何なるものであるか」を能く知つて居れば、一寸した思ひつきや工夫で不知不識の中に思想戦に對して間違つた考へを持つてゐる人達を教へる事も出来るし、外人の誤解をも解く事が出来て國家のお役に立ち得るのである。

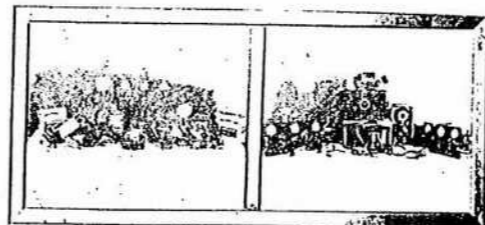
先般の米國砲艦バネー號事件のあつた時、幼稚園や小學校の子供達が米國大使館を訪れて慰問し、當時國民の誰もが持つて居た遺憾の意を傳へた如きはよく言はれる國民外交の一例であつて、この場合これら子供達でさへ外交官同様立派に國家のお役に立つわけである。

國民は夫々その仕事の中に於て正しい國家の意志を傳へ國策の遂行に寄與する事が出来る。

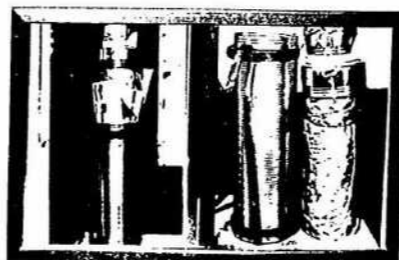
戦場に出られぬ者は思想戦の戦士として戦ひ勝たうではないか。上掲寫眞は今次事變に於て自發的に思想戦に参加した具體的現れの一部であるが、「まんぢう」の包装紙に五色旗を印刷したもの、大阪商會議所が海外に對して支那の抗日、侮日の暴狀を訴へたパンフレット、神戸貿易同志會が取引先を通じて日本の正しい立場を説明したパンフレット、香港在住の日本人が外國の知人に書信に依り支那の逆宣傳を説明して我國の正しい立場を説明したもの、某製菓會社がキャラメルの内箱に印刷した日支親善の漫畫、某劇場が芝居の廣告に日支親善の繪を印刷した廣告等が陳列された。



英國スパイが携帯してゐたトランク詰の短波無電機



英國スパイ使用の各種短波無電機



英國スパイの蒐集せる寫眞を隠匿携帯せる魔法瓶

**機號暗るな單筒**



機號暗るな單筒を法記號暗のントスイホな名有機號暗るな單筒の形

**例用使キンイ密秘**



ラフたれら送に送獨らからジラフに間の紙手の通書たい書で語スン綴語送獨だん込み書でキンイ密秘例出現の文信通密秘の

**日本精神を發揚せよ!**

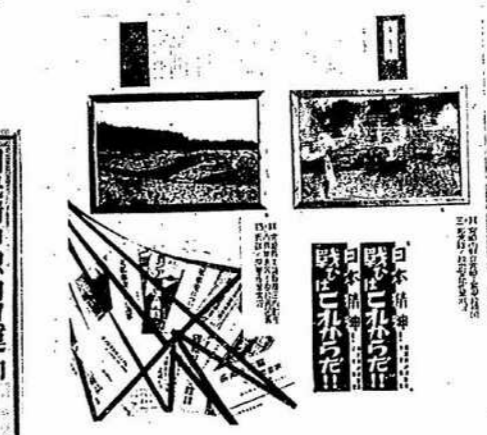
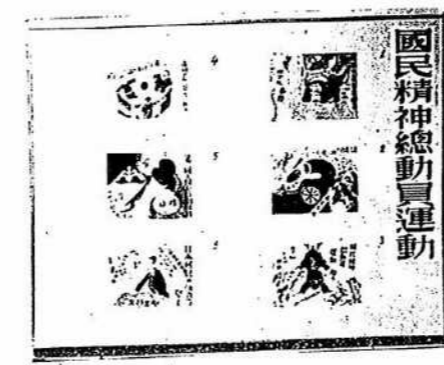
**國民精神總動員**

時艱の克服、一致團結  
 不動の精神困苦に堪へよ  
 協力一致銃後の固め  
 働け身のため國のため  
 備へ上常に、あらゆる力  
 碩習の打破、形よりは精神  
 工夫して物を活かせ  
 舶來品より國産品  
 無駄を省いて國力を培へ  
 戦ひ勝つても、奪に敗けるな

會場出口  
 左は國民精神總動員スローガン十ヶ條  
 下は各地各方面の熱烈なる國民精神總動員運動を物語るポスター類



(121)



(120)

武器なき戦ひ 世界に渦巻く思想戦展覧會

九月廿六日 高島屋

國家の興隆は國民精神の健全に在り 而して思想戦は現代國際情勢に於て武力戦・外交戦・経済戦等に比し 平時及び戦時を通じて行はる、戰爭 形態にして其の優劣勝敗は國家隆替 の成る、所なり、思想戦展覧會を開催し 帝國内外に渦巻く思想戦の全貌を周 知せしめ其の重要件を認識せしむる と共に、日本精神の昂揚を期し帝國 一致外來の思想戦工作に對して時を 克服せんとす。

九月廿六日 高島屋

主催 内閣情報部

思想展開催を報道する諸新聞及廣告の一部

武器なき戦ひ 世界に渦巻く思想戦展覧會

九月廿六日 高島屋

武器なき戦ひ 思想戦を二日に

九月廿九日からの開催

武器なき戦ひ 世界に渦巻く思想戦展覧會

九月廿六日 高島屋

主催 内閣情報部

演藝映畫會

TCACAMA

武器なき戦ひ 世界に渦巻く思想戦展覧會

九月廿六日 高島屋

思想戦に備へよ

九月廿九日からの開催

思想展 書籍コーナー

日本橋郵便局時出所、記。念タンスも設けられらる。

會場内賣店愛國進行曲。下、週報、新聞、其の他、書籍の傳宣に及ぼる。たれさ取。

寫眞週報に掲載したる思想展廣告

週報に掲載したる思想展廣告

寫眞週報に掲載したる思想展廣告





戰時友學	一
戰時大敵	二
戰時抗戰	三
戰時血戰	四
戰時文周	五
戰時抗戰	六
戰時抗戰	七
戰時抗戰	八
戰時抗戰	九
戰時抗戰	十
戰時抗戰	十一
戰時抗戰	十二
戰時抗戰	十三
戰時抗戰	十四
戰時抗戰	十五
戰時抗戰	十六
戰時抗戰	十七
戰時抗戰	十八
戰時抗戰	十九
戰時抗戰	二十
戰時抗戰	二十一
戰時抗戰	二十二
戰時抗戰	二十三
戰時抗戰	二十四
戰時抗戰	二十五
戰時抗戰	二十六
戰時抗戰	二十七
戰時抗戰	二十八
戰時抗戰	二十九
戰時抗戰	三十
戰時抗戰	三十一
戰時抗戰	三十二
戰時抗戰	三十三
戰時抗戰	三十四
戰時抗戰	三十五
戰時抗戰	三十六
戰時抗戰	三十七
戰時抗戰	三十八
戰時抗戰	三十九
戰時抗戰	四十
戰時抗戰	四十一
戰時抗戰	四十二
戰時抗戰	四十三
戰時抗戰	四十四
戰時抗戰	四十五
戰時抗戰	四十六
戰時抗戰	四十七
戰時抗戰	四十八
戰時抗戰	四十九
戰時抗戰	五十

○日本側	一
「畫報」	二
「大支那事變畫報」	三
「滿洲グラフ事變號」	四
「雜誌」	五
「蘇聯人民解放了麼？」	六
「敵乎、友乎、蘇聯共產黨與史太林」	七
「中日事變的大義與指置」	八
「國民政府之長期抵抗與容共政策」	九
「文友」	十
「How about Ghang, Japan a break?」	十一
「在滿朝鮮人通信」	十二
「改組した冀東政權と池宗盛の思想」	十三
「北支事變とその動向」	十四
「日支事變直前に於ける北支抗日風潮の概説」	十五
「支那事變と日滿關係」	十六
「新聞」漢文	十七
「救亡周報」	十八
「新報」	十九
「南洋に於ける排日新聞紙」	二十
「The Statesman」	二十一
「Rangoon Gazette」	二十二

「The Malaya Tribune」	一
「Straits Echo」	二
「星洲日報」	三
「星洲日報」	四
「星洲日報」	五
「星洲日報」	六
「星洲日報」	七
「星洲日報」	八
「星洲日報」	九
「星洲日報」	十
「星洲日報」	十一
「星洲日報」	十二
「星洲日報」	十三
「星洲日報」	十四
「星洲日報」	十五
「星洲日報」	十六
「星洲日報」	十七
「星洲日報」	十八
「星洲日報」	十九
「星洲日報」	二十
「星洲日報」	二十一
「星洲日報」	二十二
「星洲日報」	二十三
「星洲日報」	二十四
「星洲日報」	二十五
「星洲日報」	二十六
「星洲日報」	二十七
「星洲日報」	二十八
「星洲日報」	二十九
「星洲日報」	三十
「星洲日報」	三十一
「星洲日報」	三十二
「星洲日報」	三十三
「星洲日報」	三十四
「星洲日報」	三十五
「星洲日報」	三十六
「星洲日報」	三十七
「星洲日報」	三十八
「星洲日報」	三十九
「星洲日報」	四十
「星洲日報」	四十一
「星洲日報」	四十二
「星洲日報」	四十三
「星洲日報」	四十四
「星洲日報」	四十五
「星洲日報」	四十六
「星洲日報」	四十七
「星洲日報」	四十八
「星洲日報」	四十九
「星洲日報」	五十

「國民黨十大罪狀」	一
「提報」	二
「Release Pseudo-Loving Japanese Leaders」	三
「寫真」	四
「「ローマ」に於ける日伊協定成立祝賀状況」	五
「防共協定記念繪葉書」	六
「「スペイン」關係」	七
「中國共產黨發行貨幣」	八
「上海市公民訓練所卒業式記念寫眞」	九
「廣東に於ける支那共產軍暴狀」	十
「共産軍の處刑状況」	十一
「支那女子軍」	十二
「東京に於ける防共協定祝賀状況」	十三
「日伊協定條約文」	十四
「邦文三、伊文一、獨文一、表紙一」	十五
「支那個發行の印刷物を撮影せるもの」	十六
「廣東共產黨の暴狀状況」	十七
「旗、布類」	十八
「上海市大道政府旗」	十九
「上海市學生集中訓練總隊旗」	二十
「中國紅軍第二軍第四師旗」	二十一
「龍巖縣赤衛軍旗」	二十二
「龍巖縣童子團旗」	二十三
「龍巖縣赤軍團旗」	二十四
「龍巖縣赤軍團旗」	二十五
「龍巖縣赤軍團旗」	二十六
「龍巖縣赤軍團旗」	二十七
「龍巖縣赤軍團旗」	二十八
「龍巖縣赤軍團旗」	二十九
「龍巖縣赤軍團旗」	三十
「龍巖縣赤軍團旗」	三十一
「龍巖縣赤軍團旗」	三十二
「龍巖縣赤軍團旗」	三十三
「龍巖縣赤軍團旗」	三十四
「龍巖縣赤軍團旗」	三十五
「龍巖縣赤軍團旗」	三十六
「龍巖縣赤軍團旗」	三十七
「龍巖縣赤軍團旗」	三十八
「龍巖縣赤軍團旗」	三十九
「龍巖縣赤軍團旗」	四十
「龍巖縣赤軍團旗」	四十一
「龍巖縣赤軍團旗」	四十二
「龍巖縣赤軍團旗」	四十三
「龍巖縣赤軍團旗」	四十四
「龍巖縣赤軍團旗」	四十五
「龍巖縣赤軍團旗」	四十六
「龍巖縣赤軍團旗」	四十七
「龍巖縣赤軍團旗」	四十八
「龍巖縣赤軍團旗」	四十九
「龍巖縣赤軍團旗」	五十

「ハツチ類」	一
「虎給付」	二
「Don't Buy Japanese Goods」	三
「Boycott, to stop Japanese Aggression」	四
「苗縣人民抗日遊擊隊胸章」	五
「書籍」	六
「上海市大道政府宣言」	七
「Grosse anti-bolschewistische Ausstellung」	八
「Das Rotbuch über Spanien」	九
「Und da Sieht die Soviets Richtig」	十
「The Fight」	十一
「戰時生活」	十二
「戰時畫報」	十三
「戰時畫報」	十四
「戰時畫報」	十五
「戰時畫報」	十六
「戰時畫報」	十七
「戰時畫報」	十八
「戰時畫報」	十九
「戰時畫報」	二十
「戰時畫報」	二十一
「戰時畫報」	二十二
「戰時畫報」	二十三
「戰時畫報」	二十四
「戰時畫報」	二十五
「戰時畫報」	二十六
「戰時畫報」	二十七
「戰時畫報」	二十八
「戰時畫報」	二十九
「戰時畫報」	三十
「戰時畫報」	三十一
「戰時畫報」	三十二
「戰時畫報」	三十三
「戰時畫報」	三十四
「戰時畫報」	三十五
「戰時畫報」	三十六
「戰時畫報」	三十七
「戰時畫報」	三十八
「戰時畫報」	三十九
「戰時畫報」	四十
「戰時畫報」	四十一
「戰時畫報」	四十二
「戰時畫報」	四十三
「戰時畫報」	四十四
「戰時畫報」	四十五
「戰時畫報」	四十六
「戰時畫報」	四十七
「戰時畫報」	四十八
「戰時畫報」	四十九
「戰時畫報」	五十

「血染濟南」	一
「洋鬼子殺土人」	二
「救中國人民的關鍵」	三
「論抗日救國統一戰線」	四
「中國新軍隊」	五
「學生救國運動」	六
「烈士傳」	七
「東北抗日烈士傳」	八
「中央民衆訓練部公報」	九
「中央黨務月刊」	十
「中央週報」	十一
「戰時畫報第一期」	十二
「新中國在進展中」	十三
「日本要進攻蘇聯嗎」	十四
「丁玲—新中國的女戰士」	十五
「蘇聯會帶中國麼」	十六
「婦女生活第五卷第四期」	十七
「八路軍將領列傳」	十八
「武士道」	十九
「聯合戰線與中國抗戰」	二十
「二萬五千里長征」	二十一
「二十年的蘇聯」	二十二
「毛澤東印象記」	二十三
「在新的世界大戰之前」	二十四
「朱德與彭德懷訪問記」	二十五
「國共合作的未來」	二十六
「蘇聯革命與中國抗戰」	二十七
「抗戰到底」	二十八

(1) コミンテルン宣傳印刷物

A 浦賢、北樺太等に於ける邦人労働者に對する宣傳印刷物

- 一、中蘇合作抗日論
- 一、蘇聯眼の中日戦争
- 一、日蘇未來大戦記
- 一、抗日實報特輯
- 一、抵抗聖報
- 一、毛澤東論中日戦争
- 一、Japan the World's Enemy
- 一、支那諸學校の排日教科書

其 他

- 一、軍事委員會蘇浙行動委員會別動隊總指揮部用箋及封筒
- 一、上海市學生集訓總隊公出證
- 一、長沙共產軍使用國貨銀貨
- 一、「ソ」紙に掲載せられたる反日諷刺漫畫一
- 一、「蘇聯に於ける選舉」ポスター
- 一、「ポリティビューロー」
- 一、日獨防共協定調印寫眞
- 一、條約寫眞 邦文二、獨文二
- 一、中國共產軍の移動狀況を示せる地圖 八

- 1 太平洋労働者
- 2 海員新聞
- 3 世界水上運輸労働者統一大會決議集
- 4 レーニン主義の基礎
- 5 労働者夜話
- 6 日本労働組合協議會
- 7 労働者の統一戦線
- 8 日本労働者同志諸君に訴ふ
- 9 船内委員會の組織と革命反對派の組織に就いて
- 10 プロフィンテルン闘争の十週年
- 11 日本のプロレタリアの反戦闘争
- 12 日帝滿洲占領の真相
- 13 同志ロフスキー並に田中の演説
- 14 闘争的 I L S I I か？ 裏切り I T F か？
- 15 北洋漁業問題と日本漁業労働者
- 16 なぜ革命的労働組合を造らねばならぬか？
- 17 國際赤色労働組合インターナショナル
- 18 日本海員の當面の任務
- 19 帝國主義戦争に反對して闘争せよ
- 20 日本労働者諸君に與ふ
- 21 日本に於ける情勢と日本共產黨の任務に關するテーゼ
- 22 失業労働者を組織せよ
- 23 交通運輸労働者と戦争反對闘争
- 24 支那ソヴェートと赤軍

- 25 ソヴェート同盟の労働者と日本の労働者
- 26 ソヴェート同盟の漁業の發展について
- 27 ソヴェート同盟労働階級の勝利
- 28 一九三二年のメーデーを迎ふるに當つて太平洋沿岸諸國のプロレタリアートに與ふ
- 29 撤文・其他
- B 在莫斯科外國労働者出版所發行宣傳印刷物
- 30 十月革命の第拾六週年記念日に際して
- 31 日本問題に關する文書集
- 32 世界革命の老戰士 片山潛
- 33 中央委員會の活動に關する報告
- 34 テーゼ及び決議
- 35 吾々はソヴェート國家の防衛を益々固めやう
- 36 日本に於ける階級的労働組合運動の決定的任務
- 37 レーニンの遺言
- 38 片山潛は叫ぶ
- 39 東洋民族大學の政治的任務
- 40 ソヴェート同盟の平和政策の勝利
- 41 ボルンエグイキ化途上の共產黨
- 42 戦争に對するプロレタリアートの態度
- 43 政府の活動に關する報告演説
- 44 共產主義者

- 45 決議集(國際共產黨第七回世界大會)
- 46 印度、印度支那共產黨の任務
- 47 ソヴェート憲法の改正について
- 48 ドイツのファシストは何を約束し、何を與へたか？
- 49 ファシズムに反對する労働階級
- 50 社會主義社會建設の首領
- 51 同志スターリンの二つの演説
- 52 植民地及び半植民地諸國に於ける革命運動と共產黨の職務について
- 53 計畫と吾々の諸任務
- 54 極東に於ける戦争の危険と労働者、農民
- 55 戦争と飢饉と無權利の支配制度に對して闘争する日本共產黨
- 56 同志スターリンとロイ・ハワード氏との會談
- 57 カモ(革命家の一生)
- 58 豚群
- 59 部署
- 60 レーニン
- 61 コルホーズによつてゆたかな生活へ
- 62 三日兵
- 63 前哨
- 64 戦ひ
- 65 控死
- 66 今や赤軍は未だ曾つてなかつたほどに強い
- 亞米利加を通じて爲されたる宣傳印刷物

- 67 労働新聞
- 68 ホワイ・コムニズム
- 69 ソシアリスト・プランニング・イン・ソヴェートロシア
- 70 ホワット・イズ・コムニズム
- 71 デイリー・ワーカー
- 72 ザ・パイロット
- 73 マリタイム・プレッテン其他

(2) 露領内に於ける對日宣傳網

(3) 對日滿北支赤化線

(4) 支那に於ける宣傳ポスター

(5) 抗日思想宣傳印刷物

A 事 變 前

排日教科書

B 事 變 後

(イ) 報 類

- 1 蘆溝橋事件畫刊
- 2 戦時畫報
- 3 戦時畫報
- 4 戦時畫報
- 5 戦時生活
- 6 抗日畫報
- 7 抗日畫報
- 8 抗日畫報
- 9 救國畫報
- 10 婦女生活

- 11 血戰畫報
- 12 戦時畫報
- (ロ) パンフレット類
- 13 戦時週報
- 14 烽火
- 15 北戰場
- 16 怎樣清除漢奸
- 17 中日戦争の戰略與戰術
- 18 日本面孔
- 19 保衛蘆溝橋
- 20 怎樣救內地工作
- 21 中國與蘇聯
- 22 蘇聯會那中國慶
- 23 收復山西
- 24 戰時糧食問題解決方法
- 25 火綫
- 26 毛澤東印象記
- (ハ) 新聞雜誌類
- 27 半月
- 28 國月
- 29 抵抗
- 30 前哨
- 31 國開週刊、戦時特刊
- 32 女兵
- 33 戦綫
- 34 文化戰綫
- 35 戦時聯合旬刊
- 36 抗戰半月刊
- 37 戦時婦女

38	中國兒童血	4
39	汗血	4
40	第一報	1
41	文藝週報	1
42	文藝週報	1
43	文藝週報	1
44	宇宙	1
45	抗戰	1
46	抗戰	1
47	抗戰	1
48	抗戰	1
49	抗戰	1
50	抗戰	1
51	抗戰	1
52	抗戰	1
53	抗戰	1
54	抗戰	1
55	抗戰	1
56	抗戰	1
57	抗戰	1
58	抗戰	1
59	抗戰	1
60	抗戰	1
61	抗戰	1
62	抗戰	1
63	抗戰	1
64	抗戰	1
65	抗戰	1
66	抗戰	1

07	救亡日報	17
08	救亡漫畫	3
09	救亡遊藝	3
<b>(6) 抗日宣傳ポスター等</b>		
A 事 變 前		
1 英美日俄太平洋形勢圖		
2 日貨排斥宣傳圖扇		
B 事 變 後		
1 滬甯抗敵戰事畫		
2 華北抗敵戰事畫		
<b>(7) 秘密インク使用の布片</b>		
<b>(8) 共匪の旗と腕章</b>		
<b>(9) 防諜ポスター</b>		
1 外諜の活動狀況		
2 防 諜		

1	勞働爭議に伴ふ犯罪統計	16
1	小作爭議に伴ふ犯罪統計	16
1	無産青年一括	16
1	熱海事件現狀暨其他	16
1	モーゼル銃銃	16
1	防彈チョッキ	16
1	鐵 兜	16
<b>陸軍省新聞班出品</b>		
1	排日ポスター(布地)	10
1	排日ポスター	10
1	ロシヤポスター	10
1	同上(十五枚一組)	10
<b>參謀本部出品</b>		
1	軍事常識	15
1	國防之本義	15
1	告抗倭全體將士第二書	15
1	戰時民衆組織訓練之研究	15
1	抗敵藝術叢書	15
1	告抗戰全軍將士書	15
1	戰時工作綱要	15
1	國軍軍事訓練及國防諸準備實施方案	15
1	革命軍人	15
1	十月革命の第十六週年紀念日に際して	15
1	日本に於ける戦争と革命運動	15
1	新帝國主義戦争に直而して	15

1	ソヴェト支那の爲めに	10
1	反帝國主義戦争運動の日本プロレタリア	10
1	日本及び其の軍備	10
1	レーニン	10
1	國際情勢と「コミンテルン」の任務	10
1	同志スターリンとロイハワード氏との會	10
1	談	10
1	印度、印度支那共産黨の任務	10
1	クロコデル	10
1	コムソモール・ヤポニ	10
1	蘇聯に於けるポスター	10
<b>憲兵司令部出品</b>		
1	軍機保護法に依る寫眞撮影、模寫、録取、測	37
1	量、航空、入港等禁止地域圖示地圖	37
1	外國人の公然の手段に依る我國軍情調査	37
1	表	37
1	要塞に對する外國「スパイ」の活躍(略圖)	37
1	外國スパイ船の狙ひ所(略圖)	37
1	日本婦女とスパイ(略圖)	37
1	映畫脚本、スパイ禍日本	37
1	スパイ戰術秘録	37
1	國民防諜の心得	37
1	外國スパイのトリック寫眞	37
1	秘密インキ使用の布片	37
<b>海軍省法務局出品</b>		
1	小形冊子二十五冊	5
1	友	5

1	戰 時 畫 報	4
1	大衆抗戰畫報	4
1	火 光	4
1	炸 彈	4
1	女 兵	4
1	民衆抗敵畫報	4
1	戰 歌 選 錄	4
1	戰 時 演 劇	4
<b>二、畫報類四十四冊</b>		
1	戰 時 畫 報	2
1	抗 敵 畫 報	2
1	戰 時 畫 刊	2
1	戰 時 生 活	2
1	抗 日 畫 報	2
1	抗 戰 畫 報	2
1	血 戰 畫 報	2
1	萬 有 畫 報	2
1	鐵 血 畫 報	2
1	辛 報 戰 情 畫 刊	2
1	廣 濟 橋 事 件 畫 報	2
<b>三、單行本二十九冊</b>		
1	救 濟 雜 民	2
1	警 衛 知 識	2
1	戰 時 的 婦 女 工 作	2
1	救 護 知 識	2
1	抗 日 必 勝 論	2

1	戰時的宣傳工作	2
1	九國公約和北京會議	2
1	怎樣組織義勇隊	2
1	國共合作的未來	2
1	怎樣運用遊擊戰	2
1	中蘇合作抗日論	2
1	抗日外傳	2
1	八路軍將領列傳	2
1	毛澤東自傳	2
1	抗戰總認識	2
1	日本面孔	2
1	「七君子」事件	2
1	抗日的第八路軍	2
1	失地記 痛	2
1	聯合戰線與中國抗戰	2
1	軍 中 隨 筆	2
1	中日戰爭預測	2
1	抗戰將領印像記	2
1	抗日救國政策	2
1	二萬五千里長征記	2
1	抗戰必勝計畫	2
1	青 紗 帳 裏	2
1	抗戰與覺悟	2
<b>四、雜誌百十部、新聞七十三冊</b>		
1	解 放	3
1	文 摘	3
1	第 一 線	3
1	戰 線	3

文化戰線	一
同周刊	二
救亡情報	三
救亡情報	四
生時存報	五
民族呼聲	六
中國兒童	七
前月進	八
國訊	九
戰時血報	一〇
汗血	一一
戰時教育	一二
世界知識	一三
婦女生活	一四
抗敵特刊	一五
抗敵特刊	一六
抗敵特刊	一七
抗敵特刊	一八
抗敵特刊	一九
抗敵特刊	二〇
抗敵特刊	二一
抗敵特刊	二二
抗敵特刊	二三
抗敵特刊	二四
抗敵特刊	二五
抗敵特刊	二六
抗敵特刊	二七
抗敵特刊	二八
抗敵特刊	二九
抗敵特刊	三〇
抗敵特刊	三一
抗敵特刊	三二
抗敵特刊	三三
抗敵特刊	三四
抗敵特刊	三五
抗敵特刊	三六
抗敵特刊	三七
抗敵特刊	三八
抗敵特刊	三九
抗敵特刊	四〇
抗敵特刊	四一
抗敵特刊	四二
抗敵特刊	四三
抗敵特刊	四四
抗敵特刊	四五
抗敵特刊	四六
抗敵特刊	四七
抗敵特刊	四八
抗敵特刊	四九
抗敵特刊	五〇
抗敵特刊	五一
抗敵特刊	五二
抗敵特刊	五三
抗敵特刊	五四
抗敵特刊	五五
抗敵特刊	五六
抗敵特刊	五七
抗敵特刊	五八
抗敵特刊	五九
抗敵特刊	六〇
抗敵特刊	六一
抗敵特刊	六二
抗敵特刊	六三
抗敵特刊	六四
抗敵特刊	六五
抗敵特刊	六六
抗敵特刊	六七
抗敵特刊	六八
抗敵特刊	六九
抗敵特刊	七〇
抗敵特刊	七一
抗敵特刊	七二
抗敵特刊	七三
抗敵特刊	七四
抗敵特刊	七五
抗敵特刊	七六
抗敵特刊	七七
抗敵特刊	七八
抗敵特刊	七九
抗敵特刊	八〇
抗敵特刊	八一
抗敵特刊	八二
抗敵特刊	八三
抗敵特刊	八四
抗敵特刊	八五
抗敵特刊	八六
抗敵特刊	八七
抗敵特刊	八八
抗敵特刊	八九
抗敵特刊	九〇
抗敵特刊	九一
抗敵特刊	九二
抗敵特刊	九三
抗敵特刊	九四
抗敵特刊	九五
抗敵特刊	九六
抗敵特刊	九七
抗敵特刊	九八
抗敵特刊	九九
抗敵特刊	一〇〇

戰時聯合旬刊	一
戰時特刊	二
國開周報	三
前報	四
宇宙風	五
抗戰情報	六
救亡遊藝	七
救亡遊藝	八
非常情報	九
非常情報	一〇
救亡漫畫	一一
救亡漫畫	一二
抗戰日報	一三
抗戰日報	一四
抗戰日報	一五
抗戰日報	一六
抗戰日報	一七
抗戰日報	一八
抗戰日報	一九
抗戰日報	二〇
抗戰日報	二一
抗戰日報	二二
抗戰日報	二三
抗戰日報	二四
抗戰日報	二五
抗戰日報	二六
抗戰日報	二七
抗戰日報	二八
抗戰日報	二九
抗戰日報	三〇
抗戰日報	三一
抗戰日報	三二
抗戰日報	三三
抗戰日報	三四
抗戰日報	三五
抗戰日報	三六
抗戰日報	三七
抗戰日報	三八
抗戰日報	三九
抗戰日報	四〇
抗戰日報	四一
抗戰日報	四二
抗戰日報	四三
抗戰日報	四四
抗戰日報	四五
抗戰日報	四六
抗戰日報	四七
抗戰日報	四八
抗戰日報	四九
抗戰日報	五〇
抗戰日報	五一
抗戰日報	五二
抗戰日報	五三
抗戰日報	五四
抗戰日報	五五
抗戰日報	五六
抗戰日報	五七
抗戰日報	五八
抗戰日報	五九
抗戰日報	六〇
抗戰日報	六一
抗戰日報	六二
抗戰日報	六三
抗戰日報	六四
抗戰日報	六五
抗戰日報	六六
抗戰日報	六七
抗戰日報	六八
抗戰日報	六九
抗戰日報	七〇
抗戰日報	七一
抗戰日報	七二
抗戰日報	七三
抗戰日報	七四
抗戰日報	七五
抗戰日報	七六
抗戰日報	七七
抗戰日報	七八
抗戰日報	七九
抗戰日報	八〇
抗戰日報	八一
抗戰日報	八二
抗戰日報	八三
抗戰日報	八四
抗戰日報	八五
抗戰日報	八六
抗戰日報	八七
抗戰日報	八八
抗戰日報	八九
抗戰日報	九〇
抗戰日報	九一
抗戰日報	九二
抗戰日報	九三
抗戰日報	九四
抗戰日報	九五
抗戰日報	九六
抗戰日報	九七
抗戰日報	九八
抗戰日報	九九
抗戰日報	一〇〇

主要なる思想事件圖表	一
文化運動華かなりし時代の模様	二
(非合法出版物を維然と積上げ文化運動華かなりし状を示すと同時に我國左翼運動が民衆より游離したるを示す)	三
滿洲國成立繪畫に滿洲事變の勃發と解黨派及び個人的轉向者發生との有機的關係を表現したるもの	四
「思想犯保護觀察法」の發布と新に生誕したる思想犯保護觀察所二十二ヶ所の所在地を示す(一覽圖(電燈應用))	五
保護觀察所と思想犯保護團體の脈絡關係圖	六
農村に於ける思想指導を示す回轉式舞臺セット(千葉縣櫻住村の更生を主題としたる四場面)	七
轉向者に對する金屬部輔導場を示すフィルム式五面繪畫	八
長野縣永明村の教員赤化狀況と其の後の村更生運動繪畫圖表	九
轉向者の願者後援活動狀況一覽	一〇
轉向者の國民精神總動員活動圖表	一一
轉向者の北支建設への協力を示す繪畫一覽	一二
轉向者の設立したる「國民思想研究所」一覽	一三

最近の心境に就て	原本 佐野 學
最近の我が思想的内省について	原本 鍋山 貞親
治安維持法違反受刑者轉向動機百分比比較表	一
治安維持法違反受刑者改換状態別人員表	二
治安維持法違反受刑者改換状態別人員表一比較表	三
治安維持法違反受刑者改換状態別人員表一比較表	四
全受刑者に對する治安維持法違反受刑者の割合	五

抗日救國政策	一
抗日救國須知	二
防共應先須知	三
國家總動員擧要	四
防共講話擧要	五

秘密通信裝置	一
光電式高速度電信裝置	二
磁氣錄音裝置	三
光線電話裝置	四
簡易撥送裝置	五
觀光事業の時局化圖柄	一
東洋觀光會議表現圖	二
思想戰の觀跡より見たる觀光事業百年表	三
觀光宣傳系統圖	四
昭和七年以降國際觀光局宣傳後一覽圖表	五
入國外人統計	六
觀光消費額統計	七
宣傳印刷物(實物)	八
觀光宣傳の觸手	九
觀光事業から見た國際貸借圖	一〇

國際電話株式會社出品

- 一、國際無線電話回線圖
- 二、同 寫真類

日本放送協會出品

- 一、大電力放送模型
- 二、海外放送系統圖
- 三、世界大電力放送局圖
- 四、聽取者數統計圖
- 五、放送種目明示時計

在京八新聞社出品

- 一、殉職せる從軍記者の遺品及び寫真 二〇

陸軍歩兵大佐雨宮巽氏出品

- 一、愛國女子中學生徒作文答案 三三
- 二、黨員守則 一一
- 三、軍人讀訓 一一

赤神良讓氏出品

- 一、世界大戰當時のフランス側ポスター 六

小野秀雄氏出品

- 一、淡川濯余
- 二、内外新聞
- 三、明治維新當時の錦繪
- 一、Rheda Marken
- 一、La Libre Belgique

海軍少佐佐藤豊三郎氏出品

- 一、歐米人民戰線派の主張綜合に依る猶太マツ
- 二、世界征服運動の外観一覽表
- 一、人民戰線運動系統概要一覽表

陸軍歩兵大佐清水盛明氏出品

- 一、U. R. S. S. en construction
- 一、Regards
- 一、L'Humanité (Communisme Espoir du pays)
- 一、Miroir du monde
- 一、Russie d'aujourd'hui
- 一、Le Document
- 一、Lu
- 一、Yu
- 一、Yonkebi
- 一、L'Europe nouvelle

La Correspondance internationale

一、China

高田邦久氏出品

- 一、外蒙古軍事普及用書籍

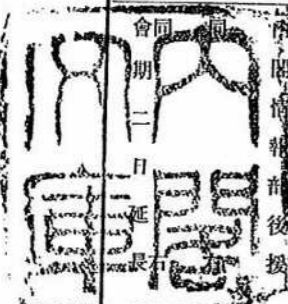
三島海雲氏出品

- 一、ムツソリーニ書翰

以上

各地ニ於ケル思想戰展覽會概況

會場	會期	參觀人員總計	主催廳	記	事
東京 高島屋	自二月二十六日至三月十八日	一日平均 七百三十三萬人	内閣情報部	會期一日延長	
大阪南海屋	自三月十六日至三月二十九日	報告ナク不明	同 右		
京都 丸物百貨店	自三月二十七日至四月九日	同	京都府	内閣情報部後援	
福岡 玉屋百貨店	自四月十九日至五月十二日	同	福岡縣	内閣情報部後援	
佐世保市 玉屋百貨店	自五月十一日至五月二十二日	一日平均 二萬八千四百人	佐世保市	内閣情報部、佐世保鎮守府海軍協會、佐世保支部後援	
佐賀市 玉屋百貨店	自五月二十二日至六月十三日	報告ナク不明	佐賀縣	内閣情報部後援	
熊本 千徳百貨店	自六月十二日至六月二十九日	同	熊本縣	内閣情報部後援	
大分市 トキハ百貨店	自六月二十八日至八月二十五日	一日平均 一萬二千九百人	大分縣	九州新聞社、養加	
札幌市 今井百貨店	自八月二十五日至十月二十四日	報告ナク不明	北海道	九州新聞社、養加	
京城市 三越京支店	自十月二十四日至十一月十五日	二十七萬人	朝鮮總督府	同	



昭和十三年十二月二十日印刷  
昭和十三年十二月二十五日發行

(非賣品)

發行者兼 內閣情報部

印刷所 東京市京橋區京橋二丁目十三番地 東亞印刷株式會社東京支店

印刷人 東京市京橋區京橋二丁目十三番地 山田浩通

不許  
無斷  
轉載  
複製